

# 臨地実習要項

令和6年度



学籍番号		氏名	
------	--	----	--

組合立静岡県中部看護専門学校



\* \* \* \* \*      目      次      \* \* \* \* \*

I. 臨地実習の目的・目標	1
II. 実習方法・実習評価	1, 2
III. 令和6年度 年間実習計画	3
IV. 基礎看護技術到達水準と習得について	4
V. 臨地実習における倫理的態度と行動	9
VI. 実習における感染症対策について	18
VII. 3病院の注意事項	19
VIII. 臨地実習	
基礎看護実習 I	22
基礎看護実習 II	30
基礎看護実習 III	38
地域・在宅看護実習 I	47
地域・在宅看護実習 II	52
地域・在宅看護実習 III	59
成人・老年看護実習 I	67
成人・老年看護実習 II	77
母性看護実習	87
小児看護実習	95
精神看護実習	103
統合実習 I	115
統合実習 II	119
IX. 実習施設一覧	128

# ディプロマポリシー

## I. 実践する力

1. 感じる力・考える力・伝える力・振り返る力を活用し思考しながら、看護を必要とする人々にとって最善な看護とは何かを創造し、実践につなげる。
2. 実践した看護実践を振り返り、さらによりよい看護を探求する。
3. 状況に応じてアセスメントし、健康状態の変化、リスクを判断する。

## II. 思いやる力

1. 自己を顧みて、ありのままの自分を受け入れる。
2. 相手の立場に立って、相手の状況や感情を理解する。

## III. 責任と役割を果たす力

1. 看護専門職者として、人の生命(いのち)をかけがえのないものとして尊重する。
2. 看護専門職者として、あらゆる人の権利を尊重する。
3. 看護専門職者として、状況に応じて良識ある行動をとる。
4. 看護専門職者として、自己の力量に応じて判断し、その時の最良を考えて行動する。

## IV. 地域社会に貢献する力

1. 地域における看護専門職としての役割を理解する。
2. 地域の特性を知り、その地域で暮らす人々の生活に適した健康支援のあり方について考える。
3. 地域における保健医療福祉チームの一員として情報交換する。
4. 多職種の機能、役割を理解し尊重する。

## V. 看護を探求する力

1. 看護を取り巻くあらゆるものに関心を持ち続ける。
2. これまでの学習経験を踏まえて、自己の看護観を明確にする。

## I. 臨地実習の目的・目標

### 1. 臨地実習の目的

本校の臨地実習は、看護を必要としている人々の健康の回復、維持増進、及びあらゆる場面でのその人らしい生活や人生を支援するための思考力、判断力を身につけた看護職への成長を目指している。

ディプロマ・ポリシーの「実践する力」「責任と役割を果たす力」「地域社会に貢献する力」は特に、「思いやる力」による様々な人々との対人関係を基礎とした関係性の中で学修する。これらの積み重ねが「看護を探究する力」の土台となる。

ディプロマ・ポリシーの力は、必要な知識・技術・態度を統合しながら実践し、振り返りを活かすプロセスの連続性によって培われる。

### 2. 臨地実習目標

- 1) 看護を必要としている人々を尊重し、限りない関心を寄せ相互関係を構築する。
- 2) 看護を必要としている人々との関わりを通して、対象の全体を理解しニーズを捉える。
- 3) 看護を必要とする人々の状態、状況をアセスメントし、安全、安楽に看護を実践する。
- 4) 看護専門職としての責任と自覚を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として連携、協働について理解を深める。
- 5) 看護を必要とする人々の意思を尊重し、よりよい選択ができるよう調整する。
- 6) 自己の心身の健康を管理し、振り返りを活かしながら看護実践力を高める努力をする。

※ 実習目標にある「人々」とは、成長発達段階、健康障害の有無や程度に関わらず、多様な対象を意味する。

## II. 実習方法・実習評価

### 1. 実習時間

- 1) 臨地実習は、1時間を45分とする。
- 2) 原則として、土曜日、日曜日、祭日は実習を行わない。やむを得ず実習時間を延長する場合は、実習指導責任者および教員の許可を得る。

### 2. 実習評価

- 1) 実習評価は各実習時間の5分の4以上の出席のある者につき履修を認める。

2) 病気その他やむを得ない理由によって実習の必要時間数に満たない場合は、願い出により補習実習を行う。(補習実習の項を参照)

### 3) 実習評価基準

実習目標の到達度をルーブリック評価表の基準に基づき評価する。事前に評価基準と評価基準を確認し参考にする。実習途中は中間評価を行い客観的に見つめることで課題を見出し課題達成に繋げる。

4) 実習評価の評定について該当実習における実習要項に基づいて行う。

成績・点数	評定
90点以上	秀
80点以上 90点未満	優
70点以上 80点未満	良
60点以上 70点未満	可
60点未満	不可

## 3. 補習実習について

1) 補習対象者は以下の者とする。

①診断書の提示があり、5分の4以上の出席に満たない者

②特別欠席を承認された者

2) 補習が必要な学生は、補習願いを提出する。

3) 補習実習が複数となった学生は補習できない場合がある。

4) 補習実習の日時・場所・方法については、その実習の担当教員が立案し、教員会議にて決定する。

## 4. 欠課について

1) 臨地実習では遅刻・早退ではなく、1時間単位の欠課となる。

## 5. 再履修について

1) 臨地実習の構成は他の科目の学習進度や学生の習熟度に合わせて効果的に学習できるように段階的に構築されているため、実習評価が不可の学生は次の段階の実習へ進むことができない。

2) 実習評価が不可の場合は、次年度再履修を行うことができる。

### Ⅲ. 令和6年度 年間実習計画

月	行事	1年生	2年生	3年生
4月	5 始業・履修 ガイダンス 8 入学式 入学生オリエンテーション 健康診断 新入生歓迎スポーツ祭			
5月	10 戴帽式			8~24 成人・老年看護実習 I 5/31~6/7 統合実習 I
6月				13~25 1クール目 6月期論実習
7月			17~30 基礎看護実習 II	1~11 2クール目 7月期実習
8月	夏季休暇 オープンキャンパス			
9月	2 ケーススタディ発表会	17~24 地域・在宅看護実習 I		4~17 3クール目 9月論実習 9/24~10/4 4クール目 9.10月期実習
10月	5 桂花祭 11 推薦入試		15~28 地域在宅看護実習 II	10/24~11/6 5クール目 10.11月期実習
11月				12~22 6クール目 11月期実習 11/26~12/6 統合実習 II
12月	12・13 一般入試 冬季休暇			
2025年	始業			
1月		15~28 基礎看護実習 II		
2月	第114回看護師国家試験		3~17 基礎看護実習 III	
3月	1 卒業式 春季休暇 国家試験合格発表			

静岡県中部看護専門学校

## IV. 基礎看護技術到達水準と習得について

### 1. はじめに

看護は健康障害を抱える人々に必要なケアについてアセスメントし実践する行為である。そのため看護実習では、各対象と直に接し看護の必要性を考え、その方に適した看護実践を行うことが重要な学習となる。このように、看護技術は単に実施することが目的ではなく、必要性を理解した上で目的を持って実施することに意味がある。そして、この看護実践力はプロの看護師として必要不可欠なものである。看護実践力はコミュニケーション技術を含めた基礎看護技術を基盤としアセスメントを加えて、対象に適した方法へと応用することで成り立っている。

援助に必要な看護技術の多くは学生として実習の中で経験できることが沢山ある。私たちの学習を検討している厚生労働省では、実際の臨床との格差が少なく卒業後にスムーズに看護が行える為のガイドラインを示している。これに伴い、本校での到達目標と学習できる場を合わせて提示した(P6～8看護技術の到達度 参照)。講義、校内実習、演習などの経験を踏まえ積極的に看護技術を習得することが大切である。

### 2. 習得方法と取組姿勢

#### 1) 講義と校内実習

- (1) 基礎看護技術は目的や根拠を十分に理解し、単なる手順ではなく形態機能学等を基盤とした原理原則に基づいた方法を学習する。
- (2) 既習した看護技術は対象への安全安楽が保証できる正確な技術になるまで自主的に練習する。
- (3) 看護技術は看護を必要とする対象者に提供するものであり、反応を確認しながら実施出来る事が求められる。そのため、一方的なものでなく観察力・コミュニケーション力・アセスメント力を磨き実践力の向上につながるよう全体的な力を習得することが必要である。
- (4) 看護技術習得には練習が必要になる。練習は患者役、あるいは観察者役など学生が互いに協力し助言しあい、それぞれの立場に立った意見を交換しながら向上していくことが必要である。

#### 2) 臨地実習

- (1) 各看護実習前には、環境整備やバイタルサイン測定、移動援助、清潔援助などの生活援助技術はもとより、対象者の特性に合わせて必要な看護技術の学習、練習を十分に行って臨むこと。
- (2) 各看護実習では、実施できる看護技術を学習し、計画した「援助の目的と方法」をもとに指導者や教員などに相談し、安全安楽等の視点で助言を得て確認してから実施する。実施は指導者あるいは教員等と共に行う。
- (3) 実施後は振り返りを十分に行い、実践できた事は到達水準レベルに応じて経験録

に記入する。実習後は担当教員に提出し確認してもらう。

- (4) 実習を重ねながら、自己の看護技術経験を確認し、経験の範囲を広げていく。
- (5) 3年次、統合実習Ⅱの前に自己の看護技術経験の最終的な振り返りを行い、実習期間中に経験を広げる。
- (6) 卒業後も経験録を自己管理し、必要があれば参考にしながら技術習得に励む。

## 看護技術の卒業時の到達レベル

### <演習>

I：モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる II：モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる

### <実習>

I：単独で実施できる II：指導の下で実施できる III：実施困難な場合は見学する O状況に応じて体験

	No.	技術の種類	どこで学習できるのか			卒業時の到達レベル	
			講義	演習	臨地実習	学内演習	実習
1. 環境調整技術	1	快適な病床環境の整備	看護方法 I	看護方法 I	全領域	I	I
	2	臥床患者のリネン交換	看護方法 I	看護方法 I	全領域	II	II
2. 食事の援助技術	3	食事介助（嚥下障害のある患者を除く）	看護方法 I	看護方法 I	全領域（母性除く）	I	I
	4	食事指導	看護方法 I, 看護方法 IV, 臨床栄養, 成人	成人	全領域（母性除く）	II	II
	5	経管栄養法による流動食の注入	看護方法 VI, 地域・在宅	看護方法 IV	小児, 成人, 老年, 地域・在宅, 統合	I	II
	6	経鼻胃チューブの挿入	看護方法 VI, 地域・在宅	看護方法 IV	主に成人, 老年, 地域・在宅, 統合	I	III
3. 排泄援助技術	7	排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）	看護方法 II, 老年, 母性, 小児, 地域・在宅	看護方法 II, 老年, 母性, 小児, 地域・在宅	全領域（母性除く）	I	II
	8	膀胱留置カテーテルの管理	看護方法 VI, 老年, 地域・在宅	看護方法 VI	主に成人, 老年, 地域・在宅, 統合	I	III
	9	導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	看護方法 VI, 老年, 地域・在宅	看護方法 VI	主に成人, 老年, 地域・在宅, 統合	II	III
	10	浣腸	看護方法 VI	看護方法 VI	主に成人, 老年, 地域・在宅, 統合	I	III
	11	摘便	地域・在宅	地域・在宅	主に成人, 老年, 地域・在宅, 統合	I	III
	12	ストーマ管理	成人	成人	主に成人, 老年, 地域・在宅, 統合	II	III
4. 活動・休息援助技術	13	車椅子での移送	看護方法 I, 地域・在宅	看護方法 I, 地域・在宅	全領域（地域・在宅を除く）	I	I
	14	歩行・移動介助	老年	老年	全領域（母性除く）	I	I
	15	移乗介助	看護方法 I, 地域・在宅	看護方法 I, 地域・在宅	全領域（母性除く）	I	II
	16	体位変換・保持	看護方法 I, 地域・在宅	看護方法 I, 地域・在宅	主に基礎, 成人, 老年, 地域・在宅, 統合	I	I
	17	自動・他動運動の援助	地域・在宅	地域・在宅	主に基礎, 成人, 老年, 地域・在宅, 統合	I	II
	18	ストレッチャー移送	看護方法 I	看護方法 I	成人, 老年, 統合	I	II
5. 清潔・衣生活援助技術	19	足浴・手浴	看護方法 II	看護方法 II	全領域（小児除く）	I	I
	20	整容	看護方法 II, 小児, 母性	看護方法 II, 小児, 母性		I	I
	21	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	看護方法 II	看護方法 II	全領域	I	I
	22	入浴・シャワー浴の介助	地域・在宅	地域・在宅	主に基礎, 小児, 成人, 老年, 精神, 統合	I	II
	23	陰部の保清	看護方法 II, 老年	看護方法 II, 老年	全領域	I	II
	24	清拭	看護方法 II	看護方法 II	全領域	I	II
	25	洗髪	看護方法 II	看護方法 II	主に基礎, 成人, 老年, 統合	I	II
	26	口腔ケア	看護方法 II	看護方法 II	全領域（母性除く）	I	II

	No.	技術の種類	どこで学習できるのか			卒業時の到達レベル	
			講義	演習	臨地実習	学内演習	実習
5. 清潔・衣生活援助技術	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	看護方法Ⅱ	成長する演習	全領域	Ⅰ	Ⅱ
	28	新生児の沐浴・清拭	母性	母性	母性, 小児	Ⅰ	Ⅲ
6. 呼吸循環を整える技術	29	体温調節の援助	看護方法Ⅷ	基礎方法Ⅷ	全領域	Ⅰ	Ⅰ
	30	酸素吸入療法の実施	看護方法Ⅷ, 地域・在宅	基礎方法Ⅷ	全領域(精神除く)	Ⅰ	Ⅱ
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	看護方法Ⅷ	基礎方法Ⅷ	主に基礎, 小児, 成人, 老年, 統合	Ⅰ	Ⅱ
	32	口腔内・鼻腔内吸引	看護方法Ⅷ	基礎方法Ⅷ	主に小児, 成人, 老年, 地域・在宅, 統合	Ⅱ	Ⅲ
	33	気管内吸引	看護方法Ⅷ, 地域・在宅	基礎方法Ⅷ	主に基礎, 成人, 老年, 地域・在宅, 統合	Ⅱ	Ⅲ
	34	体位ドレナージ	基礎方法Ⅶ, 成人	成人	主に小児, 成人, 老年, 統合	Ⅰ	Ⅲ
7. 創傷管理技術	35	褥瘡予防ケア	成人	成人	主に基礎, 成人, 老年, 精神, 統合	Ⅱ	Ⅱ
	36	創傷処置(創洗浄, 創保護, 包帯法)	看護方法Ⅳ, 成人, 災害看護	看護方法Ⅳ, 成人, 災害看護	主に基礎, 成人, 老年, 精神, 統合	Ⅱ	Ⅱ
	37	ドレーン類の挿入部の処置	成人	成人	主に基礎, 小児, 成人, 老年, 統合	Ⅱ	Ⅲ
8. 与薬の技術	38	経口薬(バツカル錠・内服薬・舌下錠)の投与	看護方法Ⅳ, 臨床薬理	基礎方法Ⅳ	主に基礎, 成人, 老年, 統合	Ⅱ	Ⅱ
	39	経皮・外用薬の投与	看護方法Ⅳ, 臨床薬理	基礎方法Ⅳ	主に基礎, 成人, 老年, 精神, 統合	Ⅰ	Ⅱ
	40	坐薬の投与	看護方法Ⅵ, 臨床薬理	基礎方法Ⅵ	主に基礎, 小児, 成人, 老年, 統合	Ⅱ	Ⅱ
	41	皮下注射	看護方法Ⅶ, 臨床薬理	基礎方法Ⅶ	主に基礎, 小児, 成人, 老年, 統合	Ⅱ	Ⅲ
	42	筋肉内注射	看護方法Ⅶ, 臨床薬理	基礎方法Ⅶ	主に基礎, 成人, 老年, 統合	Ⅱ	Ⅲ
	43	静脈路確保・点滴静脈内注射	看護方法Ⅶ, 臨床薬理	基礎方法Ⅶ	主に基礎, 小児, 成人, 老年, 統合	Ⅱ	Ⅲ
	44	点滴静脈内注射の管理	看護方法Ⅶ	看護方法Ⅶ	主に基礎, 小児, 成人, 老年, 統合	Ⅱ	Ⅱ
	45	薬剤等の管理(毒薬, 劇薬, 麻薬, 血液製剤, 抗悪性腫瘍薬を含む)	看護方法Ⅶ	看護方法Ⅶ	小児, 精神, 統合	Ⅱ	Ⅲ
46	輸血の管理	看護方法Ⅶ	看護方法Ⅶ	○	Ⅱ	Ⅲ	
9. 救命救急処置技術	47	緊急時の応援要請	看護方法Ⅷ, 災害看護	看護方法Ⅶ	○	Ⅰ	Ⅰ
	48	一次救命処置(Basic Life Support:BLS)	看護方法Ⅷ	看護方法Ⅷ	○	Ⅰ	Ⅰ
	49	止血法の実施	災害看護	災害看護	○	Ⅰ	Ⅲ
10. 症状・生体機能管理技術	50	バイタルサインの測定	看護方法Ⅲ	看護方法Ⅲ	全領域	Ⅰ	Ⅰ
	51	身体計測	母性, 小児	母性, 小児	母性, 小児, 精神	Ⅰ	Ⅰ
	52	フィジカルアセスメント	看護方法Ⅲ	看護方法Ⅲ	全領域	Ⅰ	Ⅱ
	53	検体(尿, 血液等)の取り扱い	看護方法Ⅶ, 小児	看護方法Ⅶ	主に小児, 成人, 老年, 統合	Ⅰ	Ⅱ
	54	簡易血糖測定	看護方法Ⅶ	看護方法Ⅶ	主に基礎, 小児, 成人, 老年, 統合	Ⅱ	Ⅱ
	55	静脈血採血	看護方法Ⅶ	看護方法Ⅶ	小児	Ⅱ	Ⅲ
	56	検査の介助	看護方法Ⅶ, 小児	小児	小児	Ⅰ	Ⅱ

	No.	技術の種類	どこで学習できるのか			卒業時の到達レベル	
			講義	演習	臨地実習	学内演習	実習
11. 感染予防技術	57	スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い	看護方法Ⅳ	看護方法Ⅳ	全領域	Ⅰ	Ⅰ
	58	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱	看護方法Ⅳ	看護方法Ⅳ	全領域	Ⅰ	Ⅰ
	59	使用した器具の感染防止の取り扱い	看護方法Ⅳ	基礎方法Ⅳ	全領域	Ⅰ	Ⅱ
	60	感染性廃棄物の取り扱い	看護方法Ⅳ	看護方法Ⅳ	全領域	Ⅰ	Ⅱ
	61	無菌操作	看護方法Ⅵ	看護方法Ⅵ	○	Ⅰ	Ⅱ
	62	針刺し事故の防止・事故後の対応	看護方法Ⅶ	看護方法Ⅶ	○	Ⅰ	Ⅱ
12. 安全管理の技術	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	看護方法Ⅳ, 看護方法Ⅶ, 医療安全	医療安全	○	Ⅰ	Ⅰ
	64	患者の誤認防止策の実施	看護方法Ⅳ, 看護方法Ⅶ, 医療安全	看護方法Ⅳ, 看護方法Ⅶ, 医療安全	全領域	Ⅰ	Ⅰ
	65	安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）	看護方法Ⅰ, 老年	看護方法Ⅰ	全領域	Ⅰ	Ⅱ
	66	放射線の被ばく防止策の実施	看護方法Ⅶ	基礎方法Ⅶ	○	Ⅰ	Ⅰ
	67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	看護方法Ⅶ	基礎方法Ⅶ	○	Ⅱ	Ⅲ
	68	医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理	看護方法Ⅶ, 看護方法Ⅷ, 成人	看護方法Ⅷ, 成人	○	Ⅱ	Ⅲ
13. 安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	看護方法Ⅰ	看護方法Ⅰ	全領域	Ⅰ	Ⅱ
	70	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	看護方法Ⅷ, 精神	看護方法Ⅷ, 精神	全領域	Ⅰ	Ⅱ
	71	精神的安寧を保つためのケア	全領域	臨床判断Ⅲ	全領域	Ⅰ	Ⅱ

## V. 臨地実習における倫理的態度と行動

### 1. はじめに

私たち看護者は、対象者にとってより良い看護を提供することを目的とし、看護実践や専門職者としての責任と役割に関する行動指針を示した「看護者の倫理綱領」を遵守しなくてはならない。臨地実習の場で看護学生として対象者を看護する私たちも例外ではなく、倫理綱領に従い行動しなくてはならない。

「看護者の倫理綱領」を理解し、以下に示す内容を臨地実習の場で遵守し、看護専門職者としての倫理観を身に付けてほしい。

### 2. 看護学生として守るマナー・ルール

- 1) 実習開始時間の10分前には病棟に入り実習準備をし、スムーズに実習が開始できるよう調整する。
- 2) 実習開始・終了時には、受け持ち患者に挨拶し、関係性の構築に努める。
- 3) 欠席、遅刻する場合は、本人が必ず実習開始前に実習担当教員、学校、実習施設に連絡する。連絡の方法、時間等については、実習担当教員の指示に従う。
- 4) 実習中は常に所在を明らかにし、実習場を離れる時は報告又は申し送りをする。
- 5) 学生室、更衣室、実習用備品等、実習施設の管理下にあるものは大切に使用する。備品の不足や破損があった場合は、速やかに実習指導者に報告する。
- 6) 服装・髪型・頭髪のカラーについては学則に則り、品位を保ち清潔感があるよう整える。
- 7) 実習上には決められた交通手段で移動する。原則として公共交通機関を利用する。どうしても公共交通機関を利用しての通学が困難で自動車通学が必要な場合は、所定の手続きを実習開始1週間前までに行う。通学中は絶対に相乗りはしない。また、やむを得ず家族等に送迎を依頼する場合は、病院ごとに決められた場所で乗降する。
- 8) 実習施設内のエレベーターの使用は緊急時や混雑している時を除き認めるが、なるべく階段を使用する。
- 9) 駐輪場、出入口等は実習施設から指示された場所を利用する。
- 10) 学生であることを自覚し、言葉使いや態度に気をつける。  
(場や状況に合わせた言動に心がける。学生同士、愛称で呼び合わない。)
- 11) 実習施設内で電話に対応することがあった場合は、実習している病棟(施設)と身分、氏名を告げ、受けた用件は責任を持って伝達、対応する。
- 12) ロッカーや学生室の鍵を借用する場合は責任を持って管理する。有事は、速やかに教員または実習指導者へ報告・相談する。
- 13) 原則として、貴重品は実習病棟、実習現場に持ち込まない。更衣室等で責任をもって保管する。紛失等のトラブル発生に関する責任は学生個人とする。
- 14) 実習場で出た個人のゴミは各自で持ち帰る。
- 15) 3病院では、コピー機の使用は使用簿に記入し、実習終了後に集金する。コピーは(代金は病院の決まりに準ずる)、公費と私費に分けて記入する。
- 16) 3病院の図書の利用は、当該施設の貸し出し方法を厳守する。
- 17) 実習施設における情報通信機器に関しては、以下のルールを遵守する。
  - (1) 実習病棟でのタブレットの使用は、電子テキストのみとする。
  - (2) 実習施設では、学生個人の情報通信機器(タブレット、スマートフォン等)の使用、および充電をしない。

### 3. 人々の尊厳と権利を守る

#### 1) 個人情報の取り扱い

- (1) 受け持ち患者は、実習指導責任者(病棟師長)の承認と患者の同意を得た上で決定する。
- (2) 万が一、学生が受け持つことが患者にとって負担となると判断された場合は、実習途中でも受け持ち患者を変更する。
- (3) 病院職員や教員に報告・相談する場合は、必ずナースステーション内で行う。
- (4) 実習中に知り得た患者に関する情報については、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。
  - ① SNS 等へ書き込むことは多数の人に情報を拡散させ、個人を特定される可能性が高い為、絶対に行わない。
  - ② カンファレンス等必要時以外は口外しない。
  - ③ 通学途中の電車やバスの中で実習に関係する資料、記録物を取り出さない。  
(家族による送迎の自家用車内であっても取り出してはいけない。)
  - ④ 患者の個人情報に関わる話は、絶対にしない。(実習施設内の必要な場や状況は除く)
- (5) 病院職員に関する情報も個人情報であると意識し、言動に注意する。
- (6) 診療録の取り扱い
  - ① 診療録(カルテ)のコピーは行わない。
  - ② 診療録(カルテ)の取り扱いは職員の許可を得て使用し、使用後は所定の場所に戻す。
  - ③ 電子カルテの ID・パスワードが渡されたら、各実習施設の約束を遵守し厳重に管理する。

#### 2) 実習記録記載・保管に関わる注意事項

- (1) 実習に関わる記録物や資料を実習施設で持ち運ぶ場合は、実習用のトートバックを各自で用意し、全て一括して保管・移動する。  
(トートバックは、華美でないもの、淡色・単色のものとする)
- (2) 実習記録物は、指定された場所に保管・収納する。
- (3) 自席を離れる際には、実習記録物など個人の持ち物を必ずトートバックに収納し、所定の荷物置き場に片づける。学生室、実習施設内(病棟内)の机の上に放置しない。
- (4) 実習記録物、資料、ポートフォリオ、メモ帳など、実習施設に持ち込む物すべてに
  - ① 学校名 ② 学籍番号 ③ 氏名を必ず記載する。
- (5) 実習で使用するメモ帳については、以下のルールを守る。
  - ① メモ帳は、実習衣のポケットまたはナースポシェットに収まるサイズを使用する。
  - ② メモ帳は、リングコイル型のもは使用しない。
  - ③ メモ帳の片側上部に穴をあけ、紐、伸縮性リールなどを装着し、実習衣のポケットまたはナースポシェットに結着して使用する。  
(メモ帳、紐・リール等は各自で用意する。)
- (6) 実習記録には患者を特定する内容は記載しない。

#### <記載例>

患者名	Aさん、Bさんなど特定できないイニシャルにして記載
性別	男性、女性
年齢	70歳代、70歳代前半、70歳代後半等とする。正式な年齢は記載しない。ただし小児の場合は年齢を記載する。
住所	〇〇市在住
職業	営業職、事務職など
診断名	左大腿骨頭部骨折、腎不全など正式な診断名を記載する。
家族構成	〇人家族 妻 50歳代 子ども 2人 20歳代など特定されにくい工夫をする。

- (7) 実習記録には実習場所を特定する内容は記載しない。(施設名・病棟)
- (8) 実習記録はカンファレンスや事例発表に提出する資料を除いてコピーを禁止する。  
それらの資料をコピーする場合は、実習施設で指定されているコピー機、または学内のコピー機のみ使用する。なお、コピーの原本を絶対に忘れない。
- (9) 実習中は必ずメモ帳を携帯し、行った看護処置はメモをして確実に報告し記録する。  
しかし場面においては患者の前でメモをすることが適切かどうかを考え行動する。
- (10) 実習記録物への記載は、実習施設、自宅、学校以外の場では行わない。
- (11) 毎日の実習終了時に、実習記録が全て揃っているか、実習グループメンバーで確認し合う。無い場合は、その日のうちに指導者・教員に確認を取る。
- (12) 電子カルテ上の情報は原則としてプリントアウトしない。施設によっては実習指導者が行い手渡していただけることがあるが、実習時間内に返却する。
- (13) 実習施設の資料（電子カルテの内容等）、実習に関わる記録物、資料をスマートフォンやタブレットで写真撮影は絶対にしてはならない。
- (14) 学生間での記録の貸し借りは絶対にしない。また、メールやファックスでのやり取りや携帯への入力、保存は絶対にしない。
- (15) 原則として、実習における学生自身の学びをまとめる場合にのみパソコンを使用してもよい。患者の個人情報を含む記録物に関してはパソコンを使用してはならない。
- (16) 各自のパソコンで作成した実習に関する記録物は、提出し終えたら、USB やハードディスクに保存せず、完全に消去する。
- (17) 実習終了後、患者の個人情報が記載されている記録物は、実習終了後学校で保管する。それ以外の記録物は学生の責任の下で管理・処分する。
- ① 学校保管の対象となる記録物：患者の個人的なデータ、情報が記載された記録物  
・ 患者の生活歴、生育歴、病歴などの記載がある記録物  
・ 患者が特定できる内容がある記録物  
例) 全体像、関連図、アセスメント用紙、実習ノート、実習中のメモノート等
- ② 学生自身が保管する記録物：評価表、総括表  
実習終了後、実習担当教員から全ての実習記録物が返却される。返却された記録物のうち、「評価表」と「総括表」を抜き取り自己保管する。それ以外の記録物は、返却日当日または翌日に担当教員へ戻す。  
※尚、学校に保管している実習記録物は、在学期間中申し出があれば借用可能。卒業時には全て破棄する。

### 3) 事故の防止・発生時の対処

(1) 看護学生が実習場で体験し得る事故には以下のようなものがある。

A. 学生の心身に危害が及びリスクのある事故	B. 学生が加害者となるリスクのある事故
1) 針刺し等血液・体液曝露による HBV、HCV、HIV などの感染。 2) 患者との接触による感染症発症 疥癬、流行性角結膜炎、小児伝染性疾患（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、百日咳）、結核、インフルエンザ、感染性腸炎、マイコプラズマ感染症、新型コロナウイルス感染症など 3) 外傷、被曝等 熱傷、訪問移動中の交通外傷 など 4) 暴力被害（ハラスメントを含む）	1) 患者の身体危害に関する事故 転倒、転落、損傷、誤薬、誤配膳など 2) 学生が感染源となる事故 流行性角結膜炎、小児伝染性疾患（麻疹、風疹、水痘、流行性耳鼻腺炎、百日咳）、結核、インフルエンザ、感染性胃腸炎、マイコプラズマ感染症、新型コロナウイルス感染症など 3) 物品の破損・紛失（訪問先、施設） 4) 個人情報の漏洩

\* 「患者」とは、ここでは便宜上の表記とし、健康であるか病気であるかを問わず、保健医療サービス等の利用者を指す。

## (2) 事故防止対策

- ① 医療行為に関しては、医師の指示と指示簿を必ず確認し、指導者の監督の下で実施する。
- ② 看護行為に関しては、原則として指導者もしくは教員の指導の下で実施し、単独で行わない。
- ③ 医療過誤を起こさないように、看護行為は患者の個別性をふまえ安全・安楽に配慮した援助計画を立案しシミュレーションを行ってから実施する。とっさの判断が必要な状況においては、教員や指導者に相談し、自己判断で行わないことで患者と自分を守る。
- ④ スタンダードプリコーションを遵守する。
  - ・ ナースポシットにアルコールジェルを装備し、患者との接触前後、処置の前、手袋の装着前後にはアルコールジェルで手指消毒を行う。
  - ・ 患者との接触の前後、処置の前後、手袋装着の前後には手洗いをを行う。
  - ・ 他の部位への二次感染を防ぐために同一患者に対しても処置ごとに手洗いまたは、アルコールジェルにより手指消毒を行う。
  - ・ 処置等で感染の可能性がある場合は各実習病院で決められた手袋・マスク・ガウンなどの防護用具を適切に使用する。

## (3) 事故発生時の対応

※事故発生時は、P16『実習事故発生時フローチャート』に基づき行動する。

### A. 学生の心身に危害が及ぶリスクのある事故

- ① 針刺し等血液・体液曝露による HBV、HCV、HIV 感染等のリスク
  - ・ 直ちに以下の応急処置を行う。
    - 皮膚が無傷 → 流水とせっけんを用いて十分に洗い流す。
    - 針刺し → 流水洗浄後、消毒用エタノール等で消毒する。
  - ・ 応急処置後、患者の感染症の有無を確認する。
  - ・ すみやかに担当教員または実習指導者へ報告し、指示に従う。
  - ・ ユニフォームが汚染した場合はそのまま着用せず、交換する。
- ② 患者との接触による感染症発症のリスク
  - ・ 実習中に患者に感染症が発見された場合、受け持ち学生および当該患者と接触した可能性のある他の学生は、すみやかに担当教員または実習指導者へ報告し、指示に従って行動する。
  - ・ 実習終了後に患者に感染症が判明し、学校から連絡があった場合、担当教員の指示に従って行動する。
- ③ 外傷・被曝等のリスク
  - ・ 応急処置を行い、すみやかに担当教員または実習指導者へ報告し指示に従う。
  - ・ 必要に応じて受診する。
- ④ 暴力被害のリスク(含:ハラスメント)
  - ・ 学生は、暴力(身体的暴力、言葉による暴力、セクシャルハラスメント等)を受けたと感じた場合は、すみやかに担当教員または実習指導者に相談し指示に従う。
- ⑤ その他
  - ・ 不審者の宿泊施設または更衣室等への侵入、実習施設における盗難のリスクがある。高額な金銭、物品は実習施設に持ち込まず、施錠管理を徹底する。

不審者の侵入や盗難などがあった場合やその恐れを感じた場合は、担当教員または実習指導者に報告し、対応の指示を受ける。

#### B. 学生が加害者となるリスクのある事故

##### ①患者の身体危害に関する事故

すみやかに担当教員または指導者に報告し、指示に従う。

##### ②学生が感染源になる場合

- ・感染症に罹患している疑いがある場合は実習施設には行かず、担当教員に報告し、施設への対応について指示を受ける。
- ・感染拡大予防のため必ず受診し、出席停止等は担当教員の指示に従う。  
※ 学生便覧「健康管理規程」の項参照。

##### ③物品の破損・紛失

- ・破損現場が危険な状況にある場合、以下の取り扱いに従い、破損物の処理をする。
  - \* 患者周囲に知らせ、外傷等の被害の拡大を予防する。
  - \* 水銀、ガラス等は、素手で触れず、施設規定に従い処分する。
- ・担当教員または実習指導者に直ちに報告し指示に従う。
- ・私物の破損、紛失の場合は、患者、実習指導者、実習施設責任者等の指示に従い対応するが、現物を弁償することがある。

##### ④個人情報の漏洩

- ・記録の紛失、流出した場合、もしくは可能性がある場合は、すみやかに担当教員または実習指導者に報告し指示に従う。

#### 4. 主体的な姿勢

- 1) 実習の意義を十分に理解し、目的をもって意欲的に臨む。
- 2) 記録には、医学用語や看護用語等、専門用語を適切に使用する。
- 3) 患者の理解や看護実践に必要なとなる知識・技術については、主体的に事前または実習期間中に追加学習をする。

#### 5. 安定した心身の状態を保つ

- 1) 健康管理には気をつけ、日頃より体調を整える。
- 2) 感染予防

看護師は、感染しやすい環境の中で患者や家族を安全に感染から守るとともに、自身および他の医療従事者の感染も予防しなければならない。看護学生もまた医療従事者に準ずる者として以下の点に留意し、各施設での感染防止対策を遵守しなければならない。

##### (1) (医療関連の) 感染を予防するために常に個人衛生に留意する。

- ①『臨地実習健康チェックシート』を記載しながら、常に自己の健康管理を行う。
- ②発熱・咳・鼻汁等の呼吸器症状、発疹等の皮膚症状、嘔吐・下痢等の消化器症状  
その他自覚症状がある場合には、早めに受診し治療する。
- ③本人または家族に流行性の感染症が発生した場合、または自身の体調が悪くなった時は、直ちに担当教員に連絡する。
- ④食事前、実習終了時には手洗い・含漱を行う。
- ⑤ユニフォームは常に清潔なものを着用する。
- ⑥基本的にマスクを着用する。(場合によってマスクの着用をしないこともある。)

##### (2) 感染症対策を確実に実施する。

- ①自己の免疫状態を把握し、予防接種または検査によって発症予防あるいは症状を軽減できるように努める。

- ②インフルエンザに関してはワクチン接種開始時期から早めに接種を行う。
- ③胃腸炎・食中毒などを予防するため、乳幼児や高齢者と接触をする実習の場合、実習施設の状況に応じて検査を実施する。
- ④実習における感染症予防対策（項目VI）を実施する。

## 6. 非常事態における対応

### 1) 災害時の対応

#### (1)地震発生時の行動

地震発生時（震度5以上）の行動は、下記の『実習中の震度5弱以上の地震発生時の行動フローチャート』に沿って行動する。

①校外実習中は、実習先の指示に従う。

実習先の支持が得られなければ、自ら判断し身の安全を確保する。

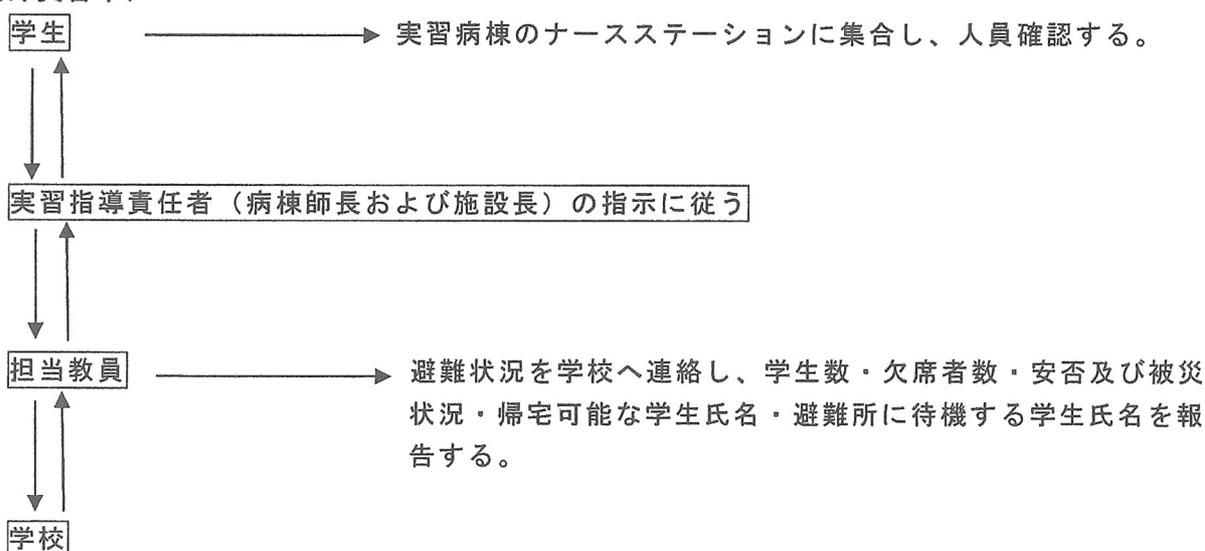
（例：海に近い実習施設であれば高台等に避難する。）

②状況が落ち着いたら実習担当教員または学校、家庭と連絡を取り現状を報告する。

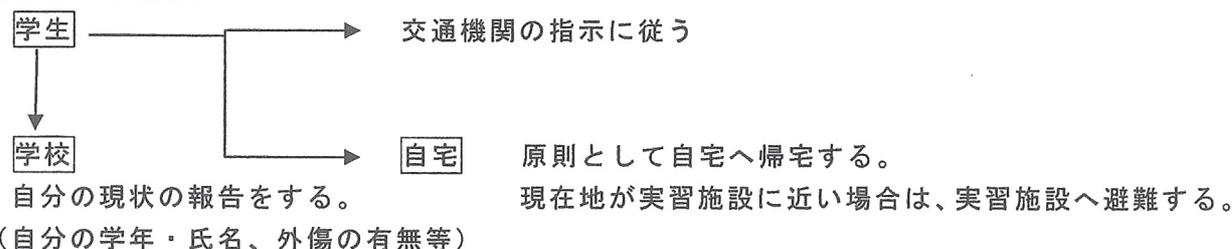
③実習先を退出する場合には、原則として学生は自宅へ帰宅、教員は学校に帰校する。

## 実習中の震度5弱以上の地震発生時の行動フローチャート

### <校外実習中>



### <実習場への往復>



(2) 気象要因に起因する警報等発令時の対応

情報		授業（実習）	対応
特別警報		授業中止	午前6時の時点で警報が発表されている場合は「1日休校」 * 周囲の状況等で避難
警報	暴風	授業中止または一部中止	・ 午前6時の時点で焼津市又は居住市町に警報が発表されている場合は、午前10時まで自宅で待機 ・ 午前10時の時点で警報が解除されていない場合は「1日休校」 ・ 午前10時の時点で警報が解除されている場合は安全に登下校できることを確認した上で午後の授業に間に合うように登校（確認できない場合は学校に連絡の上自宅待機）
	大雨洪水	平常授業	・ 安全に登下校できることを確認した上で登校（確認できない場合は実習担当教員、学校に連絡の上自宅待機）
	その他の気象警報	平常授業	・ 安全に登下校できることを確認した上で登校（確認できない場合は実習担当教員、学校に連絡の上自宅待機）
注意報	強風・大雨・洪水	平常授業	・ 安全に登校できることを確認した上で登校（確認できない場合は実習担当教員、学校に連絡の上自宅待機）

※ 実習時間内に「特別警報」「警報」が発令された場合は、実習の継続・中止について学校が判断し、実習施設、実習担当教員へ連絡する。学生は、臨地で実習指導者または実習担当教員より指示を受け行動する。

(3) 火災の場合

火災発生時は実習場所の職員の指示に従い非難する。

2) 交通事故発生時の対応（臨地実習中の登下校時）

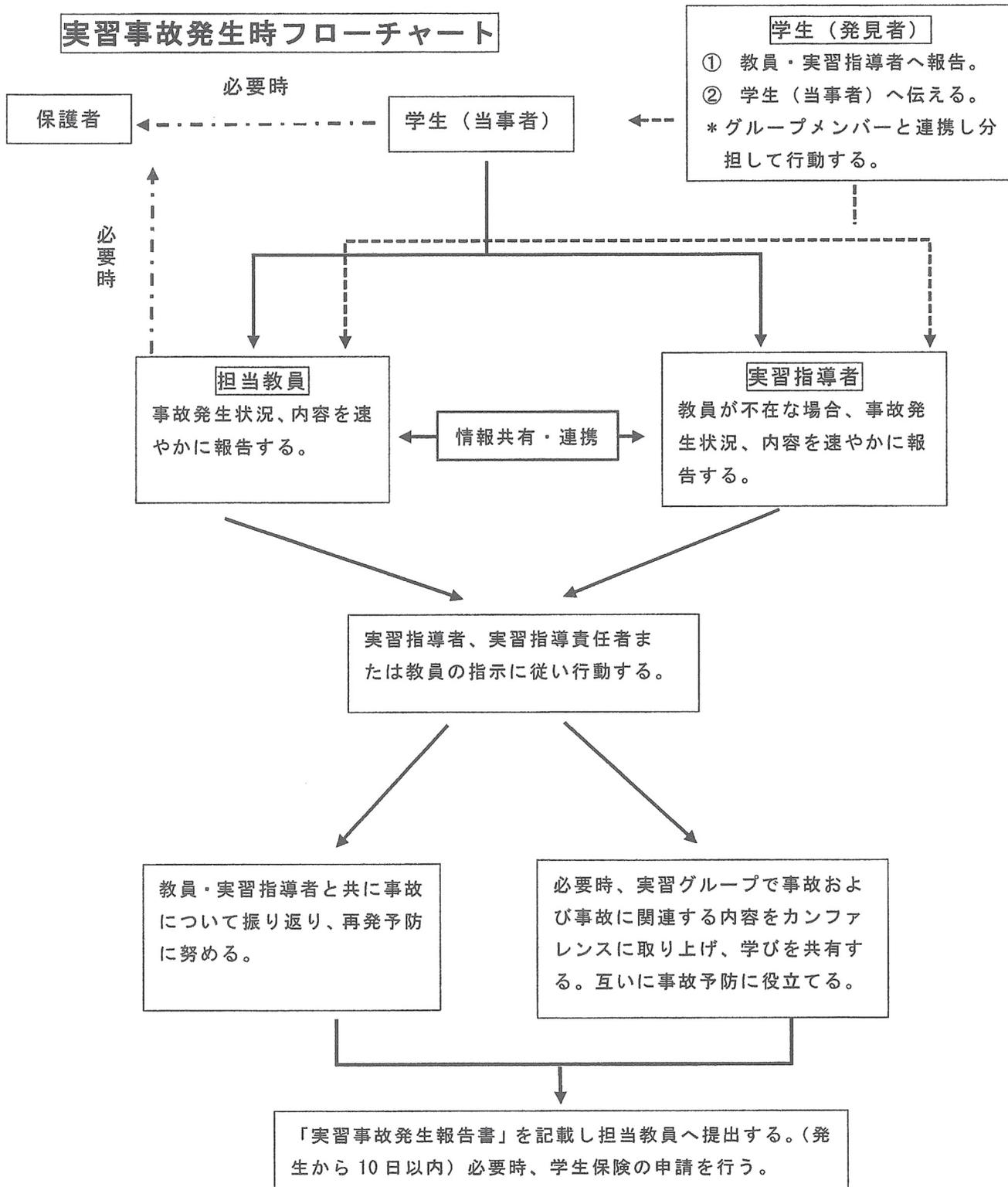
- (1) 事故を起こしたら警察署へ通報する。
- (2) 実習担当教員へ連絡する。担当教員に連絡がとれない場合は実習病棟と学校へ連絡する。
- (3) 事故報告書を記入して学校に提出する。（この書類は学校でもらう。）
- (4) 傷害保険「学生総合補償制度」を必要時使う。（全員加入している。）

7. その他

- 1) 実習場全体のリーダー、グループのリーダーを事前に決めて教員に伝える。リーダーの役割は、交通手段と連絡方法の提出、看護部への挨拶、学生室や更衣室の管理、コピー代の集金、教員・指導者との連絡・調整である。
- 2) 榛原総合病院のアパートを利用したい学生は、事前オリエンテーションでの説明をよく理解して、1週間前までに担当教員に届け出る。希望者全員利用できるとは限らない。
- 3) 患者とは看護学生としての関係を保つため、個人的な住所等を聞かれても学校の所在でお答えする。必要時担当教員へ報告、相談する。
- 4) 患者に買物を頼まれた場合、指導者及び教員に相談し指導を受けて行動する。

- 5) 個人的に謝礼等を受け取ることはできないので、そのような場面があるときは指導者・教員に相談して行動する。
- 6) 実習時間外に患者を訪問することは避ける。実習時間外に病棟に入る時は事前に教員の許可を得る。
- 7) 学校保健法第12条により、出席停止になった場合は実習をすることができない。  
(学生便覧：保健管理の項 参照)

### 実習事故発生時フローチャート



- \* 「実習事故発生報告書」は実習要項 P17 にある。担当教員に用紙をもらい記載し提出する。
- \* 学生が加入している学生保険が適応となる場合は、必要な申請手続きを行う。  
保障の詳細については、加入時に配布された資料を参照とする。

## 実習事故発生報告書

令和 年 月 日 提出

この報告書は、発生した事柄の振り返りを通して自己の傾向に気づき、今後に役立つ学びを見出すことを目的としています。

学籍番号	学生氏名
実習名	
発生の日時	
発生場所	
内容	
どのような状況の時に何が起きましたか？	
発生後、どのように行動しましたか？	
発生の原因または要因は何ですか？	
どうすれば、発生を防止することができましたか？	
この体験で得た学び、自己の課題は何ですか？	
* この報告内容を、カンファレンスで他者と共有しても良いですか？ 可 ・ 否	
* この報告内容を、個人情報保護のもとで他者の学びに活用しても良いですか？ 可 ・ 否	
* 学生保険の申請 有 ・ 無	
担当教員氏名：	

## VI. 実習における感染症予防対策について

### 1. はじめに

私たちは日頃の生活の中でも、どこかで感染者と接触し罹患する可能性があり、自己の健康を守る為には常に感染予防に努めなくてはならない。臨地実習において学生が感染予防に努めることは、対象者の生命と尊厳を守る看護倫理を基本とした行動であり、看護師を目指す者としての責務である。

実習施設には疾患や加齢により抵抗力・免疫力の低下した人が多数いる。感染症に罹患した医療者が感染源となりそういった人々に感染症をうつすことは、絶対に避けなければならない。また医療を提供する際の感染暴露も防がねばならない。このような理由で、実習施設から、施設職員と同様の感染症予防対策を実習生に求めている。臨地実習を履修するためには、あらかじめ感染症に対する免疫を獲得していなくてはならない。

### 2. 感染症予防対策の方法

#### 1) 対象疾患

- |                    |              |                |
|--------------------|--------------|----------------|
| (1) 麻しん (はしか)      | (2) 風しん      | (3) 水痘 (水ぼうそう) |
| (4) 流行性耳下腺炎 (おたふく) | (5) B型肝炎ウイルス | (6) 結核         |

#### 2) 具体的方法

入学時に、以下の(1)～(3)の感染症に関する免疫状態を確認し、実習開始までに必ず免疫を獲得する。

##### (1) 麻しん・風しん・水痘・流行性耳下腺炎の感染予防対策

- ・免疫獲得条件は「過去に2回以上の予防接種の履歴がある。または抗体価が基準値以上ある。」
- ・予防接種の履歴は母子手帳で確認し、履歴の不足がある場合は予防接種を受ける、または抗体価を調べ、値により予防接種を受ける。(詳細は健康手帳のフローチャートを参照)

##### (2) B型肝炎ウイルスの感染予防対策

- ・免疫獲得条件は「ワクチンを3回以上実施し、抗体を獲得している状態である。」
- ・B型肝炎ワクチンの接種状況を母子手帳で確認する。併せて学内の健康診断で抗体価検査を全員行う。抗体価が基準値より低い場合はワクチン接種を学校の計画に沿って行う。

##### (3) 結核の感染予防対策 (感染確認)

- ・基準は「指定された血液検査方法による測定結果が陰性である。」
- ・学内の健康診断で血液検査を全員行う。検査結果に応じ、必要な対応をする。  
※抗体価基準値は環境感染予防学会による「医療者のためのワクチン接種ガイドライン」に基づく。

### 3. 自己管理

#### 1) 自己の免疫獲得状況は健康手帳に記録し、実習中は常に把握できるようにする。

※1) 対象疾患に挙げられている感染症に対する抗体価を獲得していない場合は、臨地実習を履修することができないことがある。よって、臨地実習に備え、各自で計画的にワクチン接種を行う。

※インフルエンザ等、ワクチン接種が推奨されている感染症に関しては、特別な理由がない限り積極的にワクチンを接種し、感染予防を図る。

## Ⅶ. 3 病院の注意事項

### 1. 焼津市立総合病院

- 1) 駐輪場 病院北側の駐車場にある職員用の駐輪場を使用する。
- 2) 出入り口（正面玄関）
  - ・ 7:45～開門 17:00 まで。17:00 以降は、時間外出入口にある防災センターに学生証を提示する。
- 3) 更衣室（女子：厚生棟 2 階学生更衣室・男子：厚生棟 2 階職員更衣室）
  - ・ ロッカーの鍵は、実習前に学校で貸し出す。終了翌日の朝、学校にて返却する。
  - ・ 更衣室のドアは施錠しないためロッカーの鍵も確実な防犯となるとは限らないので、貴重品は病院に持って来ない。またロッカー内にも置かない。
- 4) 学生室（厚生棟 3 階）
  - ・ 職員や他校の学生も使用することがある。（共同利用）
  - ・ 鍵は常時開いているので、貴重品は持参しない。
  - ・ 荷物はドア入って左側のテーブルに置く。
  - ・ 学生室の実習用備品を使用する場合は、指導者または教員に相談し、ノートに記入後使用する。（コロコロを使用する場合は備品より持っていく）
  - ・ 退室するときは、窓の戸締り・整頓・消灯（エアコン停止）を確認する。
  - ・ 各実習の最終日には、全員で更衣室・学生室を清掃する。
- 5) 図書室（C 病棟 2 階の医局入口）
  - ・ 利用時間 8:30～17:15
  - ・ 図書の貸し出し：本→裏表紙のカードに記入し、カウンターに箱に入れる。  
雑誌→カウンターのノートに記入する。
  - ・ 図書の返却：カウンターの上に置いておく。実習期間内に必ず返却する。
- 6) コピー機の利用（図書室内）
  - ・ 看護学生用使用簿に日付・氏名・用紙サイズ・枚数・金額をその都度記入する。
  - ・ 各実習の最終日に病棟リーダーが私費分を集金し、病院担当教員に提出する。（日付・氏名・用紙サイズ・枚数・金額、実習期間を所定の封筒の表に明記する）
- 7) 教員室の図書利用
  - ・ 貸出し、返却は実習期間とし、必ず教員立会いの下で行う。
- 8) 医療情報システム運用について
  - ・ 実習に入る 2 週間前までに医療情報システム利用のための誓約書を記入する。実習中は責任を持ち ID、パスワードを管理する。
- 9) その他
  - ・ 体温計のみ教員室で管理しているため、有熱者は病棟に出る前に確認する。
  - ・ 家人の送迎の場合は、病院駐車場で乗降とする。

## 2. 藤枝市立総合病院

### 1) 駐輪場

- ・ 病院玄関右側の駐輪場を使用する。(10台分利用可能)

### 2) 出入り口は、時間外出入り口を使用する。

### 3) 更衣室（女子は1階エレベーターホール右、男子は1階放射線科の隣のドアを開けた通路奥に設けられている中部看護用ロッカーを使用する）

- ・ 女子は更衣室入口ドアのテンキーに暗証番号を入力して入室する。(暗証番号は教員に確認する)
- ・ 女子は実習当日に各自が使用するロッカーを決め使用するが、帰宅時に鍵を持ち帰らない。
- ・ ロッカー使用中は必ず施錠し、責任をもって管理する。
- ・ 更衣室の清掃は更衣室内の清掃用具を使用し毎日行う。病棟リーダーが担当を決め、確認する。

### 4) 学生室（各階）

- ・ A・B病棟で1室のため、担当教員に確認をして使用する。
- ・ 患者さんの面談で使うことがあるので、常に整理整頓する。
- ・ 施錠できないので貴重品は持参しない。
- ・ 各実習の最終日には、全員で学生室を清掃する。

### 5) 図書室（増築外来棟1階）

- ・ 利用時間 8:30～17:15
- ・ 司書の人に申し出て利用する。閲覧のみで貸し出しはできない。  
コピーしたい時はその事を司書の人に申し出て、一時的に貸し出し手続きをする。  
管理課でコピーし、その日の利用時間内に返却する。
- ・ 患者用図書室と併設されており、職員・患者の双方が利用するため、静かに利用する。

### 6) コピー機の利用（1階管理課）

- ・ 防災センター向かいに管理課出入り口がある。(わかりにくいので教員から説明を受けるとよい)
- ・ 管理課入って右側、看護学校用使用簿がかかっている側のコピー機を利用する。
- ・ 看護学校用使用簿に日付・氏名・用紙サイズ・枚数と公費と私費の区別をその都度記入する。
- ・ 各実習の最終日に病棟リーダーが私費分を集金し、担当教員に提出する。

### 7) 医療情報システム運用について

- ・ 1年次の基礎看護実習Ⅰ開始前に教員より運用管理規定についての説明を受け、医療情報システム利用誓約書及び利用申請書を提出し、『医療情報システム利用許可書』を受け取る。
- ・ 受け取った『医療情報システム利用許可書(ID、パスワード)』は、3年間使用するものであるため、自己責任のもとで管理する。

### 8) その他

- ・ 家人が送迎の場合は、正面玄関前ロータリー送迎場で乗降とする。
- ・ 実習開始時点で、「医療関係者のためのワクチンガイドライン」に基づき、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の感染症において基準を満たしていること。また、その旨を記載した「抗体価検査とワクチン接種状況」の用紙を提出すること。

### 3. 榛原総合病院

#### 1) 駐輪場

- ・病院正面玄関前ロータリーにあるバス停の裏側（第1駐車場内）の駐輪場を使用する。

#### 2) 出入り口

- ・病院正面玄関（7:30～17:00）それ以外は救急時間外出入り口を使用する。

#### 3) 更衣室

- ・女子：南館3階学生更衣室
- ・男子：南館3階学生更衣室（病棟個室）
- ・実習初日に個人のロッカーを決め使用する。ロッカーに鍵がついているので各自管理し、最終日に清掃し鍵をつけておく。

#### 4) 学生室（南館3階）

- ・学生以外も使用することがあるので、荷物を置きっぱなしにしない。
- ・最後に帰宅する学生は、戸締り・整頓・消灯（エアコン停止）を確認する。
- ・毎週金曜日、実習最終日には、全員で学生室の清掃をする。
- ・南館3階リハビリ科に学生用の物品が置いてあるため、挨拶をして入室する。  
実習初日と最終日に実習グループで相談し、物品の定数チェックを行う。

#### 5) 図書室（東館2階）

- ・医局図書室担当者に申し出て利用する。
- ・実習期間内に必ず返却する。

#### 6) コピー機の利用（文書室：南館2階「看護部文書室」。カラーコピーは図書室となる。）

- ・学生使用簿に日付・氏名・用紙サイズ・枚数・公用私用をその都度記入する。
- ・各実習の最終日に病院リーダーが私用分を集金し、榛原総合病院担当教員に提出する。

#### 7) 看護学生用宿舎について

- ・交通が不便なため病院で看護学生用宿舎を用意していただける。  
入居希望者は実習開始1週間前までに「アパート使用申込書」を記入し提出する。  
使用基準、使用料等、詳細については事前オリエンテーション時に別途説明する。

#### 8) 実習前の課題について

- ・実習初日までに「学研メディカルサポート～eラーニング～」の視聴をする。
  - ①感染管理について：針刺し、手洗い、医療廃棄物の処理、健康管理
  - ②医療安全について：患者確認行動、事故発生時の対応詳細は、病院事前オリエンテーション時に案内する。

#### 9) その他

- ・実習用のタオルは洗濯室（8:30～17:00）へ取りに行き、適宜補充しておく。（使用したタオルは次の日に使用枚数取りに行き補充する。）洗濯室に入るためのカードを実習病棟で借用する。
- ・学生は7階職員食堂を利用できる。（事前申請すれば昼食のみ無料で提供あり）
- ・榛原総合病院の（第5）駐車場を使用できる。  
「自動車通学届」及び「自動車通勤及び駐車場利用申請書」を記載し、実習初日に看護管理室クランクに提出する。
- ・医療情報システムのパスワードは実習初日に登録され、実習担当教員から提示される。
- ・家人が送迎の場合は、駐車場で乗降とする。



## **VIII. 臨地実習**

# **基礎看護実習 I**



# 基礎看護実習 I

## はじめに

人間は環境に囲まれ、その相互作用の中で暮らしている。そして、患者も健康課題を抱えながらもその人なりに生活をし、暮らしている。看護では、そのような生活者としての患者を捉えながら、その方の健康支援のために関わり続けることが大切である。実習では、一人の患者を受け持ちながら、その中で患者の状況や思いに気づき、そこから患者に必要な看護について考え、必要な日常生活援助を実践する。そして、患者を支えるチームの一員として、自己の経験を振り返り、自己を見つめることで、看護者として必要な知識・技術・態度を身につけていく。また、学生には、看護学生として対象に援助することの責任や重みを感じる一方で、看護をすることの楽しさや魅力も感じてもらいたい。

また、本実習では学生にとって初めての急性期病院での実習となる。学生には、貴重な経験の積み重ねから、将来の目標に向かう意志がより強まることを期待する。

## 1. 実習目的

生活者である患者への関心と気づきを基に、健康を障害されたことによる影響を考え、原理・原則に基づいた日常生活援助を実践する能力を身につける。また、実習の様々な体験を通して、看護者としての自己を成長させる姿勢を養う。

## 2. 実習目標

- 1) 患者に向き合い、患者の立場に配慮した関わりをする。
- 2) 患者という「その人」を捉える。
- 3) 患者理解から、今患者に必要な援助に気づく。
- 4) 患者に必要な援助の気づきから、患者にとって安全で安楽な日常生活援助を計画する。
- 5) 計画に基づき、患者にとって安全で安楽な日常生活援助を実施する。
- 6) チームで看護をするために必要なことについて明らかにする。
- 7) 経験から自己の課題に気づき、成長のための改善点を明らかにする。
- 8) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

## 3. 実習時間数と単位

2単位 90時間（1時間＝45分）

・全体オリエンテーション：2時間

・臨地実習：88時間

## 4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

## 5. 実習内容・実習方法

◇ニーズを捉える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者のを中心 に考えて関わる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の対象である患者に関心を持ち、対話の場面では、聴く姿勢を大切にしておく。</li> <li>・また、対話の場面では、患者の思いや意思を尊重した態度で接し、肯定的な表現で反応を返す。</li> <li>・患者との関係構築につなげるためにも、言葉遣いだけでなく、自己の態度や表情なども意識する。</li> <li>・体験可能な援助については目的を持って参加する。</li> <li>・意図的に対話をする場合は、あらかじめ患者に同意を得て、患者の状況や体調に配慮した上で会話を進める。</li> <li>・プライバシーに触れるような会話をしようとする時は、場所の環境や声の大きさを考えて対話をする。</li> <li>・指導者や教員、看護師の関わりを参考にして学ぶ。</li> <li>・関わりで不安になったり困った時には、教員や指導者に相談したり、カンファレンスでテーマに取り上げるなどして、課題解決をする。</li> </ul>
②患者の言動の意 味を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の言動を肯定的に受け止め、患者の言動の意味や思いを考え、「看護活動記録(日々録)」「フリーシート」の記録用紙に表現する。</li> <li>・患者の言動に対して、患者の気持ちや立場を考えて、自分の思いを患者に伝える。</li> </ul>
③患者の療養環境 を観察し、考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療養環境や入院生活の実際を知り、その意味や影響について気づいたことや考えたことなどを「看護活動記録」「フリーシート」「全体像」などの記録用紙に表現する。</li> <li>・知り得た情報について、患者の立場に立ちその意味を考える。</li> </ul>
④常に患者の身体 状態を観察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の解剖や生理的機能について自己学習する。</li> <li>・受け持ち患者の疾患やそれに伴う治療などについて自己学習し、必要な観察の視点が何かを明らかにし、「身体状態の観察」方法について援助計画を立案する。</li> <li>・患者の疾患、主訴、入院の経緯、治療状況、検査データなどについて得た情報を整理し、わからないことは調べて、ポートフォリオに学習の足跡を残す。</li> <li>・カルテからの情報だけでなく、患者と直接関わる中で得られる情報を大切にする。</li> <li>・患者に関わる際には、常に患者の全身状態の変化がないかを意識して、観察する。</li> <li>・観察は五感を用いて観察し、測定、面接、電子カルテなどの手段を活用し、ありのままの患者の状態を捉える。その場で気になった情報については、さらに詳しく反応を捉える。</li> <li>・客観性を高めた解釈・判断につなげるためにも、患者の反応を単に「ある」「なし」で終わらず、状態の程度や変化などについても捉える。</li> <li>・捉えた事実は、「看護活動記録」「フリーシート」「患者検温表」の記録用紙に表現する。</li> <li>・看護活動記録では、「主観的情報」と「客観的情報」を区別して表現する。</li> <li>・患者の状態に変化がないか常に目的と関心を持って訪室する。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
⑤患者の身体的側面の情報から、患者に起きていることを明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実（情報・結果）に自分の主観は含めず、見た事、聞いたことをありのままに捉え、判断したものと区別して「看護活動記録」に表現する。</li> <li>・患者と関わる中で、患者が日常生活においてどのようなことに苦痛や困難を感じ、どのような援助が必要であるのか、患者の現在の状態から考える。</li> <li>・患者の症状のメカニズムや原因についてわからないことを調べ、ポートフォリオに入れる。</li> <li>・患者の反応から、今起きていることや今後起こりうることを解釈・判断する。</li> <li>・解釈・判断する際には、根拠となる知識を用いて考える。</li> <li>・検査の結果を確認し、患者の病態の捉えの参考にする。</li> </ul>
⑥入院が患者に及ぼす影響を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者との関わりから、患者が入院したことによる影響について患者の立場に立って考える。</li> <li>・入院したことによる影響について気づいたことや考えたことを、「フリーシート」や「看護活動記録」用紙に表現する。</li> </ul>
⑦患者に必要な援助を見いだす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者のニードや観察結果から、どのような援助が必要になるのか、根拠に基づいて考える。</li> <li>・援助は単独では実施できないため、気づいた援助については指導者や教員に事前に相談する。</li> </ul>
⑧患者という「その人」を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の三側面の捉えから、本来持つ「その人」について経過の中で知る努力をし、対象理解に努める。</li> <li>・ご家族と話す機会があれば、患者のことや今までの患者の生活の様子などについて聞く。</li> <li>・「全体像」用紙では、患者という「その人」を伝えるために、重要な情報を考慮し、絵や図を取り入れながら、わかりやすく記述する。今行われている看護や必要と思われる看護についても「全体像」用紙に表現する。</li> <li>・捉えた患者の状況に変化があれば、「全体像」用紙も同様に追加・修正する。</li> <li>・「看護を語る会」で自分が捉えた受け持ち患者について、工夫して発表ができるように準備する。発表時間は各自10分程度。</li> <li>＊リーダーに発表順を事前に決めておく。当日の司会は教員が行うが、その後の学びの会は学生が司会をする。教員と指導者よりコメントをもらう。</li> </ul>
◇ケアする力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者にとって安全な援助を計画する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助で使用可能な物品や場所について事前に確認する。</li> <li>・予定された援助については、患者の安全に留意し、危険の及ばないように、患者の状況をふまえ、安全を考慮した援助計画を立案する。</li> </ul> <p>患者の状況を想定しながら、「看護援助の内容」「援助目的」「必要物品」「援助方法・援助手順」、「安全の視点」を「援助計画」用紙に具体的に書く。</p>

学習活動	学習内容と学習方法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 援助の事前には、必要物品の準備から片付けまでの一連の工程についてシミュレーションをし、安全に配慮すべき部分のイメージをする。</li> <li>▪ 援助の前には、自ら指導者や教員に提示し、援助計画の確認や助言を求める。</li> </ul>
②患者にとって安楽な援助を計画する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 予定された援助については、患者に苦痛や不快感を与えないように、患者の状況をふまえ、患者の安楽に配慮した援助計画を立案する。</li> <li>▪ 援助計画では、物品の配置や自分の立ち位置など具体的なイメージができるように視覚的な表現の記述の工夫をすると良い。</li> <li>▪ 患者の状況を想定しながら、「看護援助の内容」「援助目的」「必要物品」「援助方法・援助手順」「安楽の視点」を「援助計画」用紙に具体的に書く。</li> <li>▪ 援助の事前には、必要物品の準備から片付けまでの一連の工程についてシミュレーションをし、安楽に配慮すべき部分のイメージをする。く。</li> <li>▪ 援助の前には、自ら指導者や教員に提示し、援助計画の確認や助言を求める。</li> </ul>
③患者にとって安全な援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 患者の安全を守るため、日常生活援助の実施時は、必ず指導者や教員に同行を依頼する。</li> <li>▪ 実施直前にも患者の状態を確認し、実施可能かを判断する。</li> <li>▪ 患者の状況に応じた安全を考え、可能な範囲で患者の希望を取り入れる。</li> <li>▪ 計画上の安全の視点を意識して援助を実施する。</li> </ul>
④患者にとって安楽な援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 援助中は、保温やプライバシー、羞恥心、環境の配慮などに配慮する。</li> <li>▪ 患者の状況に応じた安楽を考え、可能な範囲で患者の希望を取り入れる。</li> <li>▪ 計画上の安楽の視点を意識して援助を実施する。</li> </ul>
⑤援助中は患者の意思の確認をしながら実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 援助前には、援助の目的を伝え、時間の調整をする。</li> <li>▪ 援助中は、患者の意思や反応を確認しながら実施する。</li> </ul>
⑥実施した援助を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 実施援助後には、指導者側と共に以下の点について振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇患者の反応から、その実施した援助の効果や目的達成の度合いがどうであったか</li> <li>◇実施結果の原因・要因は何であったのか</li> <li>◇より良い援助にするためにはどうすればよいと考えるか</li> </ul> </div> </li> <li>▪ 修正点や改善点があれば計画を修正し、次の援助に活かすようにする。</li> <li>▪ 患者の状況に合った援助を目指し、日々の振り返りの積み重ねを大切にする。</li> </ul>
◇協働する力	
学習活動	学習内容と学習方法
①看護を継続するために必要なことは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 病棟では、どのような体制で看護が行われ、どのようにして看護の質を維持しているのかを体験やカンファレンスから考える。</li> <li>▪ カンファレンス後、学びや自身の考えを「カンファレンス」用紙に考えをまとめる。</li> </ul>

◇意思決定を支える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者に関わる際には、患者の意思や希望を事前に確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 患者に事前に目的について説明し、了承を得た上で実施する。</li> <li>▪ 援助方法について、患者の意思や希望があればできるだけそれを取り入れるようにする。</li> <li>▪ 援助で患者の協力が必要な時には、事前にそのことについて説明し、患者から協力を得られるように調整する。</li> </ul>
◇振り返る力	
学習活動	学習内容と学習方法
①自己の成長のために、経験から自己の課題に気づき改善に向けて行動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 次の機会に活かすために、自己の援助について対話と記録で振り返りをする。</li> <li>▪ 自己の看護実践を改善していくために、教員や指導者などと振り返りを行い、他者の助言を積極的に活かしていく。</li> <li>▪ ルーブリックを日々活用し、自己の看護実践力と到達度について評価し、課題を明らかにした上で、翌日以降の実習で課題に取り組む。</li> <li>▪ 実習5日目と10日目には、自己評価したルーブリックをグループ単位でまとめ担当教員に提出する。教員や指導者との振り返りから、達成できていることと現状の課題を明らかにする。</li> <li>▪ 日々実習を通しての気づきや学びを体験（エピソード）を踏まえてまとめる。</li> <li>▪ 「看護を語る会」では患者への看護実践の経験から「私の捉えた患者について」「看護の学び」について発表し、意見交換する。</li> <li>▪ 実習中に見えた自己の成長と課題について「個人面接」「総括表」「成長エントリー」で明らかにし、今後に向けた取り組みについて明確にする。</li> </ul>
◇看護師としての基本的態度・姿勢	
学習活動	学習内容と学習方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 社会人であると同時に医療職の一員としてどのような取り組みや振る舞いが求められるかを考えて行動する。</li> <li>▪ 実習や病院のルールなど、その目的や意味を考えて行動する。</li> <li>▪ 記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。</li> <li>▪ やむを得ず時間や約束を守ることができない場合は、その旨を報告し、自ら対応を考え責任のある行動をする。</li> <li>▪ 判断に迷った場合や状況で困った時には、曖昧にせず教員や指導者に相談する。</li> <li>▪ 交通手段の方法は事前に病院事に情報をまとめ教員に提出する。</li> </ul>
②個人情報管理し守秘義務を守る行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 看護学生として知り得た個人情報は他言せず、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。</li> <li>▪ 記録物は他者の目に触れず、紛失がないように管理を適切に行う。</li> <li>▪ 患者名や病院名など、個人が特定されるようなものはイニシャルで明記する。</li> <li>▪ 報告の際には、適切な場所で行う。</li> </ul>

<p>③看護学生として自己の健康管理をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護者として健康管理することの重要性について考える。</li> <li>・ 生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないよう、自己の心身の健康管理を行う。</li> <li>・ 看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、手洗いの徹底を行う。</li> <li>・ 感染対策については病棟の方法に準じて行う。</li> <li>・ 体調不良の場合は、適切な判断や行動がとれるよう、必ず報告・連絡・相談をする。</li> <li>・ 健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する</li> </ul>
<p>④実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する行動をとる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人だけの学びを優先せず、グループ全体を意識した行動を取る。</li> <li>・ メンバー同士協力し合い、助け合う。</li> <li>・ カンファレンスにおいては、グループで司会者を順番に決め、司会者役割、メンバー役割を考え、お互いに学び合う姿勢を持つ。</li> <li>・ 自分の意見を積極的に伝えるとともに、他者の意見を大切に聴き、お互いに学びを共有し合い、深めていく。</li> </ul>
<p>⑤患者や看護の理解が深まるように取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。</li> <li>・ 患者に関心を持ち、気になることは調べ、看護活動につなげる。</li> <li>・ 質問されたことや疑問をそのままにせず、追加学習を主体的に進める。</li> <li>・ わからない部分は、積極的に助言を求め、受けた助言を活かしていく。</li> </ul>

## 6. 事前準備について

- 1) 看護技術練習                      ・ 空き時間を活用して、計画的に練習をする。
- 2) 既習学習の復習                 ・ 既習の学習内容を、計画的に復習する。

### 【押さえておきたい学習項目】

- ①コミュニケーション   ②日常生活援助   ③バイタルサイン   ④解剖生理・診療科での主な疾患  
⑤フィジカルアセスメント   ⑥診療科での主な疾患や症状に応じた看護

※学習したことは、ポートフォリオ（学習ファイル）に綴じ、実習先で活用できるように工夫する。

- 3) 病院の実習オリエンテーションを事前に教員から受ける。
- 4) 実習担当教員から事前にオリエンテーションを受ける。                      \*再度実習要項を熟読しておく。
- 5) 体調管理に留意する

## 7. 看護技術について

### 1) 援助のルール

援助については、原則指導者教員の同行や指導のもとで行われる。安易に自己判断せず、ベッドサイドにコミュニケーションに行く際にも、必ず指導者や教員に伝達してから訪室する。

### 2) 経験録

- ・ 経験録は、青いリール形式ファイルに綴じ、3年間使用するため紛失しないようにする。
- ・ 見学や体験した看護技術については、経験録にその実績をその日の内に日付を記載する。
- ・ 看護技術として到達水準に見合った条件で、身についたと評価された技術は、教員の印が記される。

- ・  学生全員に体験させたい技術
- 既習の看護技術： 環境整備・ベッドメイキング（シーツ交換） 清潔援助、移乗・移動援助、体位変換、  
食事援助、排泄援助
- バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント
- 看護過程展開技術（情報収集、分析）
- 感染予防 与薬（講義のみ）

## 8. 実習スケジュール

日数	場所	時間	内 容	カンファレンス
12月	学内	2	事前オリエンテーション	
1	臨地	10	講話 → 病棟へ移動後、病棟オリエンテーション 病院内の見学 受け持ち患者の決定、情報収集、明日の実習準備	
2	臨地	9	受け持ち患者への挨拶、コミュニケーション 患者の状態や日常生活の捉え、ビジョン・ゴールの相談	
3	臨地	9	患者の状態観察と日常生活の捉え *環境整備（1/17か18で体験する）	患者の療養環境から看護を考える
4	臨地	9	患者の状態観察と日常生活の捉え *環境整備（4日目か5日目には体験する）	テーマ自由
5	臨地	8	援助と援助計画についての相談、中間評価 *15:30 終了	
6	臨地	9	患者の変化の捉え、日常生活援助の実施、患者との関わり 環境整備（以後、毎日実施）	患者により良い援助をするためにはどうすべきか
7	臨地	9	患者の変化の捉え、 日常生活援助の実施、患者との関わり、環境整備	テーマ自由
8	臨地	9	患者の変化の捉え、日常生活援助の実施、患者との関わり *看護実践は、最良をめざす	
9	臨地	9	患者の変化の捉え、日常生活援助の実施、患者との関わり *看護実践は最良をめざす	看護を継続するために必要なこと
10	臨地	7	看護を語る会（看護実践からの学びや気づき）・学びの共有 個人面接 *14:45 終了	

\* 7時間：8:30～14:45 \* 8時間：8:30～15:30 \* 9時間 8:30～16:15 \* 10時間：8:30～17:00

## 9. ルーブリックの活用

- ・ルーブリックの評価規準を確認しながら、自己の到達度を、ルーブリックの評価規準の枠に日付を記載する。
- ・中間日と最終日には、評価値を記入し、教員に渡す。
- \*ルーブリック評価表とは、看護実践力に基づき、評価規準（実習の学習活動に応じた具体的な到達目標）と、評価規準に即した評価規準（どの程度到達できればどの評点になるのかの記述）を表（マトリックス）で示したもの。

## 10. カンファレンスについて

- ・司会は原則学生が行う。司会は日替わりで交代する。
- ・グループで予定を調整し、カンファレンス時間を決める。昼食後に指導者と教員に時間・場所・テーマを伝える。
- ・カンファレンスがない日であっても、グループで希望があれば実施してよい。その時は必ず指導者と教員に伝える。
- ・カンファレンス中、司会以外はメモをせず、他者の意見を聴くこと、自身の考えを伝え、相互に学び合う。
- ・カンファレンス終了後には、カンファレンスでの学びや気づきを「カンファレンス記録」用紙に記述する。

## 11. 個人面談について

- ・実習最終日では、今後看護実践力を高めるために必要になること（課題）や実習体験から学んだことや成長できたことなど、助言を得ながら整理していく。

## 12. 看護を語る会 + 学びの共有 ※時間は1時間程度で

### 1) 看護を語る会

- ・発表準備：受け持ち患者との関わりを通して、得た看護の学びや気づきなどについて発表する。  
患者紹介から、どのような看護実践をしたのか、その過程の中でどのような看護の学びや気づきを  
得たのか、簡潔に伝えたい内容を整理し、発表の準備をする。
- ・進行は、教員が行う。
- ・発表方法：タブレットや実習記録、ポートフォリオなどを用いて、他者に伝える工夫を考え、発表する。
- ・発表時間：5分～6分以内 \*事前に練習し、調整してくる
- ・発表順は、事前に決めておく。

### 2) 学びの会

- ・学生が司会・進行する。
- ・看護を語る会後に、2週間の実習での学びや気づきをグループで意見交換する（25分程度）。

## 13. 提出物一覧

- 1) 紙ファイル（記録一式）\*インデックス付
- 2) ポートフォリオ
- 3) メモ帳
- 4) 実習日誌 \*健康チェック表は提出不要
- 5) リール式青ファイル（経験録）
- 6) リール式赤ファイル（成長シート、総括のコピー、実習状況の記録）

## **VIII. 臨地実習**

# **基礎看護実習 II**



## 基礎看護実習Ⅱ

### はじめに

基礎看護実習Ⅰでは、生活者である患者への関心と気づきを基に、健康を障害されたことによる影響を考慮しながら、原理・原則に基づいた日常生活援助を実施した。

今回の基礎看護実習Ⅱでは、基礎看護実習Ⅰでの学びや経験を基に、患者の必要かつ意味のある情報を意図的に捉えることにより、患者という「その人」の理解を深め、“患者に必要な看護を考える”思考を深めることをねらいとする。そのためにも、学生は患者の日常生活に視点をおきながらも、併せて患者の人生という時間軸から患者の健康障害がもたらす様々な影響について捉え、考えていく力を養う。また、看護援助においては、看護技術の安全・安楽についての原則を踏まえながらも、援助の必要性や根拠を明確にし、その患者に適した援助を実施していく。さらに、学生は医療チームの一員としての自覚を高めると共に他職種との連携の必要性についても理解を深める。そして、これらの過程を通し、学生は看護者としての自己を客観的に見つめ、そこから自己の課題と成長について考える機会とする。

### 1. 実習目的

情報のアセスメントに基づき生活者としての患者理解を深め、根拠に基づき患者が必要としている看護を明らかにし、そこから患者に適した看護を実践する能力を養う。また、実習の様々な体験を通して、看護者としての自己成長を促すための姿勢を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 身体的・心理的・社会的側面から、生活者としての患者を理解する。
- 2) アセスメントに基づいて、患者に必要な看護を見出す。
- 3) 日々の援助を、看護の思考を用いて根拠を持って実践する。
- 4) 実施した援助結果について評価し、次の実施に活かす。
- 5) 医療チームの一員として、他職種との連携や看護者として必要な役割について考える。
- 6) 看護者として自己の在り様を振り返り、自己成長に向けた努力をする。
- 7) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

### 3. 実習時間数と単位

2単位 90時間（1時間＝45分）

・全体オリエンテーション：2時間

・臨地実習：88時間

### 4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

5. 実習内容・実習方法

◇ニーズを捉える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者の生活者の視点も含めて全体を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の入院前の生活や暮らし、ライフプロセス、今（現在）、退院後のことなど関心を持って話を聞き、患者に必要と思われる看護を「患者の全体像」として捉え、表現する。</li> <li>・「全体像」には「私の捉えた患者について」表や絵など工夫してわかりやすく記述する。</li> <li>・捉えた患者の状況に変化があれば、「全体像」用紙も同様に追加・修正する。</li> <li>・ご家族から話を聞く機会があれば、患者のことや今までの患者の生活の様子など話を聞く。</li> </ul>
②患者の身体状態を多角的に捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の疾患に伴う病態や治療について自己学習し、今までの経過や状態について理解する。調べてもわからない時は、教員や指導者、他職種に質問し理解に努める。</li> <li>・患者の疾患に伴う看護について調べ、どのような観察の視点や看護があるのか調べ、担当患者の実践に活かす。</li> <li>・患者の疾患、主訴、入院の経緯、治療状況、検査データなどについて得た情報を整理し、わからないことは調べて、ポートフォリオに学習の足跡を残す。</li> <li>・カルテからの情報だけでなく、患者と直接関わる中で得られる情報を大切にする。</li> <li>・観察は五感を用いて観察し、測定、面接、電子カルテなどの手段を活用し、ありのままの患者の状態を捉える。その場で気になった情報については、さらに詳しく反応を捉える。</li> <li>・捉えた事実は、「看護活動記録」「患者の機能的健康パターンについてのアセスメント」「患者検温表」の記録用紙に表現する。</li> <li>・看護活動記録では、「主観的情報」と「客観的情報」を区別して表現し、「解釈・判断」では根拠に基づいて思考する。</li> </ul>
③患者の情報を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者理解を深めるために、ゴードンの枠組みを活用して、「情報」用紙に、系統的に情報を整理する。</li> <li>・ゴードンの枠組みの整理が曖昧な場合は、アセスメントガイドを参考にする。</li> </ul>
④患者の身体的側面の情報から、患者に起きていることを明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事実（情報・結果）に自分の主観は含めず、見た事、聞いたことをありのままに捉え、判断したことと区別して「看護活動記録（日々録）」に表現する。</li> <li>・患者と関わる中で、患者が日常生活においてどのようなことに苦痛や困難を感じ、どのような援助が必要であるのか、患者の現在の状態から考える。</li> <li>・患者の症状のメカニズムや原因についてわからないことを調べ、ポートフォリオに入れる。</li> <li>・患者の反応から、今起きていること（患者の健康課題）・その原因・その影響から起こりうること（リスク）を解釈・判断する。</li> <li>・解釈・判断する際には、根拠となる知識をテキスト等用いて考える。</li> <li>・検査の結果を確認し、患者の病態の捉えの参考にする。</li> <li>・患者の身体的状態について、「病態関連図」として明らかにし、発表する。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
⑤患者の心理・社会的状態を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理・社会的側面の情報収集については、興味本位ではなく患者に意図が伝わるように話を聞き、相手に不快な思いを抱かせないように配慮する。</li> <li>プライバシーに関わり環境への配慮が必要と考えられる場合には、病室ではない静かな場所で話をするなど、環境に配慮する。</li> <li>ご家族から話を聞く機会があれば、今までの患者の生活の様子など積極的に話を聞く。</li> <li>ご家族からの情報を得る機会がない場合は、プライマリー看護師や電子カルテなどから情報を得る。</li> </ul>
⑥患者の心理・社会的側面の情報から、患者に起きていることを明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの健康管理や健康意識、これまでの生活背景や社会背景、今後どのような生活を送っていきたいと望んでいるのか、健康状態からや加齢の影響など考慮しながら、現在の状態や思い、今後の生活について考え表現する。</li> <li>これまでどのような役割を担っていたのかを知り、今後の役割の変化や影響について考え表現する。また、入院生活での患者役割が果たしているか考え、表現する。</li> <li>患者にとっての重要他者（キーパーソン）や家族背景を知り、退院に向けた患者のサポートシステム（サポート体制）から退院後の生活の影響について考え、表現する。</li> </ul>
⑦日々患者の状態の変化を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の状況は時々で変化するため、患者の経過を意識し、訪室のたびに患者の全身状態の変化がないかを継続的に観察する。</li> <li>患者に違和感や異変、状態の悪化を感じたら、速やかに報告する。</li> </ul>
◇ケアする力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者に適した援助計画を立案する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者に必要と考えた援助については「実習計画表」用紙に記載する。</li> <li>援助の優先度を考え、援助計画を立案する。判断に困った時は、自分の考えを基に教員や指導者に相談する。</li> <li>一般的な援助計画ではなく、患者の状況をふまえ、患者にとっての安全性・安楽性・自立性を考慮した、具体的な方法や留意点を記述した援助計画を考える。</li> <li>事前にシミュレーションをし、物品の配置や方法などイメージしておく。</li> <li>援助の前には、自ら指導者や教員に計画表を用いて、援助方法について説明する。</li> </ul>
②患者の状況から援助の実施を判断し、必要に応じて再計画（修正・変更）をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>援助の当日には患者の状況を確認し、援助計画の修正や時間の変更を調整する。</li> <li>実習グループの予定を随時確認し、それぞれが円滑に援助を実施できるように調整し合う。</li> <li>前日や当日の朝には患者の予定を確認し、援助計画の参考にする。</li> </ul>
③安全な援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の安全を守るため、日常生活援助の実施時は、必ず指導者や教員に同行を依頼する。</li> <li>援助の原理・原則を意識して安全な援助とするが、患者の状況に合わせて判断し、患者の危険を回避するように援助する。</li> <li>患者への援助時は、常に危機意識を持って援助する。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
④安楽な援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助中は、保温やプライバシー、羞恥心、環境の配慮などに配慮する。</li> <li>・援助の原理・原則から患者の安楽性を意識して援助をするが、患者の状況に合わせて患者の好みや希望を取り入れながら実施する。</li> <li>・事前計画や打ち合わせを活かし、患者の満足につながるような援助をめざす。</li> <li>・患者と関わる時には、患者の反応に留意しながら、患者に苦痛や不快が生じていないかを確認する。</li> </ul>
⑤援助時の患者の反応を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助中は患者の意思や反応を確認しながら行う。</li> <li>・援助後は患者の状態変化や効果を捉えるために、声かけや観察をする。</li> </ul>
⑥実施した援助を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施援助後には、指導者側と共に以下の点について振り返りをする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の反応から、その実施した援助の効果や目的達成の度合いがどうであったか</li> <li>・実施結果の原因・要因は何であったのか</li> <li>・より良い援助にするためにはどうすればよいと考えるか</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修正点や改善点があれば計画を修正し、次の援助に活かすようにする。</li> <li>・患者の状況に合った援助を目指し、日々の振り返りの積み重ねを大切にする。</li> </ul>
◇協働する力	
学習活動	学習内容と学習方法
①チームの一員として報告・連絡・相談する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護チームの一員として報告すべき内容や情報共有すべき内容は何かを考え、伝達内容を精選した上で報告する。ただし、慣れないうちは単独で報告せず、指導者や教員に事前に確認を得た上で行う。</li> <li>・患者に急変や緊急性を伴う事案が生じた場合には、速やかに報告・連絡・相談をする。</li> <li>・看護チーム内の申し送り、カンファレンス、カルテなどから、常に最新の患者や家族に関する情報を得るように努力する。</li> </ul>
②患者に関わる他職種 の役割や目的について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に関わる他職種にどのような職種がいるのかを実習を通して認識する。</li> <li>・患者に直接関わる職種に関しては、どのような支援をしているのかを知り、その役割や目的について考える。</li> </ul>
◇意志決定を支える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者や家族の願いや希望を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者や家族との関わりを通して、病気や治療、今後の生活などに対する願いや希望を知る。</li> <li>・患者や家族の思いや希望を共有し、学生としてできることを考える。</li> </ul>
◇振り返る力	
学習活動	学習内容と学習方法
①自己の経験から、 自己を見つめ、より 良い成長のために行 動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中の様々な経験から、自己の思考や行動の傾向を見つめ、改善すべき点や伸ばす点を明らかにする。</li> <li>・困った時は1人で抱え込まず、グループメンバーや教員、指導者に相談する。</li> <li>・教員や指導者からの指導やアドバイスに対してはその意味を考え、今後の実践に活かす。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習では失敗を恐れず、患者と関わることを大切に、患者を優先した行動を心がける。</li> <li>・ルーブリックを日々活用し、自己の看護実践力と到達度について評価し、課題を確認する。</li> <li>・見学や体験した技術については、「経験録」に日時を記載する。</li> </ul>
◇看護師としての基本的態度・姿勢	
学習活動	学習内容と学習方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人であると同時に医療職の一員としてどのような取り組みや振る舞いが求められているかを考えて行動する（身なり、接遇、挨拶など）。</li> <li>・実習や病院のルールなど、その目的や意味を考えて時間を意識した行動をする。</li> <li>・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。</li> <li>・社会人としてのルールを守り、その場でふさわしい判断と対応を心がけ、誠実で責任のある行動をとる。</li> <li>・判断に迷った場合や状況で困った時、わからない時に、曖昧にせず教員や指導者に必ず相談する。</li> <li>・病院リーダーは、交通手段の方法を病棟かつ病院ごとに整理・記入し、教員に提出する。</li> </ul>
②個人情報や守秘義務を守る行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として知り得た個人情報は他言せず、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。</li> <li>・記録物は他者の目に触れず、紛失がないよう適切に自己管理を行う。</li> <li>・報告の際には、適切な場所で行う。</li> </ul>
③看護学生として自己健康管理をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護者として健康管理することの重要性について考える。</li> <li>・生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないように、自己の健康管理を適切に行う。</li> <li>・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、手洗いの徹底を行う。</li> <li>・感染対策については病棟の方法に準じて行う。</li> <li>・実習中はストレスがかかりやすいため、自己の情緒面など精神面のコントロールや対処にも努める。</li> <li>・体調不良の場合は、適切な判断や行動がとれるよう、必ず報告・連絡・相談をする。</li> <li>・健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する。</li> </ul>
④実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中は、グループメンバーの行動計画を作成し、患者の状況に合わせて予定を調整する。</li> <li>・グループメンバーは、それぞれのメンバーの行動を意識し、それぞれが体験した意味ある学びや助言をグループ全体の学びとして共有し、グループ全体が成長できるように行動する。</li> <li>・グループメンバーは、チームとして援助を協力し合ったり、メンバーが悩んでいた困ったりしていた時には相互に助け合う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスではテーマに対しての意見を持って参加し、メンバーの意見にも耳を傾けながら、建設的なカンファレンスになるようにする。そこから、カンファレンスでの学びは、今後の実習に活かすようにする。</li> </ul>
⑤患者や看護の理解が深まるように取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。</li> <li>・患者に関心を持ち、体験できる機会やチャンスを逃さないように行動する。</li> <li>・患者に関心を持ち、気になることは調べ、看護活動につなげる。</li> <li>・質問されたことや疑問をそのままにせず、追加学習を主体的に進める。</li> <li>・わからないことは助言を求め、受けた助言を活かす。また、記録物での教員や指導者からのコメントについては追加・修正するなどして学びを深める。</li> </ul>

## 6. 実習スケジュール

	場所	時間	実 習 内 容	カンファレンス
9月	学内	2	事前オリエンテーション	
1	臨地	9	病棟オリエンテーション、個人面接、受け持ち患者の選定	
2	臨地	9	患者の状態観察、日常生活の捉え、ビジョン・ゴールの相談	
3	臨地	9	AM 患者の状態観察、日常生活の捉え	
			PM 患者の病態関連図について（発表）	
4	臨地	9	患者の状態観察、日常生活援助の実施、 <u>環境整備（原則毎日実施）</u>	あり
5	臨地	9	患者の状態観察、日常生活援助の実施	
6	臨地	8	患者の捉えと必要な看護について（発表）	
7	臨地	9	より良い看護実践の実施と評価	あり
8	臨地	9	より良い看護実践の実施と評価	あり
9	臨地	9	より良い看護実践の実施と評価	
10	臨地	8	看護を語る会（発表）と実習の学び、個人面接	

\* 8時間 8:30~15:30

\* 9時間 8:30~16:15

## 7. 事前準備について

- 1) 病院の実習オリエンテーション前には、実習要項を読み込み、実習で何をすべきか明確化する。
- 2) 看護技術練習
  - ・空き時間を活用して、計画的に練習をする。
- 3) 既習学習の復習
  - ・既習の学習内容を、計画的に復習する。
  - ・学習したことは、ポートフォリオ（学習ファイル）に綴じ、実習先で活用できるように工夫する。
- 4) 実習担当教員から事前にオリエンテーションを受ける。
  - \*再度実習要項を熟読し、気になる点や疑問は質問し、実習前の不安や心配事を解決する。
- 5) 体調管理に留意する。

## 8. 個人面談について

- ・実習初日の個人面談では、基礎看護実習Ⅰの自己の課題を再認識し、課題解決に向けてどのように取り組もうと考えているのか自身の思いや考えを整理して臨む。また、実習に対して事前に指導者側に心配なことや不安なことがあれば伝える。
- ・実習最終日では、今後看護実践力を高めるために必要になること（課題）や実習体験から学んだことや成長できたことなど、助言を得ながら整理していく。

## 9. 看護技術について

### 1) 援助のルール

援助については、原則指導者教員の同行や指導のもとで行われる。安易に自己判断せず、ベッドサイドにコミュニケーションに行く際にも、必ず指導者や教員に伝達してから訪室する。

### 2) 経験録

- ・経験録は、青いリール形式ファイルに綴じ、3年間使用するため紛失しないようにする。
- ・見学や体験した看護技術については、経験録にその実績をその日の内に日付を記載する。
- ・看護技術として到達水準に見合った条件で、身についたと評価された技術は、教員の印が記される。

### 【既習の看護技術】

- ・日常生活援助技術：環境整備・ベッドメイキング（シーツ交換）、移乗・移動援助、体位変換  
全身清拭・口腔ケア・洗髪（おむつ使用）・足浴・陰部洗浄、寝衣交換  
食事援助、排泄援助（尿器・便器）
- ・共通技術：バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント、感染予防、記録・報告、看護過程展開技術
- ・診療補助技術：与薬（内服薬・舌下錠・バツカル錠）、経管栄養、罨法（冷罨法・温罨法）

## 10. ルーブリックの活用

- ・ルーブリック評価表とは、看護実践力に基づき、評価規準（実習の学習活動に応じた具体的な到達目標）と、評価規準に即した評価規準（どの程度到達できればどの評点になるのかの記述）を表（マトリックス）で示したものである。
- ・ルーブリックの評価規準を確認しながら、自己の到達度を、ルーブリックの評価規準の枠に日付を記載する。
- ・中間日と最終日には、評価値を記入し、教員に渡す。

## 11. カンファレンスについて

- ・司会は原則学生が行う。司会は日替わりで交代する。
- ・グループで予定を調整し、カンファレンス時間を決める。昼食後に指導者と教員に時間・場所・テーマを伝える。
- ・カンファレンスがない日であっても、グループで希望があれば実施してよい。その時は必ず指導者と教員に相談する。
- ・カンファレンス中、司会以外はメモをせず、他者の意見を聴きつつ、自身の考えを伝え、相互に学びを深める。
- ・カンファレンス終了後には、カンファレンスでの学びや自身の考えを記録用紙にまとめる。

12. 看護を語る会 + 学びの共有 ※時間は1時間程度で

1) 看護を語る会

- ・ 発表準備：受け持ち患者との関わりを通して、得た看護の学びや気づきなどについて発表する。  
患者紹介から、どのような看護実践をしたのか、その過程の中でどのような看護の学びや気づきを得たのか、簡潔に伝えたい内容を整理し、発表の準備をする。
- ・ 進行は、教員が行う。
- ・ 発表方法：タブレットや実習記録、ポートフォリオなどを用いて、他者に伝わる工夫を考え、発表する。
- ・ 発表時間：5分～6分以内 ※事前に練習し、調整してくる
- ・ 発表順は、事前に決めておく。

2) 学びの会

- ・ 看護を語る会後に、2週間の実習での学びや気づきをグループで意見交換する（25分程度）。
- ・ 学生が司会・進行する。

13. 提出物一覧

- 1) 紙ファイル（記録一式）\*インデックス付
- 2) ポートフォリオ
- 3) メモ帳
- 4) 実習日誌 \*健康チェック表は提出不要
- 5) リール式青ファイル（経験録）
- 6) リール式赤ファイル（成長シート、総括のコピー、実習状況の記録）

## **Ⅷ. 臨地実習**

# **基礎看護実習Ⅲ**



## 基礎看護実習Ⅲ

はじめに

基礎看護実習Ⅱでは、情報のアセスメントに基づき生活者としての患者理解を深め、そこから根拠に基づいた必要な看護を明らかにした上で、患者に適した看護を実践することをねらいとした。

今回の基礎看護実習Ⅲでは、生活者としての患者の退院支援のために、患者の全体を早期に捉え、看護過程を活用しながら、患者の健康課題に向けた看護実践能力を養うことをめざす。また、学生は患者との関わりを通して、患者・家族の願いや希望を知り、それを叶えるために、病棟のチームの一員として自覚した行動をする。また、実習期間を通し、看護を目指すものとして、自己のさらなる成長のために取り組み、自己の看護観を培う機会とする。

### 1. 実習目的

様々な視点から患者の全体を捉え、看護の思考から必要な看護を見出し、個別性のある看護を実践する能力を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 多角的な視点から患者を捉え、知識を活用しながら、その人に必要な看護を明らかにする。
- 2) 患者理解に基づき、個別性のある看護計画を立案し、援助の実施、評価・修正を行う。
- 3) 日々変化する患者の状態や状況を捉え、根拠を持って看護を実施する。
- 4) 病棟の看護チームの一員として役割意識を持ち、チームに合わせた行動をする。
- 5) 看護者として自己を客観視し、自己の課題改善と成長に向けて行動する。
- 6) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

### 3. 実習時間数と単位

2単位 90時間（1時間＝45分）

・全体オリエンテーション：2時間

・臨地実習：88時間

### 4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

## 5. 実習内容・実習方法

◇ニーズを捉える力	
学習活動	学習内容と学習方法
①患者を生活者として全体を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者という「その人」がどのような人なのか考え、患者の思いや考えを尊重する姿勢で関わる。</li> <li>・患者の発達課題や価値観、信念、強みなど、関わりから捉えた患者について表現する。</li> <li>・「全体像」には「私の捉えた患者について」表や絵など工夫してわかりやすく記述する。</li> <li>・捉えた患者の状況に変化があれば、「全体像」用紙も同様に追加・修正する。</li> <li>・ご家族から話を聞く機会があれば、患者のことや今までの患者の生活の様子などを話す。</li> </ul>
②患者の身体的状態をアセスメントする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の疾患、主訴、入院の経緯、治療状況、検査データなどについて得た情報を整理し、わからない用語は調べて、<u>ポートフォリオ（動機や意図を記す）</u>に学習の足跡として残す。</li> <li>・患者の疾患に伴う病態や治療について自己学習したことを指定の用紙に記録し、患者の身体的側面についての理解を深める。調べてもわからない時には、指導者や教員、他職種に質問したり、相談したりする。</li> <li>・患者の疾患に伴い、看護実践では、どのような観察の視点や援助が必要になるのか事前に調べた上で、実際の患者の実践に活かす。</li> <li>・カルテからの情報だけでなく、患者と直接関わる中で得られる情報を大切にす。</li> <li>・観察は<u>五感を用いて観察し、測定、面接、電子カルテなどの手段を活用し、ありのままの患者の状態を捉える</u>。客観的に判断するためにも状態の程度や変化について具体的に捉える。患者の容体で気になった場合は、流さずさらに詳しく反応を捉える。 *意図的に患者に必要な<u>フィジカルイグザミネーション</u>を活用し、把握に努める。</li> <li>・患者について得た情報は、「全体像」「全体関連図」「看護過程」を活用しながら、<u>対象理解に努める</u>。</li> <li>・患者とか関わる場面では、<u>臨床判断モデル</u>を意識し、記録や振り返りに活用する。</li> <li>・常に患者の状態に関心を持ち、<u>形態機能的な異常の有無や心理的な変化がないかを、根拠となる知識やデータと照合し、考える</u>。</li> <li>・患者の身体的側面について、<u>ゴードンの11の枠組み</u>を活用して、系統的に情報を記録用紙に整理する。初回の情報～分析では、パソコンでの入力はやいが、指導後には手書きでペンの色を変えて追加・修正し、思考の跡がわかるようにする。</li> <li>・看護過程では、情報から、<u>患者に起きていること、その原因、今後の影響（成り行き）について、裏付けとなる知識と照合した上で記述する</u>。</li> </ul>
③患者の心理・社会的状態をアセスメントする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者本人から情報が得られにくい場合には、電子カルテやプライマリー看護師、医療相談員、退院支援看護師などに主体的に関わり情報を得るようにする。</li> <li>・心理面については、本人との対話が必要となるため、<u>受容や傾聴する姿勢を大切にしながらコミュニケーション</u>をする。</li> <li>・プライバシーに関わり環境に配慮が必要と考えられる場合は、病室ではない静かな場所で話をするなど、環境に配慮する。</li> <li>・ご家族から話を聞く機会があれば、今までの患者の生活の様子などを積極的に話を聞く。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者について得た情報は、「全体像」「全体関連図」「看護過程」を活用しながら、対象理解に努める。</li> <li>・患者の心理的・社会的側面について、ゴードンの枠組みを活用して、系統的に情報を記録用紙に整理する。</li> <li>・患者の健康障害やそれに伴う治療などから、どのように心理的・社会的側面に影響をもたらしているかを考え、そこからどのような看護問題があるのか明らかにする。</li> <li>・これまでの健康管理や健康意識、これまでの生活背景や社会背景、今後どのような生活を送っていきたいと望んでいるのか、病気の受け止めや理解はどうか、今後の生活についてどうしたい、どうなりたいと考えているのかなど、情報から考え表現する。</li> <li>・今までの発達課題での役割遂行状態や健康障害や入院による役割への影響、入院生活中の患者役割の状態など、情報から考え表現する。</li> <li>・患者にとっての重要他者（キーパーソン）や家族背景を知り、退院に向けた患者のサポートシステム（サポート体制）の退院後の生活への影響について考え、どのような退院支援が必要になるのか考え、表現する。</li> </ul>
④患者に必要な看護を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者のアセスメント（情報に基づく解釈・分析）から、<u>患者に必要な看護</u>を明らかにする。</li> <li>・看護問題を表現する場合は、看護診断を用いる必要は無いが、<u>実在型やリスク型の看護問題</u>がある場合には、<u>原因・要因につながる関連因子やリスク因子は必ず表現</u>する。</li> <li>・看護問題のリストでは、患者の健康段階や患者のニーズなどを踏まえ、なぜそのような順位にしたのか<u>優先順位の理由</u>を含めて、所定の用紙に記述し、発表する。</li> </ul>
⑤常に患者の状態の変化を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の状況は時々で変化するため、患者を<u>経時的に捉え</u>、<u>訪室のたびに患者の全身状態</u>に変化がないか観察し、日々の看護記録に表現する。</li> <li>・患者に違和感や異変、状態の悪化を感じたら、<u>速やかに報告</u>する。</li> </ul>
◇ケアする力	
学習活動	学習内容と学習方法
①個別性のある患者へ計画を立案する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者に実践する援助技術については、援助の基本に準じながらも、<u>患者の状況や状態を考慮</u>した上で、患者に適した援助計画になるように、<u>具体的な方法や留意点</u>などを考え、<u>ルーブリーフ</u>などの用紙に記載し、実践の足跡としてポートフォリオに追加していく。→ <u>経験録</u>にも記載する</li> <li>・援助の前には事前にシミュレーションをし、物品の配置や方法などイメージしておく。</li> <li>・病棟の物品等でわからない時には、指導者に確認したり相談したりする。</li> <li>・援助の前には、自ら指導者や教員に<u>計画表</u>を用いて、<u>援助方法の説明</u>をする。</li> <li>・看護過程の中で、「看護計画」立案する際には、患者の健康段階を踏まえ、<u>優先順位の高く実践可能なものを立案</u>する。その際には、<u>事前に指導者や教員に相談してから立案</u>する。</li> <li>・「看護計画」では、患者の個別性を考慮し、O・P・T・P・E・Pについて考える。その際には、チームメンバーが理解しやすく代わりに行動可能な計画にする。また、患者に合わせ、理想ではなく、<u>実現可能な援助方法</u>を考える。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
②患者に適した援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前日の帰りや当日の朝には患者の予定を電子カルテから確認し、援助計画の参考にする。</li> <li>・援助の当日には患者の状況や状態を確認し、必要に応じて援助計画の修正や変更をする。</li> <li>・患者の予定に合わせて時間の変更の必要性があれば、メンバー間で援助を調整する。</li> <li>・実習グループの予定を随時確認し、それぞれが円滑に援助を実施できるように調整し合う。</li> <li>・患者の状況や状態に応じた安全を考え、可能な範囲で患者の希望を取り入れる。</li> <li>・事前計画や打ち合わせを活かし、患者の希望を取り入れながら患者の満足度につながるような援助を実施する。</li> <li>・患者の安全を守るため、日常生活援助の実施時は、必ず指導者や教員に同行を依頼する。</li> <li>・援助の原理・原則を意識し、患者の状況や状態に合わせて危険を回避する方法で実施する。</li> <li>・患者と関わる時には、常に危機意識を持ち、患者の危険を予測しながら援助する。</li> <li>・援助中は、保温やプライバシー、羞恥心、環境の配慮などに配慮する。患者の状況や状態に配慮し、患者に苦痛や不快が生じていないかを確認しながら援助を実施する。</li> <li>・患者の状態や状況に合わせて、自立支援や残存機能を意識した援助を実施する。</li> <li>・高齢者は個人差があるが、活動と休息のバランスを考慮した上で援助を計画、実施する。</li> <li>・援助中は患者の意思や反応を確認したり、観察したりしながら行い、援助中の患者の反応に応じて、援助方法を修正したり、変更したりする。</li> <li>・援助後は患者の状態変化や効果を捉えるために、必要な声かけや観察をする。</li> </ul>
③実施した援助を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施後の教員と指導者との振り返りをする前に、患者の反応を思い返し、援助について自己の思考を整理し、自己の考えを伝えられるようにする。</li> <li>・援助後には、指導者側と共に以下の点について振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇患者の反応から、その実施した援助の効果や目的達成の度合いがどうであったか</li> <li>◇実施結果の原因・要因は何であったのか</li> <li>◇患者に適した援助にするための改善点や修正点はどのようにすればよいと考えるか</li> </ul> </div> </li> <li>・援助結果については、「日々の記録」で実施結果や学びを整理し、記録する。</li> <li>・看護計画に関連する援助を実施した際には、「看護計画」用紙にその日の結果を評価し、計画の修正や改善をする。最終日には、期待される成果に基づいて、到達度を評価する。</li> <li>・自己の実践力を振り返り、次の援助に活かす努力をする。</li> <li>・患者の状況に合った援助を目指し、日々の振り返りや積み重ねから、技術の向上を目指す。</li> </ul>
◇協働する力	
学習活動	学習内容と学習方法
①チームの一員として報告・連絡・相談する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・判断に迷ったり、患者の状況で困りが生じた場合は、速やかに報告・連絡・相談する。</li> <li>・患者に急変や緊急性を伴う事案が生じた場合には、適時性を考慮して速やかに報告・連絡・相談をする。</li> <li>・オリエンテーションで、報告時間や方法について把握する。</li> <li>・報告前には、実践した内容をメモ帳に簡潔にまとめ、情報は系統立て整理する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告では、予定していた援助の実施結果から、自身の気づきや判断、今後の予定なども報告する。患者のことで気になったことは適時性を持って情報共有する。</li> <li>・担当看護師に報告する際には、必ず教員や指導者に事前に確認してもらい、その上で、担当看護師に報告に行く。単独で行わない。</li> <li>・個人情報の保護のもと、報告する場所を考えて報告する。</li> <li>・報告は午前と午後の2回行い、決められた時間までに報告する。患者の検査や同行などで報告時間の調整が必要な場合は、事前に調整をする。</li> </ul>
②看護チームの一員として行動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟オリエンテーションから、病棟のスケジュール（援助や処置、配膳時間、カンファレンス時間、報告時間など）を把握し、それに合わせた計画表をグループで作成する。</li> <li>・看護チーム内の申し送り、カンファレンス、カルテなどから、常に最新の患者や家族に関する情報を得るように努力する。</li> <li>・担当患者に関する援助や検査など、担当学生として主体的に目的を持って参加する。</li> <li>・患者の計画で予定したことは責任を持って実施するが、患者の状況や状態により急遽予定の変更や中止になった場合には、必ず担当看護師に理由を説明し報告する。</li> </ul>
◇意志決定を支える力	
①患者や家族の意思を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者や家族との関わりを通して、病気や治療、今後の生活などに対する<u>願いや希望を知る</u>。</li> <li>・患者や家族の真意に寄り添い、<u>傾聴する姿勢や態度で接し、相手の立場に立って考える</u>。</li> <li>・患者や家族の願いや希望などを聞いた場合には、<u>担当看護師に報告し、病棟のチームとして情報共有する</u>。</li> </ul>
◇振り返る力	
学習活動	学習内容と学習方法
◇看護師としての基本的態度・姿勢	
①看護学生としてマナールールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人であると同時に医療職の一員としてどのような取り組みや振る舞いが求められているかを考え、責任ある行動をする（身なり、接遇、挨拶など）。</li> <li>・実習や病院のルールなど、その目的や意味を考えて時間を意識した行動をする。</li> <li>・記録物の記載方法、提出方法や提出期限など指示されたことを守る。不明な時は確認する。</li> <li>・判断に迷った場合や状況で困った時、わからない時には曖昧にせず、必ず教員や指導者に相談する。</li> <li>・病院リーダーは、交通手段の方法を病棟かつ病院ごとに整理・記入し、教員に提出する。</li> </ul>
②個人情報管理し、守秘義務を守る行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示されたタイプのメモ帳を用意し、白衣やナースポシェットなどと固定し、外れないようにする。</li> <li>・電子カルテや記録物の取り扱いに留意し、適切な方法で管理する。</li> </ul>

学習活動	学習内容と学習方法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 看護学生として知り得た個人情報是他言せず、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。</li> <li>▪ 報告の際には、適切な場所で行う。</li> </ul>
③看護学生として自己の健康管理をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 看護者として健康管理することの重要性について考える。</li> <li>▪ 生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないように、自己の心身の健康管理を行う。</li> <li>▪ 看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、手洗いの徹底を行う。</li> <li>▪ 感染対策については病棟の方法に準じて行う。</li> <li>▪ 体調不良の場合は、適切な判断や行動がとれるよう、必ず報告・連絡・相談をする。</li> <li>▪ 健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する。</li> </ul>
④実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 実習中は、グループの1日の行動計画を作成し、患者の状況に合わせて予定を調整する。</li> <li>▪ グループメンバーは、それぞれのメンバーの行動を意識し、それぞれが体験した意味ある学びや助言をグループ全体の学びとして共有し、グループ全体が成長できるように行動する。</li> <li>▪ グループメンバー、グループのチームとして援助を協力し合ったり、メンバーが悩んでいたたり困っていた時には相互に助け合う。</li> <li>▪ カンファレンスではテーマに対しての意見を持って参加し、メンバーの意見にも耳を傾けながら、建設的なカンファレンスになるようにする。カンファレンスでのテーマに対する結論やまとめを司会者は最後に整理したり、まとめたりする。</li> <li>▪ カンファレンスでは建設的なカンファレンスを行い、その学びを翌日以降の実習に活かす。</li> </ul>
⑤患者や看護の理解が深まるように取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。</li> <li>▪ 実習では患者に関心を持ち、体験できる機会やチャンスを逃さないように行動する。</li> <li>▪ 患者に関心を持ち、気になることは調べ、看護活動につなげる。</li> <li>▪ 質問されたことや疑問をそのままにせず、追加学習を主体的に進める。</li> <li>▪ わからないことは助言を求め、受けた助言を活かす。また、記録物での教員や指導者からのコメントについては追加・修正するなどして学びを深める。</li> </ul>

## 6. 事前準備について

- 1) 病院の実習オリエンテーション前には、実習要項を読み込み、実習で何をすべきか明確化する。
- 2) 看護技術練習
  - 空き時間を活用して、計画的に練習をする。
- 3) 既習学習の復習
  - 既習の学習内容を、計画的に復習する。
  - 学習したことは、ポートフォリオ（学習ファイル）に綴じ、実習先で活用できるように工夫する。

4) 実習担当教員から事前にオリエンテーションを受ける。

\* 再度実習要項を熟読し、気になる点や疑問は質問し、実習前の不安や心配事を解決する。

5) 体調管理に留意する。

## 7. 実習スケジュール

	時間	実習内容	カンファレンス
1月	2	事前オリエンテーション	
1	9	病棟オリエンテーション、個人面接、受け持ち患者の選定、コミュニケーション	
2	9	患者の状態観察、日常生活の捉え * 情報収集	あり
3	8	患者の全体関連図の発表 / 個別指導	
4	9	患者の状態観察、日常生活援助の実施、環境整備 (原則毎日実施)	あり
5	9	患者の状態観察、日常生活援助の実施	
6	9	看護問題 (看護問題リスト含む) と看護計画の発表 / 個別指導	
7	9	看護計画に基づいた看護の実践	あり
8	9	看護計画に基づいた看護の実践 (修正とより良い看護実践の実施)	あり
9	9	看護計画に基づいた看護の実践 (修正とより良い看護実践の実施)	
10	8	看護を語る会と学びの共有、個人面接	

\* 8時間 8:30~15:30

\* 9時間 : 8:30~16:15

## 8. 個人面談について

- ・実習初日の個人面談では、基礎看護実習Ⅱの自己の課題を再認識し、課題解決に向けてどのように取り組もうと考えているのか自身の思いや考えを整理して臨む。また、実習に対して事前に指導者側に心配なことや不安なことがあれば伝える。
- ・実習最終日では、今後看護実践力を高めるために必要になること (課題) や実習体験から学んだことや成長できたことなど、助言を得ながら整理していく。

## 9. カンファレンスについて

- ・司会は原則学生が行う。司会は日替わりで交代する。
- ・カンファレンス場所については、オリエンテーション時に確認する。
- ・テーマは自由だが、「実習体験からの疑問」や「グループメンバーに相談したいこと」などから、課題解決に向けたテーマを設定にする。メンバー同士自分たちの経験から話せるようなテーマであると、お互いに意見が出しやすい。
- ・学生は、必ず昼食後に指導者と教員に時間・テーマを直接伝える。

- ・カンファレンスの時間に関しては、グループで予定を調整し決定するが、看護活動の状況により変更になる時はメンバーと再調整し、指導者側に報告・連絡する。
- ・カンファレンス前には、各自テーマについての自己の考えを整理しておく（例：言いたいこと・言いたいこと  
の理由・結論）。
- ・司会者は、テーマに合わせて進行するが、意見が出ない時にはメンバーを指定して発言を促してよい。
- ・カンファレンス中司会者以外の学生はメモを取らず、他者の意見を聴くことや自身の考えを伝え、相互に学  
び合う。
- ・カンファレンス終了後には、学びや自身の考えをまとめ、カンファレンス記録用紙に記述する。
- ・カンファレンスがない日であっても、グループで希望があれば実施してよい。その時は必ず指導者と教員と  
調整する。

## 10. 看護技術について

### 1) 援助のルール

援助については、原則指導者教員の同行や指導のもとで行われる。安易に自己判断せず、ベッドサイドにコ  
ミュニケーションに行く際にも、必ず指導者や教員に伝達してから訪室する。

### 2) 経験録

- ・経験録は、青いリール形式ファイルに綴じ、3年間使用するため紛失しないようにする。
- ・見学や体験した看護技術については、経験録にその実績をその日の内に日付を記載する。
- ・看護技術として到達水準に見合った条件で、身についたと評価された技術は、教員の印が記される。

看護技術の到達度として、実施困難な場合は見学するもの：レベルが見学のもの

看護技術の到達レベルとして、指導の下で実施可能なもの： \_\_\_\_\_

既習の看護技術：環境整備、臥床患者のシーツ交換  
食事介助、食事指導、経管栄養法（挿入・注入）  
排泄援助、一時導尿・膀胱留置カテーテル、浣腸、摘便、ストーマ管理  
車いすの移送と移乗介助、歩行介助・移動介助、体位変換、自動・他動運動の援助、  
ストレッチャー移送  
足浴・手浴、整容、寝衣交換、シャワー浴の介助、全身清拭（陰部洗浄含む）、洗髪（オ  
ムツ使用）、口腔ケア  
酸素吸入、吸引（鼻腔・口腔、気管内）、ネブライザーを用いた気道加湿、体位ドレー  
ジ、褥瘡予防ケア、創傷処置  
経口薬、経皮・外用薬、坐薬の投与、皮下注射・筋肉内注射・点滴静脈内注射・点滴静  
脈内注射の管理、  
輸血の管理  
 緊急時の応援要請、BLS  
バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、検体の取り扱い、簡易血糖測定、  
静脈血採血  
標準予防策、必要な防護用具の選択・着脱、使用した器具の感染防止の取り扱い、

感染性廃棄物の取り扱い、無菌操作、針刺し事故防止・事故後の対応  
医療機器（酸素ボンベ・十二誘導）の操作・管理  
置法、安楽な体位の調整

## 11. ルーブリックの活用

- ・ルーブリック評価表とは、看護実践力に基づき、評価規準（実習の学習活動に応じた具体的な到達目標）と、評価規準に即した評価規準（どの程度到達できればどの評点になるのかの記述）を表（マトリックス）で示したものである。

## 12. 看護を語る会 + 学びの共有 ※時間は1時間程度で

### 1) 看護を語る会

- ・発表準備：受け持ち患者との関わりを通して、得た看護の学びや気づきなどについて発表する。  
患者紹介から、どのような看護実践をしたのか、その過程の中でどのような看護の学びや気づきを得たのか、簡潔に伝えたい内容を整理し、発表の準備をする。
- ・進行は、教員が行う。
- ・発表方法：タブレットや実習記録、ポートフォリオなどを用いて、他者に伝わる工夫を考え、発表する。
- ・発表時間：5分～6分以内 \*事前に練習し、調整してくる
- ・発表順は、事前に決めておく。

### 2) 学びの共有

- ・看護を語る会後に、2週間の実習での学びや気づきをグループで意見交換する（25分程度）。
- ・学生が司会・進行する。

## 13. 提出物一覧

- 1) 紙ファイル（記録一式）\*インデックス付
- 2) ポートフォリオ
- 3) メモ帳
- 4) 実習日誌 \*健康チェック表は提出不要
- 5) リール式青ファイル（経験録）
- 6) リール式赤ファイル（実習目標シート、総括のコピー、実習状況の記録）



## **VIII. 臨地実習**

# **地域・在宅看護実習 I**



## 地域・在宅看護実習 I

### はじめに

超高齢多死社会の現在、地域特性を活かした地域包括ケアに貢献できる看護職の育成を目指し、対象を生活者として理解し、その人の尊厳ある人生を支える看護実践ができる人材、医療機関をはじめ地域における多様な場でも臨床判断ができる人材の育成が求められている。地域・在宅看護実習は、生活の基盤である地域を理解するとともに、地域で暮らす人々の健康支援を学ぶものである。

地域・在宅看護実習 I では、地域・在宅看護論 I のフィールドワークを生かし、健康課題をもちながら地域に暮らす人々の様々な生活の場を観察する。更に、人々との関わりを通して日々の生活の中で感じている思いを知り、その人らしく生活するとはどういうことか考える。そして、実習を通して得た学びを、実習後の授業の中で、生活の基盤である地域と暮らしている人々の理解につなげていく。

### 1. 実習目的

健康課題を持ちながら地域に暮らす人々との関わりを通して地域で暮らす人々の生活について考察する。

### 2. 実習目標

- 1) 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々を尊重した関わりをする。
- 2) 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々の日常生活の場を理解する。
- 3) 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々の生活史・生活様式を理解する。
- 4) 健康課題を持ちながら地域に暮らす人々の生活を踏まえ、人々の生活に影響していることを考える。
- 5) 看護学生としての自覚をもって行動する。

### 3. 時間数と単位数

1 単位 45 時間 (1 時間=45 分)

- ・実習オリエンテーション 2 時間 (1 コマ)
- ・臨地実習 9 時間×4 日 (8:30~16:15)
- ・学内実習 7 時間×1 日 (8:45~15:00)

### 4. 実習場所

訪問看護ステーション (志太・焼津北・スポット・わかば・寿丸・池ちゃん家 他)

小規模多機能型居宅介護事業所 (小規模多機能ホーム「池ちゃん家」焼津・西焼津看護多機能ホーム「池ちゃん家」・小規模多機能ホーム「池ちゃん家」藤枝・コミュニティビレッジ下小田 他)

透析室 (榛原総合病院)

化学療法室 (藤枝市立総合病院)

就労継続支援 B 型事業所 (社会福祉法人心愛志太第二心愛、社会福祉法人高風会連)

5. 実習目標と学習内容、学習方法

◇ニーズを捉える力	
学習活動	学習内容・学習方法
①訪問者としてマナーを守り、ふさわしい行動をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ（髪型・服装など）を整えて実習に臨む。</li> <li>・対象者のテリトリーに配慮し、許可を得てから訪問させて頂く。</li> <li>・訪問時間に遅れることがないように、指導者・担当者に事前確認し、準備する。</li> <li>・挨拶、言葉遣い、声の大きさ等に留意し、対象者の状況に合わせた立ち居振る舞いを意識して行う。</li> </ul>
②対象者に向き合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者や実習施設スタッフの関わり方を観察する。</li> <li>・自ら対象者に関わる。</li> <li>・対象者が話しやすいコミュニケーション姿勢をとる。</li> <li>・対象者に対し、自ら挨拶・自己紹介を行い、了解を得て話しかける。</li> <li>・対象者の話をよく聴く。</li> <li>・対象者の状況、状態に合わせたコミュニケーション方法を考え、実施する。</li> </ul>
③対象者の言動の意味を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の発言や非言語的表現を観察する。</li> <li>・対象者の状況を踏まえ相手の立場に立って対象者の言動から気持ちを考える。</li> </ul>
④対象者の居住環境を観察し、意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人の生活の現状について観察する。</li> <li>・居住環境を観察し、生活しやすく工夫されている状況について、対象者や家族との会話を通して知る。</li> <li>・対象者の居住空間にある生活用品等を観察する。</li> <li>・生活用品の位置等対象者・家族との会話、または担当者・指導者との会話を通して知り、どのような意味があるか考える。</li> </ul>
⑤対象者の日常生活動作・生活行動を知り、意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の日常生活動作、手段的日常生活動作について、関わりの中で観察し、対象者や家族との会話、または担当者・指導者との会話を通して知る。</li> <li>・対象者が生活行動の中でこだわっていること等、どのような意味があるかを考える。</li> <li>・対象者の一日、1週間の生活行動(仕事含む)について、対象者や家族との会話を通して知る。また、担当者・指導者から情報を得る。</li> <li>・健康維持のために工夫していることについて、対象者や家族との会話を通して知る。</li> <li>・対象者の生活習慣やライフスタイルが対象者に影響していることを考える。</li> </ul>
⑥対象者の趣味や楽しみ、人生観について知り、意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の趣味や楽しみについて、対象者や家族との関わり、または担当者や指導者等との会話・質問を通して知る。</li> <li>・日々の生活における家族の中での対象者の役割について、対象者や家族との関わり、または担当者や指導者等との会話・質問を通して知る。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活史や人生観について、対象者や家族との関わり、または担当者や指導者等との会話・質問を通して知る。</li> <li>・対象者の趣味や楽しみ、人生観等が対象者へどのような影響を与えているのかを考える。</li> </ul>
⑦地域に暮らす人々の生活に必要なことについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に暮らす人が大切にしていることや信条が、生活にどのような影響を与えているのか考える。</li> <li>・健康上工夫していることが、生活にどのような影響を与えているのか考える。</li> <li>・対象者の日常生活の場において、生活をするために必要なことは何かを考える。</li> <li>・地域の中で、人々が暮らす日常生活の場にはどのようなものが必要なのか考える。</li> </ul>
◇ケアする力	
学習活動	学習内容・学習方法
①対象者に対し、自己の反応を返す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の話をよく聴く。</li> <li>・対象者が話しやすいように、適時に反応を返す。</li> <li>・対象者の反応を見ながら、自己の思いや考えを伝える。</li> </ul>
②自己の言動が対象者へ与える影響を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者との関わりの中での対象者の表情、しぐさ、口調、態度などを観察する。</li> <li>・対象者との関わりの中での自己の表情、しぐさ、口調、態度などを想起する。</li> <li>・対象者の反応から自己の言動が相手にどう影響していたのかを振り返る。</li> <li>・振り返ることで自己の関わり方の傾向を考える。課題に対して、改善策を考え、行動する。</li> </ul>
◇協働する力	
学習活動	学習内容・学習方法
①対象者の生活を支えているものについて捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に必要なサービスや医療等について、対象者や家族との関わりを通して知る。または担当者や指導者等との会話・質問を通して知る。</li> <li>・対象者の身近な方々との交流の様子について、対象者や家族との関わりを通して知る。または担当者や指導者等との会話・質問を通して知る。</li> <li>・対象者の生活を支えているものが対象者にとってのどのような意味をもつのか考える。</li> </ul>
◇振り返る力	
学習活動	学習内容・学習方法
①自己の言動から自己の傾向や課題に気づき改善に向けて行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々、ルーブリック表を活用し、目標の到達度について評価し、課題を明らかにし、目標の到達に向けて行動する。</li> <li>・日々の体験（エピソード）を踏まえて自己の言動を振り返り、改善策を考え、行動する。</li> <li>・自己の行動を改善していくために、教員や指導者など他者からの助言を</li> </ul>

	<p>素直に受け止める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通じた自己の成長や課題を目標シートで明らかにし、今後に向けた取り組みについて明確にする。</li> </ul>
◇看護師としての基本的態度・姿勢	
学習活動	学習内容・学習方法
①看護学生としてマナーやルールを守る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設ごとの特徴を自ら情報収集する。</li> <li>・実習や施設のルールを順守する。</li> <li>・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。</li> <li>・時間管理をしながら行動する。</li> <li>・実習での困り事や判断に迷った場合は、曖昧にせず教員や指導者に確認、相談する。</li> </ul>
②個人情報や管理し、守秘義務を守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として知り得た個人情報や施設内の情報は他言せず、守秘義務を守る。</li> <li>・記録物の管理は他者の目に触れず、紛失しない。</li> <li>・報告は適切な場所で行う。</li> <li>・実習で使用するメモ帳や記録物の扱いは学校でのルールを遵守する。</li> </ul>
③看護学生として自己の健康管理をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣を整え、自己の心身の健康管理を行う。</li> <li>・他者への感染予防に責任をもち、手洗い・含嗽・マスクの着用を徹底する。</li> <li>・体調不良の場合は、適切な判断を行うために、必ず報告・連絡・相談をする。</li> <li>・健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する。</li> </ul>
④実習メンバーと情報や学びの共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人だけの学びを優先せず、グループメンバーを意識して行動する。</li> <li>・メンバー同士で協力し合い、助け合う。</li> <li>・カンファレンスは、グループで司会者を順番に決め、司会者役割、メンバー役割を遂行し、学び合う姿勢を持つ。</li> <li>・自分の意見を積極的に伝えるとともに、他者の意見を大切に聴き、互いに学びを共有し合い、学びを深めていく努力をする。</li> </ul>

## 6. 実習の動き

1) 実習期間 5日間

2) 実習計画 実習オリエンテーション

1～4日目 同行実習・地域で暮らす人々への関わり（臨地）

5日目 ・実習グループ毎学びの共有

（テーマ：健康課題を持ちながら地域で暮らす人々にとって必要なことは何か）

全体での発表（学内）

## 【実習ローテーション】

日	時間	場所	実習施設	
1日目	8:30~16:15	臨地	訪問看護ステーション	透析室、化学療法室、就労継続支援 B 型事業所、小規模多機能型居宅介護事業所
2日目	8:30~16:15	臨地		
3日目	8:30~16:15	臨地	透析室、化学療法室、就労継続支援 B 型事業所、小規模多機能型居宅介護事業所	訪問看護ステーション
4日目	8:30~16:15	臨地		
5日目	8:45 ~ 15:15	学内	学校	

\* 2日間ずつ実習場をローテーションする（1施設2~3名程度）。

\* 訪問看護ステーションは学生全員必須。透析室他はグループごと実習場が変わる。

## 7. 提出物一覧

### 1) 学習ファイル

### 2) 実習ファイル（①~④をまとめ、インデックスをつけてファイリングする。

提出は、実習終了日の翌日 \* 翌日が土日祝祭日の場合は翌週月曜日)

- ① 評価表
- ② ルーブリック
- ③ 総括「健康課題を持ちながら地域で暮らす人々にとって必要なことは何か」(A4)  
\* 具体例を挙げて述べる
- ④ 地域に暮らす人々の生活  
\* 毎日の記録は翌朝指導者か教員に提出する。
- ⑤ 日々録（自己の行動の振り返りや感想）  
\* 毎日の記録は翌朝指導者か教員に提出する。

## 8. 服装と持ち物

服装：ポロシャツ・ジャージズボン・エプロン・白の靴下（天候・汚染の可能性もあるため予備を持参する）・運動靴（必要時はカーディガン着用）

持ち物：トートバッグ・アルコールジェル・折り畳み傘・水筒・メモ帳

## 9. 事前準備について

### 1) 既習学習の復習 既習の学習内容を計画的に復習する

学習したことは学習ファイルに閉じて実習先で活用できるように工夫する

\* テキスト：地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、看護学概論等

訪問時のマナー・コミュニケーション法

各施設の特性についての事前学習

### 2) 実習オリエンテーションを受ける \* 事前に実習要項を熟読しておく



## **VIII. 臨地実習**

# **地域・在宅看護実習Ⅱ**



## 地域・在宅看護実習Ⅱ

はじめに

地域・在宅看護実習では、地域に暮らす人々とその家族を看護の対象として、健康や暮らしを支援するために、生活の基盤である「地域」を理解するものである。地域特性を活かした「地域包括ケア」に貢献できる看護職の育成を目指し、対象を生活者として理解し、その人の尊厳ある人生を支える看護実践ができる人材、医療機関はじめ地域における多様な場でも臨床判断できる人材の育成が求められている。「地域包括ケア」とは、様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、医療や介護が必要になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らしを続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が包括的に確保されるという考え方である。このしくみを「地域包括ケアシステム」といい、誰もが“我が事”として捉えていく必要がある。

地域・在宅看護実習Ⅱでは、健康上のニーズを抱えながらも自分らしく地域で暮らし続けるための支援が行えるように、地域で連携する職種の専門性を知り、役割を理解することにより、どのような連携・協働が必要か考えていく。また、地域包括ケアシステムの重要性や必要性を理解した上で、社会から求められる看護職の役割は何かを創造的に考えていくことが重要である。

### 1. 実習目的

地域の人々が安心して暮らすための対象者を取り巻くチームでの連携・協働の在り方を考える。また地域包括ケアシステムの中で求められる看護師の役割とは何か考える。

### 2. 実習目標

- 1) 地域で暮らす人々の暮らしを理解する。
- 2) 地域で暮らす人々の保健・医療・福祉に対するニーズを理解する。
- 3) 対象を取り巻く様々な職種の専門性を理解する。
- 4) 対象者が安心して暮らすためのケアマネジメントについて考える。
- 5) 地域包括ケアシステムにおける多職種との連携・協働について考える。
- 6) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について考える。
- 7) 看護学生として自覚をもって行動する。

### 3. 時間数と単位数

2単位 90時間（1時間=45分）

実習オリエンテーション 2時間

臨地実習 74時間

学内実習 14時間

### 4. 実習場所

保健センター（焼津・藤枝）

地域連携室（藤枝市立総合病院・榛原総合病院・甲賀病院・聖稜リハビリテーション病院）

居宅介護支援事業所（焼津市医師会・ケアセンターゆうゆう・愛華の郷・三輪医院・亀寿の郷・ココケア 他）

5. 実習内容・実習方法

◇ニーズを捉える力	
学習内容	学習方法
① 対象者、家族の生活状態、状態を捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭や対象者への同行訪問を行う。</li> <li>・対象者や家族の生活状況、状態を把握するための必要な情報は何かを考える。</li> <li>・同行訪問する対象者の状況を事前に指導者や担当者へ確認する。</li> <li>・対象者や家族へ学生自ら質問したい場合は、事前に指導者または担当者と内容の相談を行う</li> <li>・対象者・家族の情報収集をどこからどのように行うのか考え、適切な手段で情報収集を行う。</li> <li>・対象者、家族の生活状況や身体状態、状況を観察する。</li> <li>・対象者、家族の身体状態や状況が生活へ及ぼす影響をアセスメントする。</li> <li>・学生が対象者や家族から得た情報は指導者または担当者へ伝え、情報の共有を行う。</li> <li>・対象者、家族の状況、状態を日々記録でアセスメントする。</li> <li>・対象者、家族の状況、状態をネットワーク図にまとめる。</li> </ul>
② 対象者、家族のニーズを捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者や家族の現在、未来への思いや願いを対象者、家族、指導者などに確認する。</li> <li>・対象者や家族の思いや願いを現在の状況、状態を踏まえて肯定的に受け止める。</li> <li>・対象者の思いや願いをネットワーク図に表現する。</li> </ul>
③ 高齢者の暮らしの現状を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での該当地区の高齢化率や人口動態などを学習する。</li> <li>・地域包括支援センターの介護予防ケアマネジメント、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、総合相談業務の見学実習に参加する。</li> <li>・参加した活動の対象、目的、内容、方法、参加者の反応を捉え、事前学習を基に事業の必要性を考え、日々録に表現する。</li> </ul>
④ 地域で暮らす人々の保健・医療・福祉に対するニーズを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での該当地区の特性を事前学習する。</li> <li>・日々の実習で対象者や家族の暮らしの状況、思いなどから保健・医療・福祉に求めることに対する気づきを日々録に表現する。</li> <li>・実習全体を通して、地域の特性と様々な対象者や家族の暮らしぶりや願い、思いと関連させながら、地域に暮らす人々が保健・医療・福祉に求めていることを日々録に表現する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、地域包括ケアシステムを地区マップとして表現する。</li> </ul>
◇ケアする力	
学習内容	学習方法
① ケアする人としてのコミュニケーションについて考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者と指導者またはスタッフとの関わりの場面の見学をする。</li> <li>・対象者の表情や発言の観察を行う。</li> <li>・指導者またはスタッフの会話時の姿勢。態度の観察を行う。</li> <li>・指導者、担当者のコミュニケーションでの姿勢、態度を意味づけし、自己の考えを指導者またはスタッフに確認する。</li> <li>・指導者またはスタッフへ関わり方から対象者を尊重したコミュニケーションについて考え、日々録で表現する。</li> <li>・自己のコミュニケーションを振り返り、自己のコミュニケーションの課題を考える。</li> </ul>
◇協働する力	
学習内容	学習方法
① 対象者に応じた専門職のチームでの目的や役割を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で働く他職種の役割、機能を事前学習する。</li> <li>・日々の見学実習での対象者・家族にどのような職種が関わっているのか情報収集する。</li> <li>・対象者・家族を取り巻くチームの専門職の実際の活動を見学する。または指導者、担当者に確認する。</li> <li>・各専門職の役割・機能と実際の活動から、対象者・家族のチーム内でのそれぞれの目的、役割、方法を考え、ネットワーク図に表現する。</li> </ul>
② 保健事業の必要性を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健センターの機能、役割を事前学習する。</li> <li>・該当地域の保健センターの地域保健活動の法的根拠、対象、目的、内容、方法を事前学習する。</li> <li>・地域保健活動（健康相談・健康教育・健康診査・家庭訪問等）に参加する。</li> <li>・事業に参加し、保健活動がどのように行われているのを知る。</li> <li>・参加した事業での関係する職種を知り、活動の実際から専門職の役割、機能について考える。</li> <li>・可能な場合は、対象の人々との関わりを通して、健康に対する意識を知る。</li> <li>・事業に参加することで、地域の特性と保健活動から該当地域の健康課題について考え、日々録に表現する。</li> </ul>
③ 互助、共助の必要性を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自助、互助、共助、公助について事前学習を行う。</li> <li>・該当地域でのどのような互助・共助があるのか事前学習する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の実習の中で互助、共助の活動の実際を見学し、目的、活動を知る。</li> <li>・ 実習体験から地域での互助、共助がなぜ必要なのかを考え、日々録に表現する。</li> </ul>
⑤ 対象者に関わる社会資源を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象者を取り巻く社会資源を情報収集する。</li> <li>・ 対象者を取り巻く社会資源の目的や方法を知り、社会資源間でのつながりをネットワーク図に表現する。</li> </ul>
⑥ ケアマネジメントの視点を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護支援専門員の役割、活動について事前学習する。</li> <li>・ ケアプラン作成・モニタリング訪問・サービス担当者会議等に同行または見学する。</li> <li>・ 要介護認定を受けている対象者・家族への関わりについて、見学実習を行う。</li> <li>・ 見学した活動の目的、内容、方法、対象者・家族の反応から調整的関わりについて考え、表現する。</li> <li>・ 指導者や担当者にケアプランを作成時に大切にしていることやケアマネジメントでの考え方についてインタビューする。</li> <li>・ 体験やインタビューを通して、ケアマネジメントの必要な視点について考え、記録に表現する。</li> </ul>
⑦ パートナーシップについて考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パートナーシップについて事前学習を行う。</li> <li>・ 日々の実習で対象者・家族と専門職、専門職同士が関係性を築くために、どのように関わっているのか、また相手へどのような配慮をしているのかを見学する。</li> <li>・ 対象者と専門職がどのような関わり方、配慮が必要なのかを考える。</li> <li>・ パートナーシップはなぜ必要なのかを実習を通して、具体例を示しながら考え、日々録に表現する。</li> </ul>
⑧ 対象者を取り巻くチームメンバーの連携・協働の在り方を考察する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職種間での連携・協働について事前学習を行う。</li> <li>・ 日々の実習での対象者を取り巻くチームがどのような連携や協働を行っているのかを具体的に表現する。</li> <li>・ 実習を通して、様々な体験から対象者を取り巻く職者間の連携・協働がどのように行われ、どのようなことが必要なのかをレポートにまとめる。</li> </ul>
⑨ 地域包括ケアシステムの中で求められる看護師の役割を考察する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括ケアとはどのようなことなのか、地域包括ケアシステムについて事前学習を行う。</li> <li>・ 日々の実習の中で看護職の活動を観察する。</li> <li>・ 実習全体を通して、様々な体験から地域包括ケアシステムの中での看護職がどのような役割を担っているのかを考え、レポートにまとめる。</li> </ul>

◇意思決定を支える力	
学習内容	学習方法
① 意思決定支援について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定支援について事前学習を行う。</li> <li>・対象者や家族の立場に立ち、相手の思いに配慮しながら関わる。</li> <li>・対象者や家族の現状を理解した上で、未来への思いや願いを肯定的に受け止める。</li> <li>・意思決定支援の場面の見学を行う。また指導者や担当者に意思決定場面の具体例を確認する。</li> <li>・意思決定支援での必要なことは何かを考え、日々録に表現する。</li> </ul>
◇振り返る力	
学習内容	学習方法
① 自己の言動から自己の傾向や課題に気づき改善に向けて行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題を明確にして、実習に臨む。</li> <li>・日々、ルーブリック表を活用し、目標の到達度について評価し、課題を明らかにし、目標の到達に向けて行動する。</li> <li>・日々の体験（エピソード）を踏まえて自己の言動を振り返り、改善策を考え、行動する。</li> <li>・自己の行動を改善していくために、教員や指導者など他者からの助言を受け止める。</li> <li>・実習を通じた自己の成長や課題を目標シートで明らかにし、今後に向けた取り組みについて明確にする。</li> </ul>
◇基本的態度・姿勢	
学習内容	学習方法
① 看護学生としてマナーやルールを守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設ごとの特徴を自ら情報収集する。</li> <li>・実習や施設のルールを順守する。</li> <li>・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。</li> <li>・時間管理をしながら行動する。</li> <li>・実習での困り事や判断に迷った場合は、曖昧にせず教員や指導者に確認、相談する。</li> </ul>
② 保健・医療・福祉に携わる一員として責任と役割を意識して参加する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職としての責任と役割とは何かを明確にし、実習に臨む。</li> <li>・自分の言動が他者へ与える影響を考えながら行動する。</li> <li>・実習ではスタッフの一員としての自覚を持ち、行動する。</li> <li>・主体的に活動に参加する。</li> </ul>
③ 個人情報管理し、守秘義務を守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として知り得た個人情報や施設内の情報は他言せず、守秘義務を守る。</li> <li>・記録物の管理は他者の目に触れず、紛失しない。</li> <li>・報告は適切な場所で行う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で使用するメモ帳や記録物の扱いは学校でのルールを遵守する。</li> </ul>
④ 看護学生として自己の健康管理をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣を整え、自己の心身の健康管理を行う。</li> <li>・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、感染予防の行動を徹底する。</li> <li>・体調不良の場合は、適切に判断し、必ず報告・連絡・相談する。</li> <li>・健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する。</li> <li>・看護者として健康管理することの重要性について考える。</li> </ul>
⑩ 実習メンバーと情報や学びの共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人だけの学びを優先せず、グループメンバーを意識して行動する。</li> <li>・メンバー同士で協力し合い、助け合う。</li> <li>・カンファレンスは、グループで司会者を順番に決め、司会者役割、メンバー役割を遂行し、学び合う姿勢を持つ。</li> <li>・自分の意見を積極的に伝えるとともに、他者の意見を大切に聴き、互いに学びを共有し合い、学びを深めていく努力をする。</li> </ul>

## 6. 実習の動き

1) 実習期間 2023年9月27日～10月1日の10日間

### 2) 実習計画

- ・2日間ずつ実習施設をローテーションする。
- ・5日目、10日目は学内で学びの共有を行う。

#### 【実習ローテーション】

日	時間	場	実習施設			
事前	2時間	学内	学校（実習オリエンテーション）			
1日目	9（10）時間	臨地	A：保健センター	B：地域連携室	C：居宅介護支援事業所	D：地域包括支援センター
2日目	9（10）時間	臨地				
3日目	9（10）時間	臨地	B	C	D	A
4日目	9（10）時間	臨地				
5日目	6時間	学内	学校（学びの共有・面接）			
6日目	9（10）時間	臨地	C	D	A	B
7日目	9（10）時間	臨地				
8日目	9（10）時間	臨地	D	A	B	C
9日目	9（10）時間	臨地				
10日目	8時間	学内	学校（面接・地域包括ケアマップ作製）			

※保健センターの実習は10時間として、8:30～17:00とする。

※実習場を2日間ごと4か所をローテーションする。

## 7. カンファレンスについて

- ・基本的には毎日実施する。
- ・司会は原則学生が行う。
- ・カンファレンスの開始時間は指導者と調整して決める。
- ・具体的な体験からの気づき、感じたこと、学びの共有を行い、学びが深まるように進める。
- ・その日の疑問などはカンファレンスの場で指導者に確認する。

## 8. 提出物一覧

最終記録は下記の順番でファイリングし、インデックスを添付する。

- 1) 表紙
- 2) 評価表
- 3) 総括

テーマ1「地域の人々が安心して暮らすためには、どのような職種間の連携・協働が必要であるのか  
を実習体験を踏まえながら述べなさい」

テーマ2「地域包括ケアはどのようなことなのか、また地域包括ケアシステムの中で求められる看護師の役割とはないかを実習体験を踏まえて述べなさい」

- 4) ルーブリック表
- 5) 在宅生活支援のネットワーク図
- 6) 日々録

## 9. 服装と持ち物

服装：ポロシャツ・ジャージのズボン・エプロン・白の靴下（天候や汚染時のために予備を持参）・  
運動靴・（必要時はカーディガン）

\*一部施設では、白ブラウス・黒または紺色ズボン・黒靴または運動靴

持ち物：トートバッグ・アルコールジェル・折り畳み傘・水筒・メモ帳

## 10. 事前準備について

- 1) 既習学習の復習 既習の学習内容を計画的に復習する（地域・在宅看護論Ⅰ、Ⅱ・地域・在宅看護  
実習Ⅰ・看護学概論Ⅰ）。
- 2) 実習施設毎の学習
  - ・保健センターの機能・役割・事業内容(事業の法的根拠、対象、目的、内容)
  - ・関連する社会保障制度等（地域保健法・健康増進法・母子保健法・介護保険等）
  - ・地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の機能・役割・従事する職種
  - ・地域連携室の機能と役割、退院調整看護師の役割



## **Ⅷ. 臨地実習**

# **地域・在宅看護実習Ⅲ**



## 地域・在宅看護実習Ⅲ

### はじめに

地域・在宅看護実習では、地域で生活するあらゆる健康レベルの人々とその家族や地域を理解し、地域における多様な場と看護の役割・機能を学ぶ。看護の対象を個人、集団、地域に拡大し、ライフサイクル全期を通してあらゆる健康のレベルにある人々の健康と暮らしの支え合いについて、自助・互助・共助・公助の視点から地域を理解する。また、地域の特徴や資源を活用し地域で生活する人々の健康課題や地域包括ケアシステムによる支え合いと地域住民の健康ニーズや多様な暮らしに応じた看護について学ぶ。

地域・在宅看護実習Ⅰでは、地域や暮らしを深く理解する能力、地域・在宅看護実習Ⅱでは、自助や互助、さらには共助をより効果的にするための多職種連携・協働のための基本的能力をに養うことを目的としている。今回の地域・在宅看護実習Ⅲでは、Ⅰ、Ⅱの実習での学びを土台として、地域包括ケアシステム等を推進するために、地域に暮らす人々とのパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を養う。また実習を通して社会から求められる看護職の役割は何かを創造的に考えていくことが重要である。

### 1. 実習目的

地域で暮らす様々な人々を理解する。また地域の人々が安心して暮らし続けるために地域包括ケアシステムでの看護師の役割を理解し、在宅看護実践の基礎的看護能力を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 地域で暮らす様々な人の暮らしを理解する。
- 2) 健康課題を持ちながら、地域で暮らす療養者とその家族を理解する。
- 3) 健康課題を持ちながら、地域で暮らし続けるための看護を理解する。
- 4) 地域における医療・介護・福祉の課題を理解する。
- 5) 地域包括ケアシステムでの看護師の役割を理解する。
- 6) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する

### 3. 時間数と単位数

2単位 90時間（1時間=45分）

実習オリエンテーション 2時間

臨地実習 88時間

### 4. 実習場所

訪問看護ステーション（志太・焼津北・スポット・わかば・寿丸・池ちゃん家・ふじえだ 他）

地域包括支援センター（焼津市北部・中部・南部・大井川・藤枝市社協・亀寿の郷 他）

5. 実習内容・実習方法

◇ニーズを捉える力	
学習活動	学習方法
① 対象者と関係性を築く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者や家族などに失礼のない、その場にふさわしい立ち居振る舞いを行い、訪問者であるという姿勢で行動する。</li> <li>・対象者や家族を尊重した姿勢、態度で関わり、対象者や家族の思いをわかろうとする姿勢で関わる。</li> <li>・対象者や家族の立場にたち、相手の思いに配慮しながら関わる。</li> </ul>
② 療養者の暮らしを捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「暮らし」とはどのような要素により構成されているのかを既習の知識を想起し、事前学習する。</li> <li>・「暮らし」を理解するために家族機能、家族の発達段階を事前学習する。</li> <li>・対象者や家族とのコミュニケーションや指導者、担当者、関係職種などから、対象者の家庭の生活史や生活習慣、生活信条、健康観などの対象者の暮らしに必要な情報を収集する。</li> <li>・得た情報を指導者または担当者と共有する。必要時は助言を受ける。</li> <li>・訪問看護実習では受け持ち療養者の暮らしについて「私の捉えた療養者」の用紙に表す。</li> </ul>
③ 療養者の身体状態を捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護実習では、日々同行訪問する療養者の情報を訪問前にカルテ、指導者または担当者から収集する。</li> <li>・療養者の疾患、障がい、年齢など、身体状態を理解するための学習をし、観察したことと照らし合わせながら、療養者の身体状態の理解を深める。</li> <li>・可能であれば、同行訪問時に療養者のバイタルサイン測定を療養者の状態、状況に合わせて実施する。</li> <li>・同行訪問する療養者の身体状況を、家庭・生活背景、生活環境、生活信条、価値観や健康観、1日の過ごし方、日常生活の自立度などの情報を踏まえて解釈する。</li> <li>・観察した内容、解釈は指導者または担当者へ報告し、助言を得る。</li> <li>・訪問看護実習では受け持ち療養者を実習初日に確認し、受け持ち療養者の身体状態は「ゴードンの健康機能パターン」でメカニズムを踏まえて今起きている状態をアセスメントし、今後の成り行きも考える。</li> </ul>
④ 療養者、家族のニーズを捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で関わった対象者の身体、生活状況、生活環境などを踏まえて、思いや願いを知る。</li> <li>・訪問看護実習では受け持ち療養者の思いや願いを知り、対象者の家庭の生活史や生活習慣、生活信条、健康観などの対象</li> </ul>

	者の暮らしを踏まえて、アセスメントする。
⑤ 療養者の全体像を捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護実習での受け持ち療養者について「私の捉えた療養者」の記録用紙にまとめ、「私の捉えた療養者」には療養者本人や家族を含めた生活環境のイメージ図で表す。</li> <li>・ゴードンの健康機能パターンのアセスメントをもとに、療養者を一人の人として統合し、療養者や家族の情報（本人や家庭の強みも含む）、アセスメント、看護を表現する。</li> </ul>
⑥ 対象者にあった看護上の問題を捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護実習での受け持ち療養者に在宅看護の視点をもって「ゴードンの健康機能パターン」でのアセスメントから必要な看護を考える。</li> <li>・「在宅療養上考えられる看護問題」に看護問題の根拠と優先順位の原因を表す。</li> </ul>
⑦ 地域の医療・介護・福祉の課題を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター実習での該当実習地域の特性とその地区の医療・介護・福祉がどのような場や活動をしているのか、また該当施設の地域包括支援センターの役割、機能、活動内容を既習の知識を活用しながら事前学習する。</li> <li>・総合相談業務、介護要望支援、介護予防ケアマネジメント業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、権利擁護業務の活動に見学、参加する。見学や参加する活動がない場合は、事業所内での活動見学や事業内容などの説明を受ける。</li> <li>・参加、見学した活動から地域住民の生活の現状を知る。実際の地域特性、地域住民の生活状況などを事前学習と照らし合わせて、該当地域の医療・介護・福祉の状況を考察し、課題を考える。</li> <li>・地域包括支援センター実習は、同行訪問や事業等の目的を踏まえた上で対象者の状況、対象者の反応、場の状況、指導者または担当者の関わりなどから気づき、解釈を記録する。</li> <li>・参加、見学終了後は観察したこと、気づき、解釈、疑問点などを指導者または担当者へ報告、共有し、助言を得る。</li> <li>・実習中の疑問などはカンファレンスの場を利用して確認する。</li> </ul>
⑧ 療養や介護の継続意欲を左右する要因について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問した療養者や家族が在宅療養を選択した理由や疾病や障がい、在宅療養に対する療養者や家族の思いや希望、何を大切にしているのかを知る。また療養者の闘病意欲や社会資源の活用、地域との関わり、家族の介護意欲が引き出される要因を考察する。</li> </ul>

◇ケアする力	
学習活動	学習方法
①療養者の看護援助を立案する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護実習での受け持ち療養者の思いや願いを踏まえて、療養生活の継続するための目標を設定する。</li> <li>・療養者の目標に向けて実践可能な看護問題から必要な看護援助を考える。</li> <li>・受け持ち療養者への援助内容を指導者または担当者と相談し決定する。援助内容を教員にも報告、相談する。援助計画用紙は援助決定後に記載する。</li> <li>・実際に訪問看護師が実施している各家庭に合わせた援助の方法や工夫、療養者や家族への配慮、教育指導などを参考にし立案する。</li> <li>・日々訪問する様々な家庭にとって療養生活が継続するにはどのような援助が必要なのかを考える。</li> </ul>
②療養者の援助を実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護実習では様々な療養者への援助に積極的に参加する。</li> <li>・訪問看護実習での受け持ち療養者へは計画した援助を実施する。援助前は療養者の身体状態を踏まえて実施してよいかを判断する。判断が困難な場合は指導者または担当者に相談し、助言をもらう。</li> <li>・療養者にとっての安全、安楽な援助を実施する。</li> <li>・援助実施中の療養者の反応を確認し、その時の状況に対応する。</li> <li>・援助実施後は療養者への必要な観察を行う。</li> </ul>
③実施した看護援助を評価する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施した援助を療養者の反応を踏まえて振り返る。</li> <li>・手順や物品、役割分担、物品の配置、関わり方なども踏まえて振り返る。</li> <li>・実施した援助が療養者、家族にとってどのように適していたのか、身体状態や生活状況、生活環境や背景、セルフケア能力、各家庭の方法を踏まえて考察する。</li> <li>・援助結果から目的の達成度を評価する。</li> <li>・よりよい援助を行うための改善点を明確にする。</li> </ul>
◇協働する力	
学習活動	学習方法
①療養者の使用している社会資源の目的を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち療養者の社会資源を「在宅支援のネットワーク図」の記録用紙にまとめる。</li> <li>・療養者の願いを目指し、療養者や家族の状態・状況を踏まえた上で、現在使用している社会資源、今後必要な社会資源の目的、関連性を考えながら作成する。</li> </ul>

②医療・介護・福祉チームの一員として情報共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同行訪問時は事前に指導者または担当者に対象者や家族などの状態、状況の情報、訪問する目的を確認する。</li> <li>・ 同行訪問時の対象者や家族の状態、状況について、気づきや観察した内容、解釈を指導者または担当者に報告する。</li> <li>・ 実習内での気づきや考えを指導者または担当者と共有する。</li> </ul>
③地域包括ケアシステムの中で求められている看護師の役割を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括ケアシステムについて事前学習する。</li> <li>・ 実習場のある地域の特性を事前学習する。</li> <li>・ 地域の現状や特性を踏まえ、実習で携わった地域の医療・介護・福祉の地域包括ケアシステムを考える。</li> <li>・ 実習を通して、地域包括ケアシステムの中の看護師がどのような活動を行い、どのような役割を担っているのかを日々記録、総括で表現する。</li> </ul>
◇意思決定を支える力	
学習活動	学習方法
①意思決定支援について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象者や家族との対話で話を肯定的に受け止める。</li> <li>・ 対象者や家族の現状を理解した上で、未来への思いや願いを受け止める。</li> <li>・ 実習場で起きている意思決定支援の事例を指導者または担当者に語ってもらい、意思決定場面での療養者、家族の立場になって思いを考え、看護師として支援を考える。</li> </ul>
◇振り返る力	
学習活動	学習方法
①実習経験を客観的に振り返り成長につなげようと努力する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日、ルーブリック表を活用し、到達度や自己の行動について評価し、課題を明らかにして、次の行動を考え、実践する。</li> <li>・ 日々の気づきや体験（エピソード）を踏まえて自己の言動を振り返り、自己の傾向やその時々課題を考え、行動につなげる。</li> <li>・ 自己の行動を改善していくために、教員や指導者など他者からの助言を素直に耳を傾け受け止める。</li> <li>・ 実習を通じた自己の成長や課題を目標シートで明らかにし、今後に向けた取り組みについて明確にする。</li> </ul>
◇基本的態度・姿勢	
学習活動	学習方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習や施設のルールを順守した行動をとる。特に同行訪問するときは訪問者であるという姿勢を持つ。</li> <li>・ 実習施設ごとに決められた服装を整える。</li> <li>・ 実習場の記録物の提出場所を確認する。</li> <li>・ 記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。毎日、記録物は1行でも記載のあるものすべてを提出場所に出し、教員や指導者が確認するまで提出し続ける。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での困り事や判断に迷った場合は、曖昧にせず教員や指導者に確認、相談する。</li> </ul>
②個人情報管理し、守秘義務を守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学生として実習で知り得た個人情報や施設内の情報は他言せず、守秘義務を守る行動をとる。さらに地域・在宅看護実習では家庭や家族の状況、経済状況など個人情報の取り扱いには細心の注意を行う。</li> <li>・記録物の管理は他者の目に触れず、紛失しない行動をとる。</li> <li>・報告は適切な場所で行う。</li> <li>・実習で使用するメモ帳や記録物の扱いは学校でのルールに遵守した行動を取る。</li> </ul>
③看護学生として自己の健康管理をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないように、自己の心身の健康管理を行う。</li> <li>・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、訪問前後、援助の前後の手洗いを徹底し、感染予防の行動をとる。</li> <li>・体調不良の場合は、適切な判断や行動がとれるよう、必ず報告・連絡・相談を行う。</li> <li>・健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する。</li> <li>・看護者として健康管理することの重要性について考える。</li> </ul>
④実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人だけの学びを優先せず、グループメンバーを意識した行動をとる。</li> <li>・メンバー同士で協力し合い、助け合う。</li> <li>・カンファレンスにおいては、グループで司会者を順番に決め、司会者役割、メンバー役割を遂行し、学び合う姿勢を持つ。</li> <li>・自分の意見を積極的に伝えるとともに、他者の意見を大切に聴き、互いに学びを共有し合い、学びを深めていく努力をする。</li> <li>・実習施設の実習に必要な事項はメンバー同士で情報共有を行い、実習に支障をきたさないように連携する。</li> </ul>
⑤実習目的、目標や看護の理解が深まるように取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な家庭を同行訪問したり、活動に参加するときは、対象者や場に合わせたコミュニケーションを積極的にとる。</li> <li>・自分のできることを探し、指導者や担当者に確認しながら行動に移す。</li> <li>・日々の体験を記録に残し、考察することで学びを深める。</li> <li>・日々の実習での知識不足、理解不足などは自己で学習を行う</li> <li>・疑問点や不明な点はそのままにせず、教員、指導者、担当者などに確認し、確かめる。</li> </ul>

## 6. 実習の動き

1) 実習期間 9日間実習カレンダー参照

2) 実習計画、実習内容

日程	A: 1・2日目	A: 3・4・5・6・7・8・9日目
	B: 8・9日	B: 1・2・3・4・5・6・7日
実習内容	相談、訪問などの事業の見学 地域包括支援センターの役割と機能の理解 医療・介護・福祉の課題	訪問看護実践 在宅療養者とその家族の理解 在宅療養を支える看護 社会資源の活用と地域ケアシステムの連携・協働の理解
時間数	10時間×2（2日間）	10時間×6 8時間×1（7日目）
実習場	地域包括支援センター	訪問看護ステーション
提出物	日々の記録 事前追加学習用紙	日々の記録、私の捉えた療養者、在宅生活支援のネットワーク図、在宅療養上考えられる看護問題、看護援助計画用紙、同行一覧表
服装	実習施設に準じた服装 （訪問看護実習の服装またはブラウス・スラックス等）	ポロシャツ、ジャージズボン、エプロン、白の靴下（天候・汚染の可能性もあるため予備を持つ）、運動靴、カーディガン（必要時）
持ち物	名札（私服の場合は必ず付けること）、イソジンゴーグル、含嗽用コップ、アルコールジェル、携帯用スリッパ 雨具（折りたたみ傘等） 必要時は室内履き（体育館シューズなど）	訪問バック、血圧計、アルコールジェル、アルコール綿、手袋、聴診器、ビニール袋（処置後の手袋等を入れる）、雨具（折りたたみ傘等）、イソジンゴーグル、含嗽用コップ、携帯用スリッパ、携帯電話 必要時は室内履き（体育館シューズなど）

\* 実習クールにより実習施設の順序がAまたはBとなる。

## 7. 看護技術の到達項目と学び方

看護技術チェックリストを参照し、訪問先で実施できる援助または見学できる援助を事前に指導者と相談する。各家庭で行う援助は多様なため、常に看護技術の事前学習をし、指導者へ積極的に技術についての相談をする。

## 8. 提出物一覧

最終記録は下記を参照しファイルに閉じ、インデックスを添付しファイルに綴じて定時に提出する。

- ①在宅看護実習評価表
- ②在宅看護実習総括
- ③在宅生活支援のネットワーク図
- ④ゴードンの11の健康パターン
- ⑤私の捉えた療養者
- ⑥在宅療養上考えられる看護問題
- ⑦訪問看護実習記録（日々の記録）

- ⑧訪問看護事前・追加学習
- ⑨訪問看護実習同行一覧表
- ⑩地域包括支援センター実習記録（日々の記録）
- ⑪地域包括支援センター事前・追加学習

## 9. その他

### 1) 事前学習

- ・実習施設の地域の特性と健康課題について
- ・実習施設の地区の医療・介護・福祉について
- ・関連する法律等（高齢者医療確保法・介護保険法・地域保健法・健康増進法・健康日本21・ゴールドプラン21・母子保健法・健やか親子21等）
- ・難病対策           ・訪問看護制度           ・家族システム           ・家族看護について           ・施設内看護と在宅看護の特徴           ・在宅療養者に多い疾病・症状           ・在宅における看護援助技術
- ・地域包括支援センターの機能・役割、事業内容、従事する職種について
- ・地域包括ケア   ・地域包括ケアシステム

### 2) 地域包括支援センター

- ・ミーティングに参加し、挨拶、本日の実習目標を発表する。
- ・カンファレンスの時間は指導者と調整して行う。カンファレンスのテーマは学生が決定し、見学した事業から感じたこと、学んだこと、疑問に思うことなど指導者を交えて学生同志で共有できるようにする。

### 3) 訪問看護ステーション

- ・ミーティングに参加し、挨拶、実習目標の発表をする。
- ・オリエンテーションは訪問予定状況により時間を調整して行われる。
- ・受け持ち療養者を担当させていただき、看護を考える。
- ・カンファレンスの時間は指導者と調整して行う。カンファレンスのテーマは学生が決定し、同行訪問して感じたこと、学んだこと、疑問に思うことなど指導者を交えて学生同志で共有できるようにする。

### 4) 貸出について

- ・実習前日に物品定数表に記入の上、訪問バック・血圧計・体温計・アルコール綿・を借り、実習終了翌日に必ず返却する。（在宅看護実習室の棚）

### 5) その他

- ・カンファレンスは毎日実施する。
- ・各施設の実習最終日に学びの会を設ける。

## Ⅷ. 臨地実習

# 成人・老年看護実習Ⅰ



## 成人・老年看護実習Ⅰ

### はじめに

基礎看護実習Ⅲでは、生活者としての患者の退院支援のために、患者の全体を早期の捉え看護過程に基づいた、患者の課題解決に向けた看護実践能力を養うことがねらいであった。

成人・老年看護実習Ⅰでは、健康障害を持ちながら生活する人の生活を支援するために成人・老年期の特徴や生活と健康状態の関連など多方面から患者理解を深めていく。さらに、看護過程の展開を通して、患者にとっての最適健康を目指し自立・自律を踏まえた看護実践力を養うことをねらいとする。また、医療チームの一員として患者家族の希望や願いを尊重し多職種協働を意識した行動から、自身の看護を客観視し成長する力を養う。

### 1. 実習目的

多角的な視点から患者理解を深めて、その人に必要な個別性のある看護を展開し、実践する力を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 多角的な視点からその人を理解し、現在の健康レベルと健康問題を捉え、その人に必要な看護を明らかにする
- 2) 患者理解に基づき、その人に必要な個別性ある看護計画を立案し展開してより良い看護を実践する。
- 3) 日々変化する患者の状態や状況を捉え、根拠ある看護を実践する
- 4) 患者を生活者として捉え、その人の信念・価値観を尊重して関わる。
- 5) 医療チームの一員として自己の役割を自覚し、多職種連携を意識し行動する。
- 6) 看護者としての自己の在り様を振り返り、自己の課題解決と自己成長に向けて努力する
- 7) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

### 3. 時間数と単位数

120 時間（4 単位）… オリエンテーション 2 時間

臨地実習 118 時間（11 日×10 時間、1 日×8 時間）

### 4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

## 5. 学習内容、学習方法

学習活動	学習内容・学習方法
◇ニーズを捉える力	
①患者と関係性を築く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「その人」がどのような人なのか考え、患者の思いや考えを尊重する姿勢で関わり、入院前・現在・退院後の生活について知り理解を深める。</li> <li>・ 患者の発達段階や入院前のこれまでの生活、価値観、信念、願いや希望、強みなど関わりから理解する。</li> <li>・ 常に患者に関心を向け続け、患者の思いや願いを聞き、理解しようと努める。</li> <li>・ 患者の思いや願いと自らが捉えた対象者の心理とに相違がないか確かめる努力をし、理解を深める。同様に家族に対しても思いや願いを知り、患者理解を深めるように努める。</li> <li>・ 患者の思いや願いを理解するように努め、理解に関わりに反映する。</li> <li>・ 患者の状態・状況に合わせて関わりを調整する。</li> <li>・ カルテからの情報に偏ることなく、関わりを通して情報の収集や確認をし、理解につなげる。</li> <li>・ 自己都合を優先することなく、対象者の立場を考えて関わる。</li> </ul>
②患者の身体状態を捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟の特徴を踏まえ、看護の実際に活かすよう知識や技術を学習していく。</li> <li>・ 知識に基づいて主要症状や今までの経過、治療状況、病態が生活に及ぼしている影響等について意図的に情報収集する。</li> <li>・ カルテからの情報収集に終始せず、患者家族や多職種と関わる中で得られる情報から患者理解を深めていく。</li> <li>・ 日々の状態観察や患者との関り時には、五感を用いて患者のありのままの情報（主観的・客観的）を収集し状態を捉える。</li> <li>・ 患者の状態状況を理解するためフィジカルアセスメントし把握する。</li> <li>・ 情報収集した様々な内容を整理しつながりを理解する。</li> <li>・ 患者について得た情報は、「全体像」「関連図」などを活用しながら患者理解を深め看護実践に活かしていく。</li> <li>・ 質問し教えていただいた内容や興味や関心をもって文献を活用し、追及して調べた内容は、調べる動機や意図を表して追求し、学習の軌跡をPFに残す。</li> <li>・ ゴードンの枠組みを活用して得た患者の身体的な情報を系統的に記録用紙に整理する。初回の情報や分析のパソコンでの入力はやいが、指導後には手書きでペンの色を変えて追加・修正し、思考の跡がわかるようにする。</li> <li>・ 看護過程では、情報から、患者に起きていること、その原因、今後の影響（成り行き）について、裏付けとなる知識を用いて記述する。</li> <li>・ 患者の病期や発達段階やメカニズムを踏まえ、科学的根拠に基づいてアセスメントする。</li> <li>・ 患者の状態の変化は指導者や教員とも共有し、変化の理由をアセスメントし患者理解を深めて行く。</li> </ul>

<p>③患者の心理社会的状況を捉える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の病態や入院生活が心理社会的側面に及ぼす影響を考慮して情報を収集しする。</li> <li>・ コミュニケーションスキルを活用しながら、情報収集を行う。</li> <li>・ 患者の言動だけでなく、電子カルテやプライマリー看護師、医療相談員、退院支援看護師、他職種等へも主体的に関わり、様々な方法で情報を収集する。</li> <li>・ ありのままの情報に基づき、患者の性格や強み、信念、価値観、こだわりなどを、偏向や歪曲することなく捉えるよう努める。</li> <li>・ 自身が捉えている患者の人物像と、他者（指導者や教員等）から見えている患者の人物像とに相違があるか確認する。</li> <li>・ 過去・現在・未来の情報を関連させ、心理社会的側面の変化を考え表現する。</li> <li>・ 今までの発達課題の役割遂行状態、健康障害や入院による役割への影響を考え表現する。</li> <li>・ 患者にとっての重要他者（キーパーソン）や家族背景を知り、患者の病態や入院が家族にどのような影響を及ぼすかを考え表現する。</li> <li>・ 退院後の生活を見据え、サポートシステムへの影響も考え、必要となる退院支援について表現する。</li> </ul>
<p>患者の全体像を捉える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族と関わる機会があれば、患者についての家族の思いやこれまでの生活の様子や退院後のこれからの生活など話を聞き、関りに活かしていく。</li> <li>・ 患者の発達段階や入院前のこれまでの生活、価値観、信念、願いや希望、強みなど関わりから捉えた患者について表現する。</li> <li>・ 患者の身体状態・心理社会的状況の捉えを統合し、一人の生活者として捉え「全体像 私が捉えた患者」として表現する。その際、表や図など工夫してわかりやすく表し、受け持ち期間中の患者の状態を追加修正していく。</li> <li>・ 記録物やファイルを活用し、捉えた全体像を実習4日目に発表する。</li> <li>・ 日々の関わりや追加学習を通し、患者の状況をより深い患者理解につながるように勤める。</li> </ul>
<p>④患者の変化に気づき、解釈する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の状況・状態に合わせて、必要な観察のタイミングや頻度を考え、計画や訪室時間の調整をする。</li> <li>・ 推論に基づき必要とされる観察項目を整理し、根拠に基づく観察と情報の検証につなげる。</li> <li>・ 患者の経過を意識し、患者に起きている変化を継続的に観察する。</li> <li>・ 患者に起きている変化がどのような意味を持つのか、知識を活用して分析する。</li> <li>・ 患者の状態を経時的に観察し、訪室毎に患者の状態に変化がないか確認する。</li> <li>・ 日々の気づきや解釈を記録に表し、実践につなげる。</li> <li>・ 患者の状態に違和感や異変など状態の悪化を感じたら、速やかに報告する。</li> </ul>

<p>⑤ 患者にあった看護上の問題を捉える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の状態や状況のアセスメントから、看護上の問題が起きている原因・要因・危険因子、必要とされている看護を偏りや不足なく抽出していく。</li> <li>・ 看護上の問題がどのような影響を及ぼすのか、看護介入されない場合の成り行きも考える。</li> <li>・ 看護上の問題の原因・要因や危険因子となっているものを明確にし、表現する。</li> <li>・ 患者が抱える看護上の問題について、根拠を持って優先順位を判断する。</li> <li>・ 患者の健康段階やニーズ、患者の経過や成り行きを踏まえて、看護上の問題を見直し、優先順位を判断し理由を考え表す。</li> </ul>
◇ケアする力	
<p>①患者の個別性を考慮した看護計画を立案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の願いを踏まえた上で、実現可能な長期目標・短期目標を設定する。</li> <li>・ 優先度が高く、介入可能な看護上の問題について、指導者や教員と相談の上看護計画を立案する。</li> <li>・ 患者理解に基づき、安全・安楽・自立・自律を考慮した看護計画を立案する。</li> <li>・ 患者の状態を考慮し、現在の状態に適した看護計画立案し展開する。</li> <li>・ 一般的な表現ではなく、患者に合わせて具体的に看護計画を表現する。</li> <li>・ 期待される成果は、根拠に基づいた内容とし、客観的指標・目標数値等を具体的に示し、評価可能な表現にする。</li> <li>・ 解決策はO-P・T-P・E-Pに整理して表現する。解決策は、チームメンバーが理解しやすく行動可能な計画にする。また、患者に合わせ、実現可能な援助方法を考え表す。</li> <li>・ 長期目標・短期目標、看護上の問題・関連因子、期待される成果、解決策と一貫性を持って展開する。</li> <li>・ 実践可能であるとともに、患者の状況・ニーズに合わせて適時性のある看護計画を表現する。</li> </ul>
<p>②看護計画を評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の反応、事実をありのまま捉え、S情報・O情報に整理して記録する。</li> <li>・ 評価に必要な事実が偏りや不足なく患者の状態が収集されるよう、観察や援助の振り返り、検査データの確認、他職種への連携等、意図的・主体的に行う。</li> <li>・ 期待される成果の達成度を結果と照らし合わせて、成果の達成度を評価し、計画の継続や見直しを考え判断する。</li> <li>・ 結果から、解決策の妥当性を検討し、必要に応じて具体策や期待せれる成果を評価する。</li> <li>・ 患者の状況・状態、成り行きを踏まえ、適時性を持って実践につながるよう、計画の見直しをする。</li> </ul>

<p>③立案した日々の援助計画を患者の状況に応じて、修正する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援助計画は基本的な原理・原則を踏まえつつ、患者の状況・状態を考慮し、患者に合わせた具体的な計画を表現する。</li> <li>・ 日々の援助は、目的・必要物品・具体的な方法・留意点を明確にし、援助計画に表現する。</li> <li>・ 準備した計画と、実施時の患者の状況・状態を照らし合わせ、必要に応じて指導者や教員の相談し、援助のタイミングや方法等、計画の修正を行なった上で実施につなげる。</li> <li>・ 患者の状態が援助を実施可能なのかを指導者や教員に報告・確認した上で、必要に応じて援助計画を見直し実施する。</li> <li>・ 対象理解の深まりや看護上の問題、看護目標、看護計画の明確化と関連させて、日々の援助計画も更新していく。</li> </ul>
<p>④患者の自立を踏まえて、援助を安全・安楽に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援助は原則指導者や教員の指導のもとで実施する。</li> <li>・ 患者の年齢や発達段階、抱えている健康障害や強みを踏まえ、患者にとっての自立を具体的に捉え、援助に反映する。</li> <li>・ 援助は自立を踏まえ、安全・安楽に実施可能か事前に患者及び指導者または教員に確認する。</li> </ul>
<p>⑤援助中の患者の反応を捉え、対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援助中、患者の状況・状態に注目し、安全・安楽が保てているか反応を確認しながら実施する。</li> <li>・ 援助は必ずしも計画通りに実施するのではなく、援助中の患者の反応に合わせて方法の修正や援助の中断、延長等の対応をする。その際、判断した内容を指導者や教員に伝え患者にとって適切な援助を実践する。</li> <li>・ 一方的な援助ではなく、対象とコミュニケーションをとりながら実施し、患者の様子を捉え、実践に活かす。</li> </ul>
<p>⑥実施した日々の援助を評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の反応から援助が患者に及ぼした影響、患者に生じた変化を捉える。</li> <li>・ 援助の結果を捉え、事実に基づいて、目的が達成される援助となっていたか具体的に振り返る。</li> <li>・ 患者の状況・状態や自分自身の援助技術、援助方法、物品、時間等、援助の結果に影響を及ぼした要因を多角的に考察する。以下の点を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇患者の反応から、その実施した援助の効果や目的達成の度合いについて</li> <li>◇実施結果の原因・要因はについて</li> <li>◇患者に適した援助にするための改善点や修正点について</li> </ul> </li> <li>・ より良い援助にするための修正点・改善点を根拠に基づいて明確にする。</li> <li>・ 自己の振り返り、考察を伝えた上で、指導者・教員と援助の評価を共有する。</li> <li>・ 振り返りをもとに計画を修正し、次の援助に活かす。</li> </ul>

◇意思決定を支える力	
①患者や家族の願いや希望を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者や家族との関わりを通して、患者や家族の願いや希望を知る。</li> <li>・ 患者や家族の思いを知るだけでなく、肯定的な受け止めをし、表現している。</li> <li>・ 患者や家族の言動をありのまま捉え、その理由や背景ある思いを考察する</li> <li>・ 自身が捉えている患者・家族の意思に間違いがないか確認をする。</li> </ul>
①患者や家族の願いや希望を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者や家族の願いや希望を踏まえて目標を設定し、患者や家族と共有する。</li> <li>・ 担当看護師や病棟チームの看護に反映されるよう、患者や家族から得られた情報は適切に報告・記録し情報共有する。</li> <li>・ 常に患者・家族に関心を向け続け、患者や家族の思いや願いを理解し尊重したコミュニケーションをとる。</li> <li>・ 患者や家族の思いや願いと自らが捉えた対象者の心理とに相違がないか確かめるように関わり、理解を深める。</li> <li>・ 患者や家族の思いや願いを理解するように努め、その理解に関わりに反映する。</li> <li>・ 患者や家族の状態・状況に合わせて関わりを調整する。</li> <li>・ カルテからの情報に偏ることなく、関わりを通して情報の収集や確認をし、理解につなげる。</li> <li>・ 自己都合を優先することなく、患者や家族の立場を考えて関わる。</li> </ul>
◇振り返る力	
①実習経験からその価値や意味に気づき、その経験を客観的に振り返り成長につなげようと努力する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中の様々な経験を客観的に捉え、自己の思考や行動の傾向、改善すべき点や伸ばす点を明確にする。</li> <li>・ 自身で振り返りするだけでなく、他者の助言を活かし、経験したことの意味や価値を見出す。</li> <li>・ ルーブリックを活用し、自己の看護実践力と到達度について評価し、目標達成のために必要な具体的取り組みを見出す。</li> <li>・ 見学や体験した技術については、経験録に記載する。</li> <li>・ 自己の課題や目標を意識し、追加学習や記録、患者との関わりや援助等、主体的に実習に取り組む。</li> <li>・ 自己都合を優先するところなく、患者主体で日々の有り様を調整する。</li> <li>・ 実習では失敗を恐れず、患者と関わることを大切にし、患者を優先した行動を心がけ、振り返りをこれからの関わりに活かす。</li> <li>・ 看護について語る発表会では、患者や家族への関わりや看護実践を通して、実施したことその経験から学んだことや看護の意味や価値について、自己の考えをまとめ、発表する。</li> </ul>

◇協働する力	
① 看護チームの看護活動を意識して行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟や看護チームのスケジュールを把握し、病棟の動きに合わせて計画を調整する。</li> <li>・ 自身が得た情報は、その情報が持つ意味の重要度や緊急度も考慮し、適時性を持って報告・連絡・相談する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画した援助は責任を持って遂行し、結果を報告する。患者の状況・状態により援助を変更や中止した場合も、その理由と合わせて速やかに報告する。</li> <li>・ 自身の立案した看護目標や援助の方向性が病棟で実施されているものと整合性がとれているか確認する。</li> <li>・ 最善の看護活動となるよう、チームでの協力や実習時間外の継続性も意識して自身の看護活動を見直し、必要に応じて看護チームへ働きかける。</li> </ul>
② 患者に関わる多職種を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者に関わる専門職を確認し、それぞれの必要性や役割を明らかにする。</li> <li>・ 患者に必要な支援について、それぞれの専門職と看護の関係性を明確にし、情報の共有をする。</li> </ul>
③ 医療チームの一員として情報共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 申し送り、カンファレンス、カルテ等担当患者の他職種が記載している情報に常に注目し、最新の情報を得よう努める。</li> <li>・ 患者にとって必要な支援を行うために、専門用語を適切に用いて他職種から情報を得る。</li> <li>・ 患者のこれからの生活について自身が多職種から得た情報は、その情報が持つ意味の重要度や緊急度も考慮し、報告・連絡・相談し、情報を共有する。</li> </ul>
◇看護師としての基本的態度・姿勢	
① 看護学生としてのルールやマナーを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身だしなみ、礼儀、清潔さ、謙虚さ、挨拶、責任感など、他者から看護学生として求められる社会的なルールやマナーを意識した行動をとる。</li> <li>・ 病院や病棟のルールなど、その目的や意味を考えて行動する。不備があった場合には自己の言動を振り返り、自身に求められる行動について理解を深め行動修正する。</li> <li>・ 記録物の提出期限は守る。守れない場合は、理由の報告をするとともに自己の行動を振り返り、行動修正する。</li> <li>・ 実習に必要な準備を整えて実習に臨む。</li> <li>・ 必要な学習を判断し、主体的に学習する。</li> <li>・ 実習中は自ら疑問を持ち、解決のための自己学習を深めるとともに、学習不足と感じたことに対しては自主的に追加学習する。</li> <li>・ より多くの学びを得るために、困り事や疑問を他者に相談し、自らアドバイスを求める努力をする。</li> </ul>

<p>②個人情報 を管理し、守秘義務を守る行動をとる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護学生として知り得た個人情報は他言せず、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。</li> <li>・ 電子カルテや記録物、電子媒体を含む情報の取り扱いに留意し、適切な方法で管理する。</li> <li>・ 指示されたタイプのメモ帳を用意し、白衣やナースポシェットなどと固定し、外れないようにする。</li> <li>・ 報告や相談は、適切な場所で行う。</li> </ul>
<p>③看護学生として、心身の健康を自己管理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護者として健康管理することの重要性について考える。</li> <li>・ 生活習慣を整え、他者に迷惑をかけないよう、自己の心身の健康管理を行う。</li> <li>・ 看護学生として、自身および他者への感染予防に責任を持ち、予防策を徹底する。</li> <li>・ 感染対策については病棟の方法・ルールを遵守する。</li> <li>・ 体調不良の場合、自己都合を優先することなく、周囲に及ぼす影響も考慮し、報告・連絡・相談し、適切な判断や対処行動をとる。</li> <li>・ 健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する。</li> </ul>
<p>④実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中は、グループメンバーの行動計画を作成し、患者の状況・状態に合わせて予定を調整する。</li> <li>・ グループメンバーの行動を意識し、それぞれが体験した意味ある学びや助言をグループ全体の学びとして共有し、グループ全体が成長できるように行動する。</li> <li>・ グループメンバーは、チームとして援助を協力し合ったり、メンバーが悩んでいたたり、困っていた時には相互に助け合う。</li> <li>・ カンファレンスでは、テーマに対しての意見を持って参加し、メンバーの意見にも耳を傾けながら、建設的なカンファレンスになるようにする。そこから、グループとして考えをまとめ、今後の実習に活かせるようにする。</li> </ul>
<p>⑤患者や看護の理解を深まるように取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。</li> <li>・ 実習では対象者に関心を持ち、体験できる機会やチャンスを逃さないように行動する。</li> <li>・ 患者に関心を持ち、気になることは調べ、看護活動につなげる。</li> <li>・ 質問されたことや疑問をそのままにせず、追加学習を主体的に進める。</li> <li>・ 調べてもわからないことは助言を求め、受けた助言を解釈したうえで看護活動に活かす。</li> <li>・ 記録物での教員や指導者からのコメントについては追加・修正するなどして学びを深める。</li> </ul>

## 6. 実習スケジュール

事前	学内	2時間	事前オリエンテーション	
1	臨地	10時間	病院挨拶、病棟挨拶、病棟オリエンテーション、個人面接、物品確認、受け持ち患者決定、情報収集	
2	臨地	10時間	患者の状態観察、日常生活の捉え	学生カンファレンス
3	臨地	10時間	患者の状態観察、日常生活の捉え	
4	臨地	10時間	患者理解を深める活動 私が捉えた患者（全体像・関連図）発表	
5	臨地	10時間	患者の状態観察や患者理解を深め、 必要な看護を明確にする活動	学生カンファレンス
6	臨地	10時間	患者の状態観察や患者理解を深め、 必要な看護を明確にする活動	
7	臨地	10時間	患者の状態観察や患者理解を深め、 必要な看護を明確にする活動	学生カンファレンス
8	臨地	10時間	患者の状態観察や患者理解を深め、 必要な看護を明確にする活動 患者に必要な看護（看護問題・看護計画）発表 ルーブリック表を活用し中間評価面談	
9	臨地	10時間	最新の患者の状態を把握し、看護援助に活かす活動	学生カンファレンス
10	臨地	10時間	最新の患者の状態を把握し、看護援助に活かす活動	
11	臨地	10時間	最新の患者の状態を把握し、看護援助に活かす活動	学生カンファレンス
12	臨地	8時間	病院挨拶、病棟挨拶、患者様へ挨拶、個人面接、 学びの会、物品確認、清掃	

## 7. 看護技術の到達項目と学び方

看護技術経験録を参照し、これまでの自己の経験や到達度を把握する。本実習を行う病棟の特徴や受け持ち患者の状況をふまえ、どのような看護技術が習得できそうか考え実習指導者や教員と相談する。目的意識をもって主体的に実施していくよう努める。

## 8. 提出物一覧

1) 実習ファイル（①～⑪をまとめ、インデックスを付けファイリングする）

- ① 表紙                      ② 評価表                      ③ ルーブリック
- ④ 総括「その人に合わせた看護を実践するうえで大切なこと」（A4）
- ⑤ 目標シート（コピー）                      ⑥ 「全体像 私が捉えた患者」（A3）
- ⑦ 「受け持ち患者の状況がわかる関連図」（A3）
- ⑧ 情報分析用紙（A4）                      ⑨ 「患者に必要な看護とその理由」（A3）
- ⑩ 看護計画用紙（A3）                      ⑪ 看護活動記録（日々録）（A3）

- 2) ポートフォリオ                      3) 看護技術経験録（青ファイル）                      4) 個人の目標（赤ファイル）
- 5) メモ帳                      6) 実習日誌                      7) 健康チェック表

## 9. 記録に関する約束事

### 1) ポートフォリオ

- ・事前学習、追加学習をファイリングする。
  - ・ほかの学習内容と関連する場合は、付箋などで関連性を他者に提示できるようにしておく。
  - ・ファイリングした資料にページ数を記入する。(右下隅の余白に記入する)
- ※実習時間内は、病棟指定の場所に置いておき、指導をうける際使用する。

### 2) ルーブリック

- ・毎日、「基準」の空欄部分に、自己の達成度を振り返った日付を記載する。
- ・援助を振り返る際、実習指導者または担当教員と一部ルーブリックを使用して自己の到達度を評価し、強み課題を明確化し、翌日からの実習計画に活かす。
- ・中間評価では全体を評価し、自己の課題を明確にし、後半の実習に活かす。
- ・看護実践力とのつながりを意識して評価を行う。

### 3) 「全体像 私が捉えた患者」(A3)と「受け持ち患者の状況がわかる関連図」(A3)

- ・受け持ち患者の入院前の生活状況や健康状態、入院後の健康状態や生活状況を「全体像 私が捉えた患者」に表す。また、受け持ち患者の疾患に関連する病態や患者の心理社会面の関連性を「受け持ち患者の状況がわかる関連図」に表し、実習4日目の発表時に使用する。
- 「全体像 私が捉えた患者」は、実習を通して患者の健康状態や特徴を追加修正していく。
- ・患者の健康状態や生活状況を理解し、患者の願いや希望を理解した看護実践のために発表し、理解を深める。

### 4) 情報分析用紙 (A4)

- ・全てのカテゴリーの情報収集し、分析を進める。指導者・教員にも相談しながら、患者の状態に適した看護上の問題を抽出する。
- ・分析したものはできるだけ早く指導者・教員に提示する。(途中でも提示していく)
- ・アセスメントしたものは、主体的に提出し必要な指導を受けられるように行動する。
- ・受け持ち4日目までの患者の状態について情報を修正追加をし分析を続け、患者理解を深める。

### 5) 「患者に必要な看護とその理由」(A3)

- ・アセスメントの結果抽出された問題を全て記載し、整理統合・順位付けする。
- ・患者の看護上の問題と原因、それに対する援助を記載する。
- ・提示しながら患者の問題とその看護を発表する。

### 6) 看護計画用紙 (A3)

- ・患者に必要な看護とその理由から、優先度の高い看護計画を立案し、用紙に記入する。
- ・提示しながら患者の問題とその看護を発表する。立案以降は実施の結果・評価を行い、問題解決に向けてより良い看護としていく。

### 7) 総括「その人に合わせた看護を実践するうえで大切なこと」(A4)

- ・実習を終え、実習での体験や実習目的に照らし合わせ、学んだことをレポートにまとめる。
- ・実習最終日の翌日に、その他の実習記録物と合わせて実習ファイルに挟み提出する。

## **VIII. 臨地実習**

# **成人・老年看護実習Ⅱ**



## 成人・老年看護実習Ⅱ

### はじめに

成人・老年看護実習Ⅱでは、成人・老年看護実習Ⅰまでに積み重ねてきた対象理解や健康状態に応じた看護援助の実践と基礎的な能力を発展させて看護することをねらいとしている。成人期から老年期は、青年期から始まり壮年期・向老期・老年期と人の一生の中の多くの部分を占め、生活の中で役割の変化が大きい時期でもある。

本実習においては、成人期や老年期の特徴をはじめ、その人の信念・生活・健康観を理解し尊重しながら、身体面・心理面・社会面を統合しその人らしい生活ができるよう支援することが求められている。また、身体機能障害のアセスメント力を高め、患者の状況や発達段階を踏まえた看護、家族も含め自立・自律した生活を支援する看護実践能力を習得する。

### 1. 実習目的

成人期・老年期にある対象の特徴から一人の生活者として理解し、健康の状態に応じて、その人が望む自立した生活の実現に向けた看護を実践する。

### 2. 実習目標

- 1) 多角的な視点からその人の生活や特徴を理解し、健康状態や健康問題を捉え、その人に必要な看護を明らかにする。
- 2) 患者理解に基づき、その人の個別性や健康状態に応じた援助が実施・評価できる。
- 3) 日々変化する患者の状態や状況を捉え、根拠ある看護を実践する。
- 4) 患者を生活者として捉え、その人の信念・価値観を尊重して関わる。
- 5) 医療チームの一員として自己の役割を自覚し、多職種連携を意識し行動する。
- 6) 看護者として自己の在り様を振り返り、自己の課題解決と自己成長に向けて努力する。
- 7) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

### 3. 時間数と単位数

90 時間 (2 単位) … オリエンテーション 2 時間

臨地実習 88 時間 (8 日×10 時間、1 日×8 時間)

### 4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

5. 学習内容、学習方法

学習活動	学習内容・学習方法
◇ニーズを捉える力	
①患者と関係を築く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の状況や病状、患者の思いや考えを尊重する姿勢で関わる。</li> <li>・ 患者の入院前・現在・退院後の生活について肯定的に受け止め関係づくりに努める。</li> <li>・ 患者の発達段階の特徴や入院前のこれまでの仕事や役割、価値観、信念、願いや希望、強みなど理解し関わりに活かす。</li> <li>・ 常に患者に関心に向け続け、患者の思いを受け止め、関わりに反映する。</li> <li>・ 患者の思いや願いと自らが捉えた患者の心理に相違がないかコミュニケーションの中から確かめ、理解を深める。同様に家族に対しても思いや願いを知り、患者理解を深めるように努め続ける。</li> <li>・ 自己都合を優先することなく、患者の立場を考え、患者の思いや状態・状況に合わせた関わりをする。</li> <li>・ カルテからの情報に偏ることなく、関わりを通して情報収集した内容を確認をし、患者理解につなげる。</li> <li>・ コミュニケーションスキルを活用し、情報を得るとともに関係性を深める。</li> </ul>
②患者の身体状態を捉える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟の特徴を踏まえ、看護実践に活かすために知識や技術を事前学習する。</li> <li>・ 知識に基づいて疾患の主要症状やこれまでの経過、治療状況、病状が生活に及ぼしている影響等について考え、意図的に情報収集する。</li> <li>・ 情報収集した様々な内容を整理し、つながりを理解し身体状態を捉える。</li> <li>・ 電子カルテからの情報収集に終始せず、患者家族や多職種と関わる中で得られる情報を踏まえて、病態や病状の経過を理解し援助に反映する。</li> <li>・ 日々の状態観察や患者との関り時には、五感を用いて患者のありのままの情報（主観的・客観的）を収集し状態を捉える。</li> <li>・ 患者の状態状況を理解するためフィジカルアセスメントし把握する。</li> <li>・ 患者について得た情報を「全体像」「関連図」などに表し実習3日目に発表し、患者理解を深めて看護実践に活かしていく。</li> <li>・ 質問し教えていただいた内容は、文献を活用し、追及して調べたと共に、調べる動機や意図を表して、学習の軌跡を残す。</li> <li>・ 患者の病期や発達段階やメカニズムを踏まえ、科学的根拠に基づいてアセスメントする。</li> <li>・ ゴードンの枠組みを活用して得た患者の身体的な情報を系統的に記録用紙に整理する。初回の情報や分析は、パソコンでの入力はいいが、指導後には手書きでペンの色を変えて追加・修正し、思考の跡がわかるようにする。</li> <li>・ 情報の分析には、情報から、患者に起きていること、その原因、今後の影響（成り行き）について、裏付けとなる知識を用いて記述する。</li> <li>・ 患者の状態の変化は受け持ち看護師、指導者や教員とも共有し、変化の理由をアセスメントし看護実践に活かす。</li> </ul>

<p>③患者の心理社会的状況を捉える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴードンの枠組みを活用して得た情報を基に患者の病状や回復過程、入院生活が心理社会的側面に及ぼす影響を考慮して情報を収集し心理社会面を捉える。</li> <li>・ 過去・現在・未来の情報を関連させ、心理社会的側面の変化を考え表す。</li> <li>・ 今までの発達課題の役割遂行状態、健康障害や入院による役割への影響を考え表す。</li> <li>・ コミュニケーションスキルを活用しながら、情報収集を行う。</li> <li>・ 患者の言動だけでなく、電子カルテや受け持ち看護師、医療相談員、退院支援看護師など多職種に主体的に関わり、様々な方法で情報収集し、患者理解を深める。</li> <li>・ 患者のありのままの情報に基づき、対象の性格や強み、信念、価値観、こだわりなどを、偏向や歪曲することなく肯定的に捉える。</li> <li>・ 自身が捉えている患者の人物像と、他者（指導者や教員等）から見えている対象の人物像とに相違があるか確認し、患者理解を深める。</li> <li>・ 患者にとっての重要他者（キーパーソン）や家族背景を知り、患者の病態や入院が家族にどのような影響を及ぼすかを考え表す。</li> <li>・ 退院後の生活を見据え、サポートシステムへの影響も考え、必要となる退院支援について相談し関わりに活かす。</li> </ul>
<p>④患者の全体像を捉える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族と関わる機会には、患者についての家族の思いや今までの生活の様子や退院後の生活についての話から患者との関係性を理解し、援助に活かす。</li> <li>・ 患者の発達段階や入院前の生活（仕事や役割など）、価値観、信念、願いや希望、強みなど関わりから捉えた患者について肯定的に受け止め関わる。</li> <li>・ 患者の身体状態・心理社会的状況の捉えを統合し、一人の生活者として捉え「全体像 私が捉えた患者」に表す。その際、表や図など工夫して表し発表すると共に、受け持ち期間中の患者の状態を追加修正する。</li> <li>・ 日々の関わりや追加学習を通して、より深く多角的に患者理解につながるように努める。</li> </ul>
<p>⑤患者の変化に気づき、解釈する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推論に基づき必要とされる観察項目を考え、根拠に基づく観察と情報からアセスメントにつなげる。</li> <li>・ 患者に起きている変化の理由について、知識を活用して分析する。</li> <li>・ 患者の状態を経時的に観察し、訪室毎に患者の状態変化を確認した際に、違和感や異変など状態の変化があった場合は、速やかに報告する。</li> <li>・ 日々の気づきや解釈を記録に表し、これからの援助に活かす。</li> <li>・ 患者の状況・状態に合わせて、援助の時間や援助計画を調整し、適切な関わりを考える。</li> </ul>

<p>⑥患者にあった看護上の問題を捉える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴードンの枠組みを使用し患者の状態や状況をアセスメントして、看護上の問題が起きている原因・要因・危険因子、必要とされている看護を偏りや不足なく抽出していく。</li> <li>・ 患者の健康状態やニーズ、患者の経過や成り行きを踏まえて、看護上の問題を考える。</li> <li>・ ゴードンの枠組みから抽出された、看護上の問題を見直して整理統合し</li> <li>・ 優先順位を判断し理由を考え発表する。</li> </ul>
<p>◇ケアする力</p>	
<p>①患者の個別性を考慮した看護計画を立案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優先度が高く、実践可能であるとともに、患者の状況・ニーズに合わせて適時性のある看護計画の立案にむけて指導者や教員と相談して行く。</li> <li>・ 患者の状態や安全・安楽・自立・自律を考慮した看護計画を考える。</li> <li>・ 期待される成果は、根拠に基づいた内容とし、客観的指標・目標数値等を具体的に示し、評価可能な表現にする。</li> <li>・ 患者の願いを踏まえた上で、実現可能な長期目標・短期目標を設定する。</li> <li>・ 解決策は O-P・T-P・E-P に整理して表現する。解決策は、患者の状態を考え実現可能な方法であり、チームメンバーが理解しやすく行動できる表現を考え表す。</li> <li>・ 長期目標・短期目標、看護上の問題・関連因子、期待される成果、解決策と一貫性を持って展開する。</li> </ul>
<p>②実施している看護計画を評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の反応や事実をありのまま捉え、結果へ S 情報・O 情報に整理して期待される成果の達成度を評価に記録する。</li> <li>・ 評価に必要な事実が偏りや不足なく患者の状態が収集されるよう、観察や援助の振り返り、検査データの確認、他職種への連携等、意図的・主体的に行う。</li> <li>・ 期待される成果の達成度を結果と照らし合わせて、成果の達成度を評価し、計画の継続や見直しを考え判断する。</li> <li>・ 結果から、解決策の妥当性を検討し、必要に応じて具体策や期待せれる成果を評価する。</li> <li>・ 患者の状況・状態、成り行きを踏まえ、適時性を持って実践につながるよう、計画の見直しをする。</li> </ul>
<p>③日々の援助計画を患者の状況に応じて、修正する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援助計画は基本的な原理・原則を踏まえつつ、患者の状況・状態を考慮し、患者に合わせた具体的な計画を表す。</li> <li>・ 日々の援助は、目的・必要物品・具体的な方法・留意点を明確にし、援助計画に表現する。</li> <li>・ 準備した計画と、実施時の患者の状況・状態を照らし合わせ、必要に応じて指導者や教員の相談し、援助のタイミングや方法等、計画の修正を行なった上で実施する。</li> <li>・ 看護上の問題、看護目標、看護計画の解決策と関連させて、日々の援助計画も追加修正する。</li> </ul>

<p>④患者の自立を踏まえて、援助を安全・安楽に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援助は原則指導者や教員の指導のもとで実施する。</li> <li>・ 患者の年齢や発達段階、抱えている健康障害や強みを踏まえ、患者にとっての自立を具体的に捉え、援助に反映する。</li> <li>・ 援助は患者の自立度の合わせ、安全や安楽に実施可能か事前に考えて患者に伝え実施する。指導者または教員に注意点を伝え、実施する。</li> <li>・ 患者の状態に合わせ、危険な状態が起こらないように配慮して実施する。</li> <li>・ 患者の安楽について考えた上で、苦痛な状態が最小限となるような援助を実施する。</li> </ul>
<p>⑤援助中の患者の反応を捉え、対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 援助中、患者の状況・状態に注目し、安全・安楽が保っているか反応を確認しながら実施する。</li> <li>・ 援助は必ずしも計画通りに実施するのではなく、援助中の患者の反応に合わせて方法の修正や援助の中断、延長等の対応をする。その際、判断した内容を指導者や教員に伝え患者にとって適切な援助を実践する。</li> <li>・ 一方的な援助ではなく、対象とコミュニケーションをとりながら実施し、患者の様子を捉え、実践に活かす。</li> </ul>
<p>⑥実施した日々の援助を評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の反応から援助が患者に及ぼした影響、患者に生じた変化を捉える。</li> <li>・ 援助の結果を捉え、事実に基づいて、目的が達成される援助となっていたか具体的に振り返る。</li> <li>・ 患者の状況・状態や自分自身の援助技術、援助方法、物品、時間等、援助の結果に影響を及ぼした要因を多角的に考察する。以下の点を振り返る。  <ul style="list-style-type: none"> <li>◇患者の反応から、その実施した援助の効果や目的達成の度合いについて</li> <li>◇実施結果の原因・要因はについて</li> <li>◇患者に適した援助にするための改善点や修正点について</li> </ul> </li> <li>・ 実施後、援助が無事に終了したことが援助ができたとはならないように、さらによりよい援助にするために自身の援助行動の修正点・改善点を根拠に基づいて明確にする。</li> <li>・ 自己の振り返り、考察を伝えた上で、指導者・教員と援助の評価を共有する。</li> <li>・ 振り返りをもとに計画を修正し、次の援助に活かす。</li> </ul>
<p>◇意思決定を支える力</p>	
<p>①患者や家族の意思を捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者や家族との関わりを通して、患者や家族の意思を受け止めて行動する。</li> <li>・ 患者や家族の思いを知るだけでなく、肯定的に受け止めて、関わりに表す。</li> <li>・ 患者や家族の言動をありのまま捉え、その理由や背景ある思いを考察する。</li> <li>・ 自身が捉えている患者や・家族の意思に間違いがないかコミュニケーションから考え、必要に応じて確認する。</li> <li>・ 患者や家族の願いや希望を踏まえて目標を設定し、患者や家族と共有する。</li> <li>・ 患者や家族から得られた意志に関する情報は、担当看護師や病棟チームの看護に反映されるよう、報告・相談する。</li> <li>・ 患者や家族の思いや意志を理解するように努め、関わりに表す。</li> <li>・ 患者や家族の状態・状況に合わせて関わりを調整する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カルテからの情報に偏ることなく、関わりを通して情報の収集や確認をし、理解につなげる。</li> <li>・ 自己都合を優先することなく、患者や家族の立場を考えて関わる。</li> </ul>
◇振り返る力	
①実習経験から価値や意味に気づき、経験を客観的に振り返り成長につなげようと努力する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中の様々な経験を客観的に素直に捉え、自己の思考や行動の傾向、改善すべき点や伸ばす点を明確にする。</li> <li>・ 自身で振り返りするだけでなく、他者の助言を活かし、経験したことの意味や価値を見出す。</li> <li>・ ルーブリックを活用し、自己の看護実践力と到達度について客観的に評価し、目標達成のために必要な具体的取り組みを見出し、行動する。</li> <li>・ 見学や体験した技術については、経験録に記載する。</li> <li>・ 自己の課題や目標を意識し、追加学習や記録、患者との関わりや援助等、主体的に実習に取り組む。</li> <li>・ 自己都合を優先することなく、患者主体で日々の有り様を調整する。</li> <li>・ 実習では失敗を恐れず、患者と関わることを大切にし、患者を優先した行動を心がけ、振り返りをこれからの関わりに活かす。</li> <li>・ 看護について語る発表会では、患者や家族への関わりや看護実践を通して、実施したことその経験から学んだことや看護の意味や価値について、自己の考えをまとめ、発表する。</li> </ul>
◇協働する力	
①看護チームの看護活動を意識して行動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟や看護チームのスケジュールを把握し、病棟の動きを考えて援助計画を調整する。</li> <li>・ 自身が得た情報は、その情報が持つ意味の重要度や緊急度も考慮し、適時報告・連絡・相談する。</li> <li>・ 計画した援助は責任を持って遂行し、結果を適時性を考えて報告する。患者の状況・状態により援助を変更や中止した場合も、その理由と合わせて速やかに報告する。</li> <li>・ 自身の立案した看護目標や援助の方向性が病棟で実施されているものと整合性がとれているか確認する。</li> <li>・ 最善の看護活動となるよう、チームでの協力や実習時間外の継続性も意識して自身の看護活動を見直し、必要に応じて看護チームへ働きかける。</li> <li>・ 患者との関わりから考えた退院後の生活に必要な援助を受け持ち看護師や看護チームに相談し援助に活かす。</li> </ul>
②患者に関わる多職種の役割を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者に関わる専門職を確認し、患者にとって必要な役割について理解する。</li> <li>・ 患者に必要な支援について、それぞれの専門職の考えを理解し、援助に活かそうと努める。</li> <li>・ 多職種の専門性を理解し、患者への援助に必要な内容について積極的に助言を受けられるように努める。</li> </ul>

<p>③医療チームの一員として情報共有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 申し送り、カンファレンス、カルテ等担当患者の他職種が記載している情報に常に注目し、最新の情報を得るよう努める。</li> <li>・ 患者にとって必要な支援を行うために、専門用語を適切に用いて他職種に積極的に質問し情報を得る。</li> <li>・ 患者のこれからの生活について自身が他職種から得た情報は、その情報が持つ意味の重要度や緊急度も考慮し、受け持ち看護師に報告・連絡・相談し、情報を共有する。</li> </ul>
<p>◇看護師としての基本的態度・姿勢</p>	
<p>①看護学生としてのルールやマナーを意識した行動をとる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身だしなみ、礼儀、清潔さ、謙虚さ、挨拶、責任感など、他者から看護学生として求められる社会的なルールやマナーを意識した行動をとる。</li> <li>・ 病院や病棟のルールなど、その目的や意味を考えて行動する。不備があった場合には自己の言動を振り返り、自身に求められる行動について理解を深め行動修正する。</li> <li>・ 記録物の提出期限は守る。守れない場合は、理由の報告をするとともに自己の行動を振り返り、行動修正する。</li> <li>・ 実習に必要な準備を整えて実習に臨む。</li> <li>・ 必要な学習を判断し、主体的に学習する。</li> <li>・ 実習中は自ら疑問を持ち、解決のための自己学習を深めるとともに、学習不足と感じたことに対しては自主的に追加学習する。</li> <li>・ より多くの学びを得るために、困り事や疑問を指導者や教員などに相談し、自らアドバイスを求める。</li> </ul>
<p>②個人情報管理し、守秘義務を守る行動をとる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護学生として知り得た個人情報は他言せず、細心の注意を払い、守秘義務を守る。</li> <li>・ 電子カルテや記録物、電子媒体を含む情報の取り扱いに留意し、適切な方法で管理する。</li> <li>・ 指示されたタイプのメモ帳を用意し、白衣やナースポシェットなどと固定し、外れないようにする。</li> <li>・ 患者情報が書かれた記録物は、毎日病棟実習終了時に全てそろっていることを確認し、不足がないように注意して取り扱う。</li> <li>・ 報告の際には、適切な場所で行う。</li> </ul>
<p>③看護学生として、心身の健康を自己管理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護者として自身の健康管理をする重要性について考え行動する。</li> <li>・ 生活習慣を整え、他者に迷惑をかけないように、自己の心身の健康管理する。</li> <li>・ 看護学生として、自身および他者への感染予防に責任を持ち、予防策を徹底する。</li> <li>・ 感染対策については病院および病棟の方法やルールを遵守する。</li> <li>・ 体調不良の場合、自己都合を優先することなく、周囲に及ぼす影響も考慮し、報告・連絡・相談し、適切な判断や対処行動をとる。</li> <li>・ 健康管理の状況については、指示された用紙に健康状態や実習の出席状況を毎日記録する。</li> </ul>

<p>④実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習中は、グループメンバーの行動計画を作成し、患者の状況・状態に合わせて予定を調整する。</li> <li>・ グループメンバーの行動を意識し、それぞれが体験した意味ある学びや助言をグループ全体の学びとして共有し、グループ全体が成長できるように行動する。</li> <li>・ グループメンバーは、チームとして援助を協力し合ったり、メンバーが悩んでいたたり、困っていた時には相互に助け合う。</li> <li>・ カンファレンスでは、テーマに対しての意見を持って参加し、メンバーの意見にも耳を傾け、建設的なカンファレンスになるよう協力し合い、今後の実習に活かせるようにする。</li> </ul>
<p>⑤患者や看護の理解を深まるように取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。</li> <li>・ 実習では対象者に関心を持ち、体験できる機会やチャンスを逃さないように行動する。</li> <li>・ 患者に関心を持ち、気になることは調べ、看護活動につなげる。</li> <li>・ 質問されたことや疑問をそのままにせず、追加学習を主体的に進める。</li> <li>・ 調べてもわからないことは助言を求め、受けた助言を解釈したうえで看護活動に活かす。</li> <li>・ 記録物での教員や指導者からのコメントについては追加・修正するなどして学びを深める。</li> </ul>

## 6. 実習スケジュール

事前	学内	2 時間	事前オリエンテーション	
1	臨地	10 時間	病院挨拶、病棟挨拶、個人面接、病棟オリエンテーション、物品確認、受け持ち患者決定、コミュニケーション	
2	臨地	10 時間	患者の状態観察、日常生活の捉え	学生カンファレンス
3	臨地	10 時間	患者理解を深める活動 私が捉えた患者（全体像・関連図）発表	
4	臨地	10 時間	患者の状態観察、患者理解を深め、必要な看護を明確にする活動	学生カンファレンス
5	臨地	10 時間	患者の状態観察、患者理解を深め、必要な看護を明確にする活動	
6	臨地	10 時間	必要な看護を明確にする活動 患者に必要な看護（看護問題・看護計画）について発表 ルーブリック表を活用し中間評価面談	
7	臨地	10 時間	最新の患者の状態を把握し、看護援助に活かす活動	学生カンファレンス
8	臨地	10 時間	最新の患者の状態を把握し、看護援助に活かす活動	
9	臨地	8 時間	病院挨拶、病棟挨拶、患者様へ挨拶、個人面接、学びの会、物品確認、清掃	

## 7. 看護技術の到達項目と学び方

看護技術経験録を参照し、これまでの自己の経験や到達度を把握する。本実習を行う病棟の特徴や受け持ち患者の状況をふまえ、どのような看護技術が習得できそうか考え実習指導者や教員と相談する。目的意識をもって主体的に実施する。

## 8. 提出物一覧

### 1) 実習ファイル (①～⑪をまとめ、インデックスを付けファイリングする)

- ① 表紙
- ② 評価表
- ③ ルーブリック
- ④ 総括「看護を实践するうえで大切なこと」(A4)
- ⑤ 目標シート(コピー)
- ⑥ 全体像 私が捉えた患者(A3)
- ⑦ 受け持ち患者の状況がわかる関連図(A3)
- ⑧ 情報分析用紙(A4)
- ⑨ 患者に必要な看護とその理由(A3)
- ⑩ 看護計画用紙(A3)
- ⑪ 看護活動記録(日々録)(A3)

### 2) ポートフォリオ

- 3) 看護技術経験録(青ファイル)
- 4) 個人の目標(赤ファイル)
- 5) メモ帳
- 6) 実習日誌
- 7) 健康チェック表

## 9. 記録に関する約束事

### 1) ポートフォリオ

- ・事前学習、追加学習をファイリングする。
- ・日々の実習記録で思考した内容と関連する学習内容は、付箋などで関連性を他者に提示できるようにする。

※実習時間内は、病棟指定の場所に置いておき、指導をうける際使用する。

### 2) ルーブリック

- ・毎日、「基準」の空欄部分に、自己の達成度を振り返った日付を記載する。
- ・援助を振り返る際、実習指導者または担当教員と一部ルーブリックを使用して自己の到達度を評価し、強み、課題を明確化し、翌日からの実習計画に活かす。
- ・中間評価では全体を評価し、自己の課題を明確にし、後半の実習に活かす。
- ・看護実践力とのつながりを意識して評価を行う。

### 3) 「全体像 私が捉えた患者」と「受け持ち患者の状況がわかる関連図」(各A3)

- ・全体像では患者の健康状態や過去・現在の生活状況について関わりを通して、理解した内容を表し発表する。全体像は、実習中の患者の状態を追加修正していく。
- ・関連図は、患者の疾患による病態や心理社会面についても表し発表する。

4) 情報分析用紙 (A4)

- ・全てのカテゴリーの情報収集をする。分析を進めるカテゴリーを考え、指導者・教員にも相談し、看護上の問題を抽出する。
- ・分析したものはできるだけ早く指導者・教員に提示する。(途中でも提示していく)
- ・アセスメントしたものは、主体的に提出し必要な指導を受けられるよう行動する。
- ・受け持ち3日目までの患者の状態について情報を修正追加をし分析を続け、患者理解を深める。

5) 「患者に必要な看護とその理由」(A3)

- ・アセスメントの結果抽出された問題を全て記載し、整理統合・順位付けする。
- ・患者の看護上の問題と原因、それに対する援助を記載する。
- ・提示しながら患者の問題とその看護を発表する。

6) 看護計画用紙 (A3)

- ・患者に必要な看護とその理由から、優先度の高い看護計画を立案し、用紙に記入する。
- ・提示しながら患者の問題とその看護を発表する。立案以降は実施の結果・評価を行い、問題解決に向けてより良い看護としていく。

7) 総括「看護を实践するうえで大切なこと」(A4)

- ・実習を終え、実習目的に照らし合わせ学んだことをレポートにまとめる。
- ・実習体験に基づいてレポートする。
- ・実習最終日の翌日に、その他の実習記録物と合わせて実習ファイルに挟み提出する。

## VIII. 臨地実習

# 母性看護実習



## 母性看護実習

### はじめに

母性看護学は、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の概念を基に「女性の生涯発達と健康」について学んでいく学問である。学内では、女性のライフサイクル全般を通し、身体・心理・社会的側面から女性の健康について学習をしてきた。臨地実習では、地域で暮らす人々が医療を受ける場を訪れ、ライフサイクル各期の女性が抱える健康課題について知り、そこで行われている医療や看護の実際について既習の知識と結びつけ学びを深めていく。限られた時間での実習となるため、妊娠・分娩・産褥期の母子とその家族に対する援助の中でも、褥婦と新生児に対する援助を中心に学びを深めていく。

近年、マタニティサイクルにある人や新生児などと触れ合う体験がない学生が増え、実習で初めて体験することが多いことから、その新鮮な体験からの気づきを大切にしていき、看護としての意味付けをすることで学びを深めていく。

### 1. 実習目的

女性のライフサイクル各期において看護を必要とする対象について理解を深める。特にマタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥期）にある母子およびその家族に対して必要とされる看護を実践する能力を養う。

### 2. 実習目標

- 1) 妊娠期における妊婦やその家族のニーズを捉え、妊婦健康診査の意義について考える。
- 2) 母性看護の対象との関わりを通し、生命の尊さについて考える。
- 3) 産褥期における正常経過をふまえ、褥婦に必要な看護を考える。
- 4) 新生児の生理的経過を理解し、新生児の看護の原則に基づいた援助を考える。
- 5) 切れ目ない支援の実際を捉え、継続看護の必要性を考える。
- 6) 地域における医療や母子保健の実際から、ライフサイクル各期における健康課題を捉え、看護の役割について考える。
- 7) 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

### 3. 時間数と単位数

9日間（90時間 2単位）

母性看護実習オリエンテーション（2時間）

病棟実習（70時間）、助産院実習（8時間）、診療所実習（10時間）

### 4. 実習場所

- ・藤枝市立総合病院（4A病棟）、焼津市立総合病院（3A病棟）
- ・助産院（くさの助産院、ほほえみハウス）
- ・診療所（鈴木レディースクリニック、いしかわレディースクリニック、前田産科婦人科医院）

## 5. 学習内容および学習方法

看護実践力	学習活動	学習内容・方法
二ードを捉える力	1) 褥婦の身体状態を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の知識を活用し、現在の褥婦の身体に影響を及ぼす要因（活動・運動、知覚、睡眠・休息、排泄、栄養・代謝など）を理解し情報を収集する。</li> <li>・産褥期だけではなく、これまでの妊娠・分娩・産褥期の情報をカルテや母子手帳、対象者から意図的に収集し、情報を関連付けて、現在の身体状態をアセスメントする。</li> <li>・褥婦の生理的特徴をふまえ、受け持ち褥婦の日々の変化と照らし合わせ、現在の身体状態が順調な経過であるのかをアセスメントする。</li> </ul>
	2) 褥婦の退行性変化を捉え、必要な看護を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の知識やポートフォリオを活用し、退行性変化に必要な視点をふまえ、全身の変化や復古現象を適切な方法で捉える。</li> <li>・栄養、活動・運動、睡眠・休息、排泄などのカテゴリーの情報が、どのように退行性変化に影響するのか関連付けてアセスメントする。</li> <li>・観察結果から退行性変化が順調であるのかをアセスメントし、さらに退行性変化を促進させるための看護について考える。</li> <li>・退行性変化を阻害する要因の有無についてもアセスメントし、援助につなげる。</li> </ul>
	3) 褥婦の進行性変化を捉え、必要な看護を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の知識やポートフォリオを活用し、進行性変化に必要な視点をふまえ、乳房、乳頭、乳汁分泌、授乳における母子の様子を観察する。</li> <li>・褥婦の身体面（栄養、睡眠・休息など）や心理面の情報も関連付けてアセスメントする。</li> <li>・母乳栄養の利点、乳汁分泌を促進するための援助、授乳方法、搾乳方法について既習学習や追加学習を活かし、実際の観察を積極的に体験する。授乳の援助は個性が高いため指導者、教員とともに行う。また個々に行われている援助の意味を思考する。</li> <li>・褥婦の退院後の生活における授乳方法を予測し、援助の必要性和その内容を考えることができるように助言を受ける。</li> <li>・母児別室の場合、授乳室では他の褥婦も授乳している。他の褥婦の授乳の様子、乳房の状態の観察から個性のある援助の必要性を学ぶ。</li> </ul>
	4) 褥婦の心理面を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥婦の心理的特徴、母子相互作用、親と子のきずななどの学習をもとに、心理的適応様式について捉える。</li> <li>・意図的なコミュニケーションをとり、対象や家族の思い、考え、希望を確認する。</li> <li>・現在の思いだけでなく、妊娠期、分娩期、今後の生活に対する思いなどを捉える。</li> </ul>
	5) 褥婦の社会面を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥婦の家族およびサポートシステムについての学習をもとに、社会的適応様式（役割機能・相互依存）として、退院後のサポート状況や、家庭内での役割などについて捉える。</li> </ul>
	6) 母性意識を促進するための援助について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子相互作用、親と子のきずな、母親役割、母子関係の成立過程、産褥期の心理的変化についての学習をもとに、母親の声掛け、表情、児の様子を観察する。</li> <li>・母子の接触の場に積極的に参加をする。</li> <li>・母と子、母子と看護者の関わりの場に立ち会い、母子相互作用を促進させるための看護者の役割について考える。</li> </ul>

	7) 新生児の健康状態を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の知識から新生児の現在の身体状態に影響を及ぼす情報や、子宮外適応の視点を理解する。</li> <li>・妊娠・分娩・産褥期、胎児期の情報をカルテや母子手帳から意図的に収集し、子宮外適応について必要な視点から、現在の身体状態をアセスメントする。</li> <li>・新生児の健康状態を一般的な経過と、受け持ち新生児の日齢に応じた経過を照らし合わせ、アセスメントする。</li> </ul>
	8) 新生児の子宮外生活への適応が順調に進むための援助を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子宮外生活の適応のための援助の必要性を既習の知識や指導者の見学、実践から考える。</li> <li>・新生児の健康状態のアセスメントをもとに、受け持ち新生児の子宮外生活への適応が順調に進むための援助を考える。</li> <li>・光線療法中、保育器収容中の児の症例があれば見学し、看護の必要性について学ぶ機会とする。</li> </ul>
	9) ライフサイクル各期の女性のニーズから、必要な看護を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期、成人期、更年期にある女性の健康問題とその看護について事前学習を活用し、発達段階や疾患を関連させ考える。</li> <li>・一次医療を担う診療所の地域での位置づけや役割から、母性看護の対象としてどのような人がどのような目的で訪れているのかを捉える。また地域に暮らす人々にとっての診療所やそこで働く看護者の役割について考える。</li> <li>・診療の補助業務を可能な範囲で看護者と共に行い、医療や看護の実際を主体的に学ぶ。</li> <li>・診察や診療の補助技術においては羞恥心やプライバシーの配慮、倫理的側面を意識し、行動をする。</li> <li>・診療所を訪れる女性の心理面について考える。</li> <li>・外来時間以外は、病棟の授乳室や新生児室などで看護を見学する。</li> </ul>
	10) 妊婦健康診査の意義を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦健康診査の目的や内容、妊婦に対する援助技術について事前学習を活用し、母子の健康増進や異常の早期発見に対する看護者の関わり、妊婦の言動からニーズを捉え、妊婦健康診査の意義について考える。</li> <li>・既習の知識である妊娠期の生理的变化から、妊婦健康診査で妊娠週数に応じた健診内容や検査などの行われている実際を結びつけ必要性を考える。</li> <li>・看護者と妊婦のコミュニケーションの場面や、妊婦やその家族の診察中の言動や反応などから、妊娠期の心理的適応について考える。</li> </ul>
	11) 保健指導の必要性を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院中の指導（沐浴指導、授乳指導、退院指導など）や、外来での指導（個別指導、栄養指導、母親学級、2週間健診、1か月健診など）に参加し、母性看護における保健指導の目的や必要性を考える。</li> <li>・集団指導と個別指導の指導内容の違いから、マタニティサイクル各期における対象のニーズや時期に応じた指導の必要性を考える。</li> </ul>
ケアする力	1) 対象の安全を考慮し援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初日のオリエンテーションで分娩室の構造、母子の安全を守るための準備などの説明を受ける。</li> <li>・分娩オリエンテーションで分娩台の騎乗、分娩時の体位を体験し、分娩時の産婦への配慮について考える。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち褥婦の身体状態のアセスメントから、適切な方法で援助を実施する。</li> <li>・妊婦に対する援助（腹囲・子宮底測定・レオポルド触診法・児心音聴取など）を事前学習し、留意点をふまえて安全に実施する。</li> </ul>
	2) 対象の安楽を考慮し援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象に行われる援助（診察、内診、分娩見学、授乳、悪露や創部の観察など）は羞恥心を伴う援助であることを念頭に置き、対象がどのように感じるのかを考えた上で、羞恥心やプライバシーに配慮した行動をとる。</li> <li>・分娩オリエンテーションで分娩台の騎乗、分娩時の体位を体験し、分娩時の産婦への配慮について考える。</li> <li>・健康障害を持つ対象とは異なるため、訪室するタイミングは褥婦の生活リズムや疲労度をアセスメントした上で行う。</li> </ul>
	3) 新生児看護の原則に基づき援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児の状態観察、沐浴、ドライテクニック、オムツ交換、抱っこ、授乳などの援助を実施する際には、新生児看護の原則（安全・保温・感染予防）に基づき実施する。</li> <li>・援助は児のいる場や環境なども考慮した上で計画の立案、実施とする。</li> <li>・新生児の援助を実施する際には、必ず指導者あるいは教員とともに実施する。</li> </ul>
協働する力	1) 看護チームの一員として報告する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護チーム内での申し送り、カンファレンス、カルテなどから、対象の情報を積極的に得るよう行動する。</li> <li>・判断に迷いや、対象の状況で困り事が生じた場合には、速やかに報告・相談する。</li> <li>・報告では、単に自身が観察したことだけでなく、気づきや判断、今後の方向性なども報告する。</li> <li>・対象から得られた情報として適時性を判断した上で報告する。</li> </ul>
	2) マタニティサイクルにおける継続看護の必要性について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義や地域・在宅看護実習Ⅱの母子保健事業での学びを活かし、母子やその家族が妊娠期から産後退院してからも、安心して生活するための支援の実際を知り、切れ目ない支援の必要性について考える。</li> <li>・各施設での妊娠期から産褥期の退院後までの継続した支援として、どのような体制がとられているのか、また他機関との連携の実際について各施設でのオリエンテーションや受け持ちへの支援の実際から捉える。</li> <li>・受け持ちの母子を支える資源にはどのようなものがあるのかを捉える。</li> <li>・近年の社会的問題から、ハイリスクとされる対象の存在をオリエンテーションなどから知り、継続看護の必要性につなげる。</li> </ul>
意思決定を支える力	1) 対象の意思を尊重した関わりの意味を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象や家族に真摯に寄り添い、傾聴する姿勢や態度で関わり、相手の立場に立って考える。</li> <li>・看護師がどのような姿勢で対象に関わっているのかを、指導者やスタッフの関わりを見学し、関わり方の意味を考える。</li> <li>・肯定的な関わり方が母性の対象に与える影響を考え、自身も対象に関わる。</li> <li>・対象と関わる上で、なぜそのような声かけをしたのか、自身の関わる姿勢を振り返り、対象に与える影響を考える。</li> </ul>

振り返る力	1) 振り返りから、自己の課題に気づき改善に向けて行動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの実習や学びを振り返り、自己の課題や目標を明確にし、看護者として成長できるように、常に目標を持ち実習に臨む。</li> <li>・実習中に適宜実習目的、目標に対する自己評価を行い、目標達成のために必要な具体的な取り組みを見出す。</li> <li>・強みや良い面も振り返り、自己の成長を自覚していく。</li> <li>・指導者や教員からの助言を素直に受け入れる姿勢をもつ。</li> </ul>
	2) 生命の尊厳について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護実習でのあらゆる場面（分娩、受け持つ母子との関わり、妊娠期の母性意識の変化、胎児の成長、流産、人工妊娠中絶など）の見学やオリエンテーションを通して、生命の尊厳について自己の考えを明らかにする。</li> <li>・機会が得られれば、経膈分娩あるいは帝王切開術を見学し、産婦の様子（表情・呼吸法の実際など）や家族の様子、分娩期の実際を知る。貴重な出生の場面に参加することから得られる自身の感情を大切にす。</li> <li>・分娩が見学できない場合には、カンファレンスによる学びの共有や、自身の受け持ちとの関わりなどから生命の誕生について考える。視聴覚教材を視聴することもある。</li> </ul>
基本的姿勢・態度	1) 看護学生としてのルールやマナーを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療職の一員として求められている規範を意識した行動をとる。</li> <li>・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や提出方法を守る。</li> <li>・身だしなみ、挨拶、言葉遣い、表情、立ち居振る舞いなどが対人関係にどのような影響を及ぼすか考え行動する。</li> <li>・自己の言動が他者に及ぼす影響を考え、場や状況に適した行動をとる。</li> <li>・新生児に触れるため、学年章は外し、爪は短く整え、髪は垂れてこないようにするなど、児に危害を加えることがないように身だしなみを整える。</li> </ul>
	2) 個人情報管理し、守秘義務を守る行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者及び家族の尊厳と権利を守り、各実習施設で<u>看護学生として知り得た個人情報については守秘義務を遵守する。</u></li> <li>・記録物の管理を徹底し、実習記録には個人が特定されないように、看護学生としての責任を持った行動をとるように心がける。</li> <li>・報告は適切な場所で行う。</li> </ul>
	3) 看護学生として、心身の健康を自己管理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の体調管理を心掛けた行動をとり、体調不良時には早めに連絡や相談をするなど、<u>他者（対象・施設職員・実習メンバー）への影響</u>を考え、適切な判断と行動をとる。</li> <li>・感染対策は各実習施設に準じた行動をとり、予防接種を含め適切な行動をとる。</li> <li>・感染予防を意識した行動をとり、新生児室、授乳室、分娩室への出入りでは特に感染予防に留意する。体調によっては入室を控えることや、実習中止になる場合もあることを念頭に置く。</li> <li>・自身の精神面についても安定を心掛け、看護学生として自己の有り様を調整しながら実習を継続する。</li> </ul>
	4) 実習メンバーと協同し、実習グループに	<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥室、新生児室、助産院、診療所と学びの場が多岐に渡るため、グループメンバー間でコミュニケーションを積極的にとり、情報共有、協力、調整をし、主体的に学びを深めていく。</li> </ul>

貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 褥婦、新生児をペアで受け持つ場合には、必要な観察や情報収集を協力して行い、お互いに得た情報を共有することで対象理解につなげる。</li> <li>・ グループメンバー内での自己の役割を意識した行動をとる。</li> <li>・ 日々のカンファレンス、学びの会では学生主体で運営し、建設的に進めていく。</li> </ul>
5) 対象や看護の理解を深めるように取り組み、看護活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護学生として受け持ち褥婦、新生児に関心を持ち、最善の看護援助に向けて努力し続ける。</li> <li>・ 実習に必要な準備を整えて実習に臨む。</li> <li>・ 実習中は追加学習を随時行い、ポートフォリオに学習した形跡を蓄積していく。</li> <li>・ 不明な点や疑問に感じたことは放置せず、自己学習や指導者、教員に助言を求め解決していく姿勢をもつ。</li> </ul>

## 6. 実習の動き（各実習場所での展開）

1) 実習期間 9日間：（実習カレンダー参照）

2) 実習計画

日	時間数	実習内容・場所	カンファレンスなど	備考
1	10	病棟実習① オリエンテーション 個人面接	病棟オリエンテーションを受ける	実習に臨むにあたり自己の課題・目標を確認する
2	10	病棟実習②	ショートカンファレンス	褥婦または新生児の受け持ち①～④
3	10	病棟実習③		
4	10	病棟実習④		
5	10	診療所実習 (8:30～17:00)	1日の振り返り (指導者さんと学生)	目標を持ち実習に臨む。 1日を大切に主体的に学ぶ。
6	8	助産院実習 (9:00～16:00)	1日の振り返り (各助産院)	目標を持ち実習に臨む。 1日を大切に主体的に学ぶ。
7	10	臨地実習⑤	ショートカンファレンス	褥婦または新生児の受け持ち⑤～⑦ 個人面接を行い、自己の目標達成と今後の課題を明確にする。
8	10	臨地実習⑥		
9	10	臨地実習⑦	学びの会	

\* 実習予定はグループごと異なるため、実習前に配布する実習予定表でスケジュールを確認する。

\* 診療所の実習は、各グループ1日1人から2人で実習する。

実習先及び実習日は実習クールによって異なるため、日程は実習カレンダー及び実習グループごとの予定表で確認をする。

\* 助産院実習は実習5日目または6日目に実施するが、実習クールによって異なるため、日程は実習カレンダー及び実習グループごとの予定表で確認する。

### 3) 実習内容

#### (1) 褥婦の看護〈褥室実習〉

- ①原則として正常な経過をたどる褥婦を受け持ち、実習目標に沿って学習する。
- ②1組の母子に対し、学生が1人あるいは2人で受け持つため、ペアの場合には学生同士でお互いに得た情報を共有する。
- ③子宮復古状態や乳房の観察は指導者と共に行い、不明な場合や異常を観察した際には必ず指導者に確認を求める。
- ④褥婦より質問があった場合には、自己判断とせず、必ず指導者あるいは教員に相談した上で、正しい知識や情報を伝える。

#### (2) 新生児の看護〈新生児室実習〉

- ①1人の新生児を受け持ち、状態観察を毎日行う。
- ②母と子の関わりから母子一体での看護について学ぶ。
- ③沐浴・ドライテクニックを実施する場合は、必ず指導者あるいは教員と行う（1回は実施する）。
- ④授乳の場面は褥婦担当の学生と交代で見学に入り、学生間で情報共有をする。
- ⑤新生児は状態が変化しやすいため、指導者への報告・連絡は密にする。

#### (3) 産婦の看護〈分娩室実習〉 \*対象者がいる時に随時見学に入る

- ①実習初日に分娩台の取り扱い、物品の配置、新生児の蘇生、分娩記録についてなど、分娩室のオリエンテーションを受ける。
- ②原則として正常な経過をたどると予測される産婦につかせてもらい、児の誕生の場面、出生後の児の状態観察や身体計測を見学する（帝王切開術に入らせて頂くこともある）。
- ③新鮮な感想を残しておくため、分娩見学後に感じたことを、レポートに記述する。  
\*レポート形式：A4、1枚 表紙をつける（word）
- ④レポートは、分娩見学の翌日に提出する。

#### (4) 助産院実習 〈ほほえみハウス・くさの助産院〉

- ①何を学ぶか自ら考え行動し、助産院で体験できることを大切に、主体的に実習をする。
- ②公共交通機関を利用する。  
ほほえみハウス：JR掛川駅下車南口 タクシーでワンメーターなので乗り合わせが望ましい  
くさの助産院：JR草薙駅下車 バスもあるが混んでいる 徒歩で2区間
- ③各自昼食を持参する。
- ④9:00に全員そろって実習場に入り挨拶をする。
- ⑤服装：学校指定のポロシャツ、エプロン、華美でないジャージ、スリッパ持参  
髪型は病棟実習に準じる

#### (5) 診療所実習〈鈴木レディースクリニック・いしかわレディースクリニック・前田産科婦人科医院〉

- ①地域にある診療所での外来診療の実際を見学し、訪れる人々のニーズを知り、診療所での医療・

看護の実際を学ぶ。

- ②何を学ぶか自ら考え行動し、診療所実習での学びを大切にし、主体的に実習をする。
- ③診療の補助業務（診察台や内診台への誘導、血圧測定、腹囲子宮底測定など）を助産師・看護師とともに学ぶ。
- ④外来診療時間以外は、病棟の授乳室や新生児室での看護を見学する。
- ⑤診療所実習中は、緊急の患者対応時も一緒に動き見学などをしていく。
- ⑥実習終了前には、指導者と学びの振り返りを行う。
- ⑦公共交通機関を利用する。  
自転車やバイクを使用する場合、駐車場所を当日確認する。  
各診療所への行き方は、事前に確認をし、実習時間に遅れることがないようにする。
- ⑧服装：ユニフォーム、ナースシューズ 更衣の場所は当日確認をする。
- ⑨各自昼食を持参する。
- ⑩実習開始時間に間に合うように、余裕を持ち、全員そろって実習場に入り挨拶をする。

## 7. 看護技術の到達項目と学び方

母性看護では、沐浴、子宮底測定、授乳指導、乳房管理、新生児の身体計測、新生児の毛細管採血、保育器の取り扱いなど母性看護特有の看護技術が多いため、主体的に見学や体験をする。そのために技術の目的や方法について自己学習を進める。

\*可能な限り到達したい技術

沐浴：指導のもとで沐浴が実施できる

## 8. 提出物一覧

1) 以下の順序で記録物をファイルし、②～⑬にインデックスをつけて提出する。

- ①表紙
- ②母性看護実習評価表
- ③母性看護実習総括表
- ④成長エントリーシート
- ⑤ループリック評価表
- ⑥助産院実習記録
- ⑦診療所実習記録
- ⑧1日目実習記録
- ⑨全体像記録用紙
- ⑩関連図記録用紙
- ⑪日々の実習記録用紙（褥婦）
- ⑫日々の実習記録用紙（新生児）
- ⑬分娩見学レポート（分娩見学をした場合のみ）

2) 実習中のポートフォリオ、青ファイル、赤ファイル、メモ帳

## **VIII. 臨地実習**

# **小児看護実習**



# 小児看護実習

## はじめに

子どもは大人への成長発達の過程にあり、自らの持てる力と適切な環境との相互作用の中で発達課題を達成しながら、成熟に向けて常に成長する存在である。

小児看護では、多様な生活の場において障がいの有無にかかわらず、どのような健康レベルであっても子どもとその家族に寄り添い、成長発達状況に応じ個別の健康上のニーズに対する看護を実践する力を養うことが求められる。子どもとその家族が、社会との繋がりの中で身体的、精神的、社会的な存在として、それぞれの個性に応じて健やかな成長発達が遂げられるよう、最善の利益を守ることを目的としている。子どもたちの成長発達には、子どもを取り巻く人的環境が大きく影響を与えているため、実際に子どもたちと関わる臨地実習での学びの意義は大きい。

2年次の講義・保育所フィールドワークでは、子どもの成長発達の特徴を理解し、子どものより良い成長発達を促し健康増進を図るための環境因子についての知識と、保育や看護に必要な技術を学習してきた。これらをもとに、様々な療育支援が必要な子どもの成長発達の個性と、すこやかな成長発達を促す関わりについて地域の児童発達支援施設にて実習を行い、少子超高齢化や2040年の人口減少社会において「これからの未来を担う地域の子どもたち」を育む看護者としての考えを深める。次に健康障害を持つ子どもの看護について病棟実習を行う。疾病や治療が生活や成長発達に及ぼす影響を理解し、問題が最小限にとどめられるよう子どもとその家族に対して適切な援助を実施する。これらの経験を踏まえ、障がいや健康の程度に関わらず子どもがよりよく育つために必要なことを見出し、子ども観・小児看護観を深める。

## 1. 実習目的

地域で暮らすさまざまな子どもの成長発達やその家族の個性を理解し、小児看護に必要な能力を養う

## 2. 実習目標

- 1) 子どもの成長発達と影響因子を理解する
- 2) 子どもの成長発達にふさわしい環境について理解し、整える
- 3) 子どもの成長発達状況の特徴や家族の状況を踏まえて、関係を築く
- 4) 患児とその家族に対する看護の必要性を理解し、援助する
- 5) 小児看護実践を基に子ども観、看護観を深める
- 6) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち、行動する

## 3. 時間数と単位数

2単位 90時間 (1時間=45分)

(事前オリエンテーション2時間、児童発達支援施設20時間、病棟実習68時間)

#### 4. 実習場所

児童発達支援施設実習 : 藤枝市 静岡県立藤枝特別支援学校  
 社会福祉法人 富水会 わかば園  
 焼津市 社会福祉法人 焼津福祉会 ぽぷら・いろえんぴつ  
 病棟実習 : 焼津市立総合病院 3B病棟

#### 5. 実習内容・実習方法

◇ ニーズを捉える力	
学習活動	実習内容と学習方法
① 子どもの発達状況を考察する * 児童発達支援施設実習・外来実習・リハビリ室実習含む	子どもの基本的な成長発達や発達課題(デンバー、遠城寺評価表)、基本的な生活習慣の獲得について事前学習し、発達状況に適した関わり方についてイメージする。成長する演習にて、乳幼児の身体的特徴を理解し、乳幼児の発達と保育について事前学習 (DVD 視聴、ポートフォリオ作成を含む) する。 様々な場において、生活の様子、自身やスタッフの関わりに対する子どもの反応を観察し、年齢による特徴や個人差、月齢差、個別性など、子どもの発達状況について実際の様子を観察記録し、それを基に既習の知識に照らし考察する。
② 子どもの成長発達を促す要因を考察する * 児童発達支援施設実習・外来実習・リハビリ室実習含む	子どもの基本的な成長発達や発達課題、成長を促す因子等を、事前学習する。様々な場において、発達状況に応じた自身やスタッフの関わりに対する子どもの反応の様子、あらゆる刺激と反応について実際に観察し、成長発達を促す要因について気付いたことを、知識を活用して考察する。
③ 子どもに必要な生活環境について考察する * 児童発達支援施設実習・外来実習・リハビリ室実習含む	事故防止、感染防止、成長発達を促す要因について、事前学習する。様々な場における、発達状況に適した生活環境や発達を促す生活環境、安全を守る生活環境などについて、意識的に観察する。小児病棟の安全管理についての自己学習、病棟オリエンテーション、同行実習などを踏まえて、患児にとっての安全な環境を理解する。理解をもとに、患児にとっての危険とは何かを、健康障害や発達状況を含めてアセスメントする。また、実践を振り返り、必要に応じて安全の視点で計画の評価修正につなげるとともに、子どもに必要な環境について考察する。
④ 患児の入院前の発達段階を捉える	既習学習を活用し、受け持ち患児の成長発達を理解するために必要な情報に着目する。 入院前の普段の生活の様子、発達状況などの情報を、カルテ、家族、チーム、患児などから、状況に適した方法を選択して情報収集する。得た情報を成長、発達状況、家族機能などについてアセスメントする。収集した情報をもとに全体像に表し、入院前の様子を捉える。
⑤ 患児の疾患や治療	現在の受け持ち患児の疾患、症状、治療などを、自己学習により理解する。

<p>による成長発達への影響を捉える</p> <p>* 外来実習・リハビリ室実習含む</p>	<p>そして、入院や疾病前後の情報収集と照合し、成長発達への影響をアセスメントし、<u>事実に基づいて全体を捉えていく</u>。情報の追加や指導、助言、カンファレンスを活用してアセスメントを深め追加修正し、具体的な影響を捉える。</p> <p>外来・リハビリ室においては、見学時に得られた情報と、見学後の自己学習を照合し理解を深め、成長発達への影響をアセスメントする。</p>
<p>⑥ 患児の現在とその後健康状態について捉える</p>	<p>受け持ち患児の成長発達、健康状態について、患児、家族との関わりや病棟の看護の様子、カルテなどから情報収集する。収集した情報についてポートフォリオへ学習し、身体（疾病や治療の因果関係や関連データの理解を含め）、心理、社会性や発達段階について現在の状況を考察し、患児の健康状態に関する理解を深める。</p>
<p>⑦ 疾病や疾患による様々な影響を理解し、看護の必要性をアセスメントする</p>	<p>受け持ち患児の疾病や症状のメカニズムを学習し、現在の患児の身体的状況と照らし合わせながら情報収集する。実際の情報をもとに身体的影響、成長発達への影響、生活への影響などを考察し、今後に予測されることなど<u>看護の必要性や方向性を明らかにする</u>。</p>
<p>⑧ 患児の家族の状況を理解し、必要な看護や関わりをアセスメントする</p>	<p>患児の疾病、入院によって家族にどのような変化が起きているのか情報収集し、影響をアセスメントする。また、家族の意向や状況を理解し、背景なども踏まえてアセスメントし、患児の症状改善や健康回復、家族看護の継続などに向けた必要な支援や関わりを、明らかにする。</p>
<p>⑨ 根拠に基づいた具体的な看護を計画する</p>	<p>分析をもとに看護の必要性と具体的な看護の方法を計画する。受け持ち患児や家族への影響を考慮し、安全性、安楽性、適時性・自立性・個別性を踏まえた具体的な計画を立案する。</p>
<p>⑩ NICUの看護に必要な環境について考察する</p>	<p>新生児、低出生体重児の身体的特徴を理解し、NICUの看護について事前学習（調べ学習や成長する演習にて視聴したDVDについて、ポートフォリオ作成）する。また、看護の原則（感染予防、保温、栄養、安静）ディベロップメンタルケアなどの実際を見学、観察し、患児や家族に対する看護の実際を学ぶ。母子を中心として継続看護、地域連携、多職種連携などの必要性も含め、様々な視点で看護の必要性を理解する。</p>
<p>◇ ケアする力</p>	
<p>① 援助計画を基に、患児に適した看護を実践する</p>	<p>実施前の患児の状況や意思を情報収集、確認し、計画した看護実践が可能か否か判断する。必要に応じて、実施方法や実施時間の修正など、今現在の患児に合わせた看護実践に向けて確認しながら実施する。また、遊びや学習、プレパレーション、ディストラクションなども、計画的に実施する。（状況によっては指導者や教員に相談し、助言、協力を求める）</p>
<p>② 子どもにとっての危険を踏まえ、安全な環境を整える</p> <p>* 児童発達支援施設実</p>	<p>常に子どもにとっての安全な環境を考え、安全な環境を整える。病棟では援助計画を基に、<u>計画的かつ常に事故防止、感染防止を心掛け実施し、治療や生活の場面を整える</u>。また、実践を振り返り、必要に応じて安全の視点で計画の評価修正につなげ、受け持ち期間内において次の実践へ活かす。</p>

<p>習・外来実習・リハビリ室実習含む</p>	
<p>③ 患児にとっての安寧な環境を理解し、安楽を提供する</p>	<p>受け持ち患児の発達状況、入院前の様子と現在の様子などの情報からアセスメントし、患児の表情や反応を観察し、不安感、不快感、生活のしにくさなど、患児の安楽を妨げる要因について理解する。児童発達支援施設実習や保育所フィールドワークでの経験を活かし、患児の状況に合わせ自身の態度や姿勢、雰囲気などコミュニケーションや関わりを工夫する。患児の生活リズム、関わりのタイミングなどに配慮する。必要に応じて安楽の視点から援助計画を評価し、追加修正する。</p>
<p>④ 根拠を持って具体的な看護を計画する</p>	<p>分析をもとに看護の必要性和具体的な看護の方法を計画する。受け持ち患児や家族への影響を考慮し、安全性、安楽性、適時性・自立性・個別性を踏まえた具体的な計画を立案する。</p>
<p>⑤ 発達過程にある子どもの年齢や背景、状況に応じて、子どもが安心できるよう関わる * 児童発達支援施設実習含む</p>	<p>子どもの発達状況に応じたコミュニケーション方法、関わり方の工夫、子どもの社会性や遊びの発達などについて、事前学習する。 スタッフの関わりを参考にして自ら積極的に子どもと関わり、子どもの反応を確認しながら、子どもが安心して過ごせるよう、状況に応じて工夫する。判断に困った場合などは指導者に相談し、より良い方法を検討しながら関わる。子どもの発達状況と意志を尊重し、関わりに対する子どもの反応を捉えることで、自己の関わりを振り返りながら深めていく。</p>
<p>⑥ 疾患や治療による影響を理解し、患児の最善の利益を尊重した関わりをする</p>	<p>患児の疾患や治療の状況について、情報収集やアセスメントをもとに理解する。患児の意志や心理面を尊重しながらも、患児の疾病回復や成長発達に向けた看護の必要性や方法の工夫を計画し、計画に基づいて看護援助を実施する。援助の前後だけでなく援助中も患児の反応を観察し、ふさわしい関わりをする。経験を通して、患児にとっての最善の利益について、その考え方を学び理解を深める。</p>
<p>⑦ 患児の家族が必要としている看護を実施する</p>	<p>患児の疾病や入院などの状況によって、家族がどのように影響を受けているのか、家族の意志や状況について情報収集し、背景なども踏まえてアセスメントする。それをもとに、看護の必要性(看護問題やリスク)を踏まえた援助を行う。(=看護学生としての行動に根拠がある。) 社会資源などの活用については、チームの計画や実践の様子から理解を深める機会とする。</p>
<p>⑧ 実施した看護の結果を捉え、評価しながら実施する</p>	<p>計画的な看護援助の実施に対する患児や家族の反応だけでなく、遭遇した場面での様子も捉え対応する。患児や家族の反応(S,O情報=「結果」)を捉え、反応から自身の立案した計画の適否や自身の実施中の言動を振り返り、次の関わりがより良いものになるよう活かす。</p>
<p>⑨ あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる</p>	<p>子どもや家族の訴えに耳を傾け、発達状況や背景を踏まえながら理解する。そして、看護学生として健康や生命、意思の重さを理解し、心身の苦痛や生活のしにくさ、成長発達状況などに配慮し、子どもの権利を守りながら最善の利益のために行動をする。また、学生間、多職種間においても、自他の違いを尊重しながら意見交換し、理解を深める。</p>

◇ 協働する力	
① 子どもの看護を継続するために必要なことは何か、考える	オリエンテーションで病棟・外来・リハビリ・NICUの看護体制について説明を受け、実際にチームでどのように行われているのかを意識しながら行動する。また、チームとしての看護や連携・協働の実際の場面を学び、カンファレンスや記録で表現する。
◇ 意思決定を支える力	
① 患児・家族に関わる際は、意思や希望、状況を事前に確認する	1日の実習予定を患児・家族の予定や希望に応じて計画し、その時の状況に合わせ、随時柔軟に変更・調整する。また、計画の予定変更が必要な時にはメンバーと調整し、指導者側にも報告・相談する。
◇ 振り返る力	
① 健康障害のある子どもの看護をもとに、小児看護観の深まりを明らかにする	小児病棟で患児とその家族に関わった経験を基に、看護師としての役割や責任、患児や家族、看護チームや他職種との関わり方を含めた「私が考える小児看護」を明らかにする。 <u>その際、自身の考えの参考になった既習学習、理論など知識の裏づけ、根拠を明示する。</u>
② 経験を常に振り返ることで、自己の課題に気づき改善し、自己成長につながるよう努める * 児童発達支援施設実習含む	看護師として社会で働く者になるという自覚をもち、一人の人間としても成長できるよう、常に目標をもって実習に臨み、自己の価値観、看護観を深めていく。振り返りの場面においては、小児看護の思考・判断、実践などについて、自己の状況をどのように捉えているか表現するとともに、助言は素直に受け止め、行動変容につなげる。看護実践や他者との関わり、学習の仕方、生活の仕方など、感じた事や気づいた事は謙虚に振り返り、学習を積み重ね、自己成長の糧とする。
◇ 看護師としての基本的態度・姿勢 * 児童発達支援施設実習含む	
① 看護学生としてマナーやルールを意識し行動する	看護を学ぶ成人学習者として、求められている社会的なルールやマナーを守る。時間、身だしなみ、接遇など、実習先のルールに沿って看護学生としてふさわしい振る舞いや行動をする。不足があった場合には、自己の言動を振り返り、求められる行動について理解を深め、行動修正する。
② 個人情報进行管理し、守秘義務を守る	医療チームの一員として、対象の子どもや家族、自身に関わる全ての人々に関する個人情報について適切に管理し、守秘義務を遵守する。また、報告は適切な時間・場所で行ない、電子カルテや記録物、電子媒体を含む情報の取り扱いにも留意し、細心の注意を払う。
③ 看護学生として自己の健康管理をする	実習施設の基準に沿った感染対策を徹底し、自他への感染予防に責任を持ち、予防行動を徹底する。学習や記録の時間を工夫して確保し、他者に心配や迷惑をかけないように、看護学生として自己の心身の健康管理を行う。必要に応じてメンバーや指導者、教員に相談し、必要な休養や対策をしつつ安定した状態で実習する。

④ 実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する	病院実習中は、グループの1日の行動計画（マトリックス）を作成し、患児、家族の状況に合わせて予定を調整する。実習メンバーの行動を意識し、援助を協力し合ったり、メンバーが悩み困っている時には相互に助け合ったりする。それぞれが体験した意味ある学びや助言については、グループ全体の学びとして共有し、グループ全体が成長できるように行動する。カンファレンス時はテーマに沿った意見を持って参加し、メンバーの意見にも耳を傾けながら、建設的なカンファレンスになるようにする。また、司会者はカンファレンステーマに対し、最後に整理しまとめる。カンファレンスでの学びは、翌日以降の実習に活かす。
⑤ 小児看護の対象や看護の理解が深まるように取り組む	実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。小児看護の対象へ関心を持ち、看護実践や関わりの機会を逃さないよう行動する。気になることは調べ、看護活動につなげる。質問されたことや疑問はそのままにせず、主体的に追加学習を進める。その上でわからないことについては助言を求め、受けた助言を活かす。また、教員や指導者からの記録物へのコメントについては、タイムリーに追加・修正するなどして、学びを深める。常に主体的な学習姿勢をもち、実習に取り組む。

## 6. 実習の動き

1) 実習期間 9日間 実習カレンダー参照

2) 実習計画

日程	実習内容	実習方法	時間	場所	服装	毎日の提出物
1 ┆ 2	地域で暮らすさまざまな子どもと、その支援例の理解 ※実習のまとめ（2日目午後） 『発達支援が必要な子どもの成長発達の個別性や、その療育支援について』 ※先に病棟実習から開始し、児童発達支援施設実習を8～9日目に行なうことがある。	臨地実習	10×2	児童発達支援施設	ポロシャツ ジャージ 下 エプロン	1日目 ・NICUのDVDの学び ・実習記録 ・ポートフォリオ 2日目 ・実習記録（前・当日） ・ポートフォリオ ・ルーブリック評価表
3	小児科病棟看護師への同行実習 病棟オリエンテーション 輸液ポンプの取り扱い 放射線の被爆防止策の実施 受け持ち患児決定・日程の調整	臨地実習 同行実習	10×6	病棟	実習着 エプロン	毎日 ・実習記録（前・当日） ・ポートフォリオ ・ルーブリック評価表 （該当項目毎日評価）
4 ┆ 8	受け持ち患児の看護実践（3日間） NICU（1日間） 小児外来・小児リハビリ（1日間）	臨地実習				4～9日目 ・援助計画（受け持ち開始以降適宜）

	毎日実習最後にカンファレンス実施 4～8日目は入院状況で調整する					・全体像（受け持ち2 日目、以降適宜） ・4つの分析（受け持 ち3日目、以降適宜）
9	実習のまとめ 個人面接・学びの会	臨地実習	8	学生室等	実習着	

## 7. 提出物一覧

- 1) 小児看護実習評価表
- 2) 小児看護観
- 3) 病棟実習記録 4日間  
NICU実習記録 1日間  
外来/リハビリ 1日間
- 4) 患児の全体像
- 5) 4つの視点の分析用紙
- 6) 援助計画
- 7) 児童発達支援施設実習記録（児童発達支援施設2日間の記録）
- 8) カンファレンス記録
- 9) ポートフォリオ
- 10) 看護技術経験録

※1)～8)はインデックスを付けて紙ファイルに綴じ、9)、10)とともに実習最終日の翌平日に提出する。実習日誌とメモ帳も、併せて提出する。

## 8. その他

- 1) 事前検査について

児童発達支援施設実習前に検便検査（細菌検査）を実施し、結果を提出する。

- 2) 児童発達支援施設実習について

① 施設にてオリエンテーションを受ける時間はないため、事前の成長する演習にて施設概要の説明を受けるとともに、事前に各自調べたことをポートフォリオへ挟んでおく。

② 交通手段等は各自事前に確認する。施設まで車で送迎してもらう学生は、施設や周辺の皆様に迷惑にならないよう所定の場所で乗降し、安全に十分配慮する。藤枝特別支援学校については、徒歩、自転車（校地内では降りて押す）、路線バスのみ可。送迎の学生は藤枝駅の送迎レーンで乗り降りし、周辺道路での乗り降りは一切しないこと。

③ 実習要項・記録用紙・筆記用具・上履き、その他施設毎に指示があった持ち物を持参する。

④ 昼食・飲料は持参する。藤枝特別支援学校については、ペットボトルやコンビニ弁当は不可。水筒や弁当箱へ詰め替え、持参する。

⑤ 実習中の服装は、学校指定のポロシャツ、ジャージ下（華美でないもの）、小児実習用エプロン、上履き（クロックスやナースシューズは不可）、外履き（運動靴とし、クロックスは不可）、防寒は学校指定のカーディガンとする。登下校時は華美でない私服とし、藤枝特別支援学校はスーツとする。

- ⑥ 看護学生としてのマナーとルールを遵守し、施設及び周辺の皆様への影響を考え行動する。
- ⑦ 児童発達支援施設実習の記録は記名したクリアファイルに入れ、病棟実習 1 日目に提出する。
- ⑧ 実習中は、タイミングを見て自分から指導者やスタッフに声をかけ、困ったこと、気づいたこと、気になったことなどについて質問し、助言を得られるよう行動する。日々の体験をその日のうちに意味づけできるように、助言をもとに振り返り、翌日の実習につなげる。

3) 小児実習で使用するエプロンについて

- ① 学校で用意した小児看護実習用のエプロンを使用する。
- ② 病院外実習用、病棟実習用のエプロンをそれぞれ使用する。
- ③ エプロン貸し出し時は、使用簿に氏名を記載し各自責任をもって管理する。
- ④ エプロンには、名札（10×15 cm位の白地生地に黒ペンで、フルネームをひらがなで、子どもが読みやすい大きさで書く）を縫い付ける（アイロン接着はしない）。
- ⑤ 実習終了後は洗濯、アイロンがけをし、次クール実習生が使用できるよう速やかに返却し、使用簿に記入する。
- ⑥ エプロン返却を確認し、グループリーダーは使用簿を実習担当教員へ提出する。

4) 実習記録は楷書で丁寧に、読みやすい字の大きさ、濃さ、間隔で記入する。誤字脱字に注意する。

5) 含嗽、手洗いの実施、不織布マスクの着用をし、実習先の決まりに従い感染予防対策を徹底する。

6) 体調不良時は、実習場へ向かう前に担当教員へ連絡し、相談する。

7) ルーブリックは、該当項目を毎日評価する。状況に応じて、指導者や教員と修正点などについて相談して取り組む。

8) カンファレンス、学びの会は学生が主体となり指導者や師長へ連絡調整し、司会進行する。

9) 小児実習中はユニフォームの学年章を外す。

## VIII. 臨地実習

# 精神看護実習



## 精神看護実習

精神看護実習では、精神科病棟と精神科デイケア、精神科訪問看護において実習する。

精神病院や地域社会で暮らす精神障害を持つ人へ関わり、対象者を「障害や疾患による問題がある人」ではなく、「強みを持つ人」として全人的に捉え、その人の思いや願いに基づき、主体的にその人らしく生活することを可能にする支援と、看護職の役割について学ぶ。

精神科看護では、対象の思いや考えを傾聴し、対象者の目線に立って関わり、パートナーシップを形成すること、そして対象をエンパワメントしていくことが重要となる。対象者と“関わること”そのものが看護実践として大きな意味を持つ。そのために必須となるのは、看護者自身の自己洞察である。対象者との関わりを振り返り、自己洞察（自己のものの見方、価値観、認識の特徴などへの気づき）し、自己の傾向を捉え、対象者との関係性の構築を目指す。

本実習経験から、精神科看護にとどまらず、あらゆる場における精神看護について自己の学びを深めていく。

### 1. 実習目的

精神障害をもつ人へ関わり、その人を全人的に理解し、人間関係を基盤とした看護実践の基本を学ぶ。

### 2. 実習目標

- 1) 対象者に関心を持ち、多角的な視点から「その人」を理解する
- 2) 対象者が、その人らしく主体的に生活していくために必要な援助を考え、実践する
- 3) 対象者への関わりを振り返り、自己洞察を深める
- 4) 精神障害を持つ人が地域で生活するために必要な支援と、看護職の役割を考える
- 5) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢で行動する
- 6) 精神看護実習の体験から、精神看護について自己の学びを深める

### 3. 時間数と単位数

90時間 2単位

- |                |                           |
|----------------|---------------------------|
| 1) 実習オリエンテーション | 2時間 (45×2=90分)            |
| 2) 精神科病棟実習     | 68時間 (10時間×6日間、うち1日間は8時間) |
| 3) 精神科デイケア実習   | 10時間 (1日間)                |
| 4) 就労支援事業所実習   | 10時間 (1日間)                |

### 4. 実習場所

- |           |     |             |                |
|-----------|-----|-------------|----------------|
| 1) 医療法人社団 | 高草会 | 焼津病院        | A病棟・C病棟、デイケア   |
| 2) 医療法人社団 | 凜和会 | 藤枝駿府病院      | 3階病棟・4階病棟、デイケア |
| 3) 社会福祉法人 | 高風会 | 就労継続支援B型事業所 | 漣              |
| 4) 社会福祉法人 | 高風会 | 就労継続支援B型事業所 | 暁              |

## 5. 実習内容・実習方法

看護 実践 力	学習活動	学習内容・方法
ニードを捉える力	①対象者を尊重した姿勢で関わる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者をはじめ、精神障害を持つ人と積極的に関わる。</li> <li>・対象者の人格や権利を尊重した態度で関わり、関係性を築く。</li> <li>・関わりの中で困りや疑問が発生した場合は、実習指導者や看護スタッフ、教員に相談し、早期に解決する。</li> </ul>
	②対象者の全体像を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的、心理的、社会的側面、および生誕から現在に至るまでの人生経験、役割等、さらに今後の生活といった、多角的視点を持ち、それらの関連性を考えながら、受持ち患者の全体像を捉える。</li> <li>・患者自身に限らず、様々な情報源から情報を得て患者を理解する。</li> </ul> <p>*「全体像」用紙に表現する。</p>
	③身体的、心理的、社会的側面から対象者の状況を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みを活用し、受持ち患者の身体的、心理的、社会的側面について、事実（情報）や知識に基づき、根拠を明確にしながらアセスメントする。</li> <li>・アセスメントにおいては、基準値や正常値との比較にとどまらず、受持ち患者の状態や状況を説明し、必要な看護を明らかにする。</li> </ul> <p>*「アセスメントシート」に表現する。</p>
	④対象者の強みを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害を持つ人との関わり、対象者の言動を量的・質的（何が、どのように、どの程度）視点で観察・アセスメントし、健康上の問題とともに、強み（健康的な部分、長所）を捉える。</li> </ul> <p>*「全体像」「アセスメントシート」に表現する。</p>
	⑤対象者のこれまでの人生から、発達課題の達成状況を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受持ち患者の理解を深めるために、生誕から現在までの生育歴、生活歴を捉え、精神に不調をきたした発達段階と、現在の発達段階における発達課題の達成度を、漸性的発達理論（エリクソンまたはヴィーガース</li> </ul>

		トの発達課題)に基づきアセスメントする。 *「発達課題とその達成度」に表現する
	⑥地域で生活する精神障害を持つ人の想いを考察する。	・精神科デイケア、就労継続支援B型事業所の利用者(メンバー)と積極的に関わり、現在の生活における想いや願い等を捉える。さらに、既習の知識を活用し、精神障害を持ちながら地域で暮らす人々の想いについてアセスメントする。 *「施設実習記録」に表現する。
	⑦支援者(家族)のねがいや想いを理解し、支援者への看護を考える。	・受持ち患者や関わる精神障害を持つ人の理解に基づき、支援者の立場に立ち、想いや願い、必要な看護について考察する。 *実習7日目のテーマカンファレンスにおいて意見交換する。さらに、「アセスメントシート」や「カンファレンスレポート」に表現する。
ケアする力	①対象者の「その人らしさ」に基づく看護目標、看護援助を考える。	・受け持ち患者のアセスメントから「その人らしさ」を捉え、本人のねがいのみならず、その人が置かれている状況や今後の生活なども考慮した看護目標を設定する。 ・看護目標は抽象的ではなく、具体的に表現することを心掛ける。 ・受持ち患者に必要な看護は、なぜ必要かその根拠を明確にする。看護の方向性にとどまらず、具体的な援助方法も明らかにする。また、看護学生ができる援助に限定せず考える。 *「必要と考える看護」に表現する
	②対象者の「その人らしさ」や「強み」を活かした援助を行う。	・看護上の問題の解決だけでなく、強み(健康的な部分や長所)をさらに強化する視点でも看護援助を考える。 ・受持ち患者の「その人らしさ」を反映させ、「強み」を活かした援助を計画し実施する。 *「看護実践シート」に表現する。
	③対象者の反応から、自己の実践を評価し、次に活かす。	・看護を実践し、受け持ち患者の反応を捉え、患者にとって効果的であったか、援助の目的は達成されたか、SOAPの思考を用いて自

		<p>己の看護実践を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P（プラン）は具体的に思考し、翌日の実習計画として実践する。</li> </ul> <p>* 「看護実践シート」に表現する。</p>
	④ 自己の傾向を意識し、意図的に対象者へ関わる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者をはじめとした看護の対象者との関わりを振り返る。明らかになった自己の傾向を意識しながら対象者と関わる。その経験を基に、看護者として対象者とよりよい関係性を築くための姿勢や態度、ケアとしての関わりについて学ぶ。</li> </ul>
	⑤ 地域社会で生活する精神障害を持つ人に必要な支援を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科デイケア、就労継続支援B型事業所において、精神障害を持ちながら地域で生活する人々と関わり、地域で暮らす上での問題や困難さ、楽しみや生きがいなどを捉える。それらを基に、精神障害を持つ人が地域社会で生活していくために必要な支援について、保健・医療・福祉の側面から、既習の知識を活用し根拠を明確にして考察する。</li> <li>・保健・医療・福祉各分野において、どのような連携や協働が必要となるのか、自己の考えを表現する。</li> </ul> <p>* 施設実習レポート</p> <p>「精神障害を持つ人が地域社会で生活し続けるために必要な支援を考察する」に自己の考えをまとめる。</p>
協働する力	① 看護チームの一員として情報共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者や看護の対象者の支援に必要な情報について、実習指導者や担当看護師などの看護スタッフへ、患者の状況に応じ適切なタイミングで報告・連絡・相談する。</li> <li>・SOAPの思考を用いて、相手が情報を解釈できるように工夫して報告・連絡・相談をする。</li> </ul>
	② 多職種と情報共有し、より良い援助を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者や看護の対象者の支援を考える上で必要となる情報は、看護スタッフだけでなく、医師、精神保健福祉士（PSW）、作業療法士など、患者や対象者と関わる専門職へ確認する。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援に活かすよう、自分が得た最新の情報を多職種へ提供する。</li> <li>・ 得られた情報を、患者や対象者の理解、看護実践に活かす。</li> <li>・ 多職種と関わる際は、状況を判断し声をかける。迷った場合は指導者や教員に相談する。</li> <li>・ 多職種の方々へ礼節ある態度で関わる。</li> </ul>
意思決定を支える力	① 対象者の言動の真意を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受持ち患者や看護を必要とする対象者との関わりの中で、相手の言動について自分が解釈した内容（気持ち、考え、意志など）＝真意とせず、相手に投げ返し確認しながらコミュニケーションを図る。</li> <li>・ 真意を捉える努力により、対象者の理解を深め、看護実践に活かしていく。</li> </ul> <p>* 「プロセスレコード」 「看護実践シート」 「リフレクションシート」等 必要時、実習記録物の中で振り返り、自己の関わりを評価する。</p>
	② 対象者の自立性と自律性を意識して関わる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受けもち患者や看護を必要とする対象者との関わり、ADLやIADLなどの自立度や、強み（健康的な部分、長所）など、持てる力の理解を踏まえ、その人自身が判断し、自己決定していくことができるように関わる。</li> <li>・ 受持ち患者をはじめ、精神障害を持つ人の尊厳を守る態度と姿勢で関わる。</li> </ul> <p>* 「プロセスレコード」 「看護実践シート」 「リフレクションシート」等 必要時、実習記録物の中で振り返り、自己の関わりを評価する。</p>
振り返る力	① 対象者と関わる際の自己の傾向を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受持ち患者や看護を必要とする対象者との関わりを振り返り、自己の対人関係における傾向や自己の物事に対する枠組みや価値観について明確にできるよう努力する。</li> <li>・ これにより明らかになった自己の傾向を意識して受け持ち患者をはじめとした看</li> </ul>

		<p>護の対象者と関わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ケアする力」ー学習活動④へつなげる。</li> </ul> <p>*「プロセスレコード」 「リフレクションシート」等 実習記録物の中で振り返り、自己洞察する。</p>
	<p>②自己のあり方や関わりが他者に与える影響を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受持ち患者や看護を必要とする対象者のみならず、自己を取り巻くあらゆる人々との関わりを振り返り、相手の反応（言動）から、自己のあり方が与える他者への影響について考察する。</li> <li>・自分の立場の視点から離れ、他者の立場に視座を変換し、自己の言動がどのような意味になっていたのか、今後どのようにしていくことが良いのか考察する。そして、この考察をつぎの関わりに活かしていく。</li> </ul> <p>*「プロセスレコード」 「看護実践シート」 「リフレクションシート」等 必要時、実習記録物の中で振り返り、自己の関わりについて考察し、次に活かす。</p>
	<p>③精神看護における自己の課題を明らかにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科病棟での看護実践、精神科デイケア、就労継続支援 B 型事業所における精神疾患、精神障害を持つ人に対する「精神科看護」の体験を基に、疾患や障害の有無に関わらず、人の心の健康の維持・増進・回復を支援する「精神看護」で重要となることは何かを思考し、自己の課題を明確化する。</li> <li>・課題については、根拠を明確にし、具体的に表現する。</li> </ul> <p>* 実習総括レポート 「精神看護における自己の課題」に表現する。</p>
	<p>①看護学生としてのルールやマナーを意識した行動をとる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人として、社会や実習施設で求められるルールやマナーを守り、礼節ある姿勢や態度で実習をする。</li> <li>・実習施設のルールについては、患者にとっての必要性、重要性を認識し、厳守する。</li> <li>・患者の安全を保障する行動をとる。（施設、危険となり得る物の管理など）</li> <li>・看護学生であっても、看護者の倫理綱領に基づき行動する。</li> </ul>

看護学生としての基本的態度・姿勢	②個人情報を管理し、守秘義務を守る行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 看護者としての自覚を持ち、看護者の倫理綱領に基づき、受持ち患者をはじめ、関わる全ての人の個人情報を適切に管理し、守秘義務を守る。</li> <li>▪ 自分の知り得た情報の管理について疑問が発生した場合は、指導者や教員に相談し、適切に管理する。</li> <li>▪ 実習施設における個人情報管理に関する規約を遵守する。</li> </ul>
	③看護学生として、心身の健康を自己管理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 自分の体質や傾向を理解し、必要に応じ適切に対処し健康管理に努める。</li> <li>▪ 精神科病棟の特徴を踏まえ、看護学生として他者への感染予防に責任を持ち、予防接種を含めた適切な行動をとる。</li> <li>▪ 体調不良の場合は、適切な判断や行動が取れるよう、必要時、実習指導者や教員に報告・連絡・相談をする。</li> </ul>
	④実習メンバーと協同し、実習グループに貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 自分本位に考え利己的にならず、グループメンバーの立場に立ち、お互いにとって最良となるよう行動する。</li> <li>▪ グループメンバー間でコミュニケーションを図り、協力、調整、連携する。</li> <li>▪ 学生間でのカンファレンスなどに積極的に参加し、自らの考えを広げる機会としていく。また、他者からの学びを大切にする。</li> </ul> <p>*「カンファレンスシート」に、カンファレンスによって気づいたこと考えたことを表現する。</p>
	⑤対象者や看護の理解を深めるように取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 学習者として、実習に必要な学習や準備をして臨地実習に臨む。</li> <li>▪ 実習期間中、主体的に学習し、わからないことや疑問をそのままにせず、解決するためにタイムリーに行動する。 (追加学習や指導者・教員へ働きかける。)</li> </ul>

## 6. 実習の動き

1) 実習期間 9日間

2) 実習計画

日数	実習場所	時間	内容	カンファレンス	備考
4月	学内	2	実習オリエンテーション		
1	精神科病棟	10	個人面接 病院・病棟オリエンテーション 受持ち患者決定、情報収集	初日に感じたことを共有する	毎日各自でルーブリックを確認し、評価する。
2	精神科病棟	10	受け持ち患者、病棟患者との関わり	1日の中での気づきを共有	プロセスレコード提出
3	精神科 デイケア 就労継続支援事業所	10	実習施設のプログラムに参加 利用者（メンバー）と関わる	各施設で1日の学びを共有	実習3日目にプロセスレコードを提出
4					
5	精神科病棟	10	看護実践 多職種と情報共有	学生一人ひとりのプロセスレコードを討議する	実習5日目 施設レポート提出 スタッフカンファレンスでは「全体像」「必要とされる看護」用紙を資料として提示
6	精神科病棟	10	看護実践 スタッフカンファレンスで発表 多職種と情報共有		
7	精神科病棟	10	看護実践 スタッフカンファレンスで発表 多職種と情報共有	対象者の家族の心理と支援について考える	
8	精神科病棟	10	看護実践 スタッフカンファレンスで発表 多職種と情報共有	1日の中での気づきを共有	
9	精神科病棟	8	個人面談／学びの整理 実習時間：8：30～15：30	実習による学びを共有する	

\* 精神科デイケア、就労継続支援B型事業所における実習は、グループ人数を2分割し、各施設に分かれて実習する。 実習4日目に、実習施設を反転する。

\* 「スタッフカンファレンス」は、病棟のカンファレンス時間を借用し、受持ち患者と必要と考える看護について病棟スタッフの方々に説明する。患者や看護に関して情報共有し、看護内容を検討する。

\* 「プロセスレコードカンファレンス」は、学生3～4名で学生一人ひとりのプロセスレコードを用いて、自己の傾向について洞察する。

## 7. 提出物

1) 実習ポートフォリオ : 以下の内容の事前学習を行い、臨地実習に臨む。

- (1) 主な精神疾患の病態・症状・治療  
(統合失調症、感情障害(うつ病、双極性気分障害))
- (2) 精神科で行われる主な治療(精神療法、作業療法)
- (3) 抗精神病薬の作用・有害反応とその仕組み
- (4) 退院に向けての支援、地域における生活支援の方法  
(精神科デイケア、就労継続支援事業所の役割・目的 等は必須。)
- (5) 精神障害を持つ人に関わる法・制度

\* (1) ~ (5) は事前課題として、実習初日に提出する。

実習期間中は、実習ポートフォリオ内に随時学習したことを経時的にファイリングし、毎日提出する。タブレットを使用した場合でも、ポートフォリオという形でタブレット内にまとめ、すぐに提示できるようにする。

## 2) 実習記録物

- (1) 実習評価表
- (2) ルーブリック
- (3) 実習総括レポート 『精神看護で大切なことと、自己の課題』
- (4) 全体像
- (5) アセスメントシート(ゴードンの11パターン)
- (6) 発達課題とその達成度
- (7) 必要と考える看護
- (8) プロセスレコード
- (9) 看護実践シート (実習3、4、9日目は無し)
- (10) リフレクションシート(実習3、4、9日目は無し)
- (11) 施設実習記録 (精神科デイケア、就労継続支援B型事業所の2日間)
- (12) 施設実習レポート  
『精神障害を持つ人が地域社会で生活し続けるために必要な支援を考察する』
- (13) カンファレンスシート(実習3、4、9日目は無し)

\* 実習記録物は看護実践するための道具であるため、随時実習指導者や教員に提出し、アドバイスを求める。

\* ルーブリックは、毎日学習活動の到達度を確認し、翌日に向けて課題を明確化するようにする。

## 8. カンファレンス

### 1) 学生カンファレンス

- (1) 毎日のカンファレンスの司会・進行は学生が行う。(約30分程度/回)
- (2) 実習指導者や教員、グループメンバーとテーマ、実施時間などの連絡・調整を図る。

- (3) 実習7日目のカンファレンスは、テーマ『対象者の家族の心理と支援について考える』とする。
- (4) 実施後、グループメンバーとの討議から気付いたこと考えたことを「カンファレンスシート」に記載する。原則、翌日に提出する。
- (5) 実習9日目は、「学びの会」と称し、実習を振り返って学んだことや気付いたことを共有する。(約1時間程度で行う。)

## 2) プロセスレコードカンファレンス

- (1) 実習5・6日目に、学生3～4人ごと2日間に分けて行う。  
プロセスレコードカンファレンスを行う日は、学生によるカンファレンスは行わない。
- (2) プロセスレコードで再構成された関わり場面について討議する。司会は、教員が行う。学生1名につき、約30分のカンファレンスを行う。
- (3) 実習初日・2日目の受持ち患者との関わり場면을、プロセスレコードで再構成し、実習3日目または4日目に教員に必ず提出する。

## 3) スタッフカンファレンス

- (1) 実習6～8日目に病棟スタッフのカンファレンスの場で、受け持ち患者の紹介と患者に必要と考える看護を発表し、アドバイスをいただく。
- (2) 学生の説明は7～10分で行う。その後、意見交換や情報共有を行う。  
1人当たり15～20分程度を目安に行う。
- (3) スタッフカンファレンスで発表する学生は、朝のミーティングの場で実施する旨を病棟スタッフへ伝える。
- (4) 実習記録物「必要と考える看護」を資料として提示する。  
資料の印刷は実習施設内の指定されたコピー機を使用して行う。  
(必要部数＝病棟師長、実習指導者、教員、実習メンバーの半数、当日のスタッフ数)

## 9. 実習施設の約束事

### 1) 精神科病院・病棟

#### (1) 施設の鍵の管理

精神科病院では、病院・病棟内の出入口を施錠している。(藤枝駿府病院は閉鎖病棟) そのため、朝登院したら、施設のカギを借用し、帰りに必ず返却する。紛失しないよう管理には責任を持つ。

#### (2) 服装は、ユニフォーム、白靴下、ナースシューズ

(3) はさみ、カッターナイフといった刃物は病棟内に持ち込まない。また、シャープペン、ボールペンなど、先端が鋭利なものの管理を徹底し、紛失しないように気を付ける。

(4) 患者との関わりで使用する色鉛筆やペンは、使用後は必ず数を確認し、全て回収する。

(5) 防犯ブザーを毎日必ず装着し、有事は躊躇せずブザーを鳴らし、助けを求める。

- (6) 恐怖や困惑など自分が脅かされる状況が生じた場合には、自分で対処せずその場を離れ、看護スタッフ、実習指導者に報告する。
- (7) 精神科病棟における患者の病室、ベッドサイドは、身体科病院の病室とは異なる意味を持つ。  
病室への入室の仕方、ベッドサイドの滞在時間など、状況を考えて行動する。
- (8) 患者を一人受け持つが、病棟の患者すべてと関わるようにする。
- (9) 受持ち患者が参加する作業療法に同行する際には、見学ではなく、共に参加する。作業療法士の方に、活動の目的や受け持ち患者の傾向について尋ねるとよい。
- (10) 施設までの服装は、肌の露出が多い、肌が透ける、ダメージの多いジーンズなど、セクシャルなものを避ける。
- (11) 学生用のお道具箱を用意してある。折り紙、トランプ、画用紙など自由に使用してよい。ただし、実習初日、最終日に物品チェックをする。

## 2) 精神科デイケア

- (1) 8:20に現地へ集合する。(デイケアは、実習病院内に併設している。)
- (2) 服装：①活動しやすい服装  
(ジャージ、ポロシャツ、焼津病院はナースシューズ)  
②名札を付ける。  
③髪をまとめる。(病棟実習と同様)
- (3) 病院の学生室で更衣する。  
(焼津病院のデイケアではナースシューズに履き替える。)
- (4) 持ち物：記録用紙、筆記用具、弁当、飲み物、施設パンフレット  
(トートバックにまとめる)
- (5) 精神科デイケアでは、昼食は利用者の方々と共に食べる。  
(感染症対策のため学生だけで食事をとる場合もある。)
- (6) 実習内容・注意事項
  - ①プログラム中はデイケアスタッフの一員として参加する。
  - ②プログラムの休憩や昼食時に、利用者の方々と積極的にコミュニケーションをとり、デイケアに通いながら生活する人の暮らしや気持ちを知る機会とする。
  - ③メモはスタッフルームで行う。(活動するフロアではメモを取らない。)
  - ④学生同士で固まらない。集団で行動することを極力避ける。
  - ⑤プログラムによって、自己負担費用がかかる場合がある。  
(施設外活動、遠足時など)
  - ⑥プログラムが終了し、利用者(メンバー)が帰宅した後に、学生カンファレンスを行う。

## 3) 就労継続支援B型事業所

- (1) 8:20に現地へ集合する。
- (2) 服装：①活動しやすい服装

(ジーンズでない綿のパンツ (ジャージ禁)、学校指定ポロシャツ)

\* 更衣室はありません。

②上履きを用意する。

③名札を付ける。

④髪をまとめる。(病棟実習と同様)

(3) 持ち物：①記録用紙、筆記用具、弁当、飲み物、施設パンフレット

(4) 事業所では、精神科デイケアでは、昼食は利用者の方々と共に食べる。

(感染症対策のため学生だけで食事をとる場合もある。)

(5) 実習内容・注意事項

①事業所のプログラムに沿って、利用者の方々と共に作業を行う。

②作業中は、作業に支障がない程度にコミュニケーションをとる。休憩時間やや昼食時に、利用者の方々と積極的にコミュニケーションをとり、事業所に通いながら生活する人の生活や気持ちを知る機会とする。

③学生同士で固まらない。集団で行動することを極力避ける。

## Ⅷ. 臨地実習

# 統合実習 I



# 統合実習 I

## はじめに

看護師には、看護の対象者の個別性や状況に応じて看護を実践する能力、看護者として倫理的・法的規範に基づき看護を実践する能力が求められている。さらに、看護実践者としては、組織の一員として看護・医療の提供を効果的・効率的に行うために、看護職・他職種と連携・協働する能力、医療職者として安全な療養環境を整備する能力も必要となる。

本実習では、病院看護組織の活動の実際から看護チームにおけるリーダーシップ、メンバーシップの在り方や、看護管理の意義を考察する。また、医療専門職による多職種連携・協働場面や、医療安全・感染管理といった組織的な活動の見学を通し、組織の一員として看護・医療を効果的に行うためのリーダーシップやマネジメントについて理解を深める。

## 1. 実習目的

看護組織や他職種部門、病院組織全体の医療安全管理室・感染管理室の活動の実際から、看護・医療の提供を効率的・効果的に行うためのリーダーシップやマネジメント（管理）について理解を深め、組織の一員として看護者に求められる能力と自己の課題を明らかにする。

## 2. 実習目標

- 1) 看護チームにおけるリーダー、メンバーの役割と責任を理解し、自己のあり方を考える。
- 2) 看護管理の実際から、組織の一員としての自己のあり方を考える。
- 3) 他職種の職務や役割、責任を理解し、看護職との関連および自職の役割、責任を考える。
- 4) 多職種連携・協働の実際から、効果的なチームワークについて考える。
- 5) 安全な看護・医療提供環境の維持・実現のための活動を知り、自己のあり方を考える。
- 6) 看護学生としての自覚をもって行動する。

## 3. 時間数と単位数

60時間

(オリエンテーション2時間、病院実習10時間×5日、8時間×1日)

2単位

## 4. 実習場所

藤枝市立総合病院  
焼津市立総合病院  
榛原総合病院

## 5. 学習活動・内容・方法

看護実践力	学習活動	学習内容・方法
業務の委譲／移譲と管理監督	他職種とともに活動する。	<p>* 医療専門職に同行し、ともに活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護職以外の医療専門職に同行し、活動の実際を知る。</li> <li>・ 医療専門職の活動や連携・協働の実際を知るとともに、専門職の方々に積極的に関わる。</li> <li>・ 見学やインタビューに基づき、その専門職の役割や責任について理解する。</li> <li>・ 医療専門職の連携・協働場面から、どのように行われているのか、さらに、医療チームにおけるチームワークを高めるために必要となることを明らかにする。</li> <li>・ 他職種と看護職の活動の関連性を考え、他職種や看護職の役割と責任について考察する。</li> <li>・ 他職種の理解につながる知識を事前学習、または追加学習し、ポートフォリオにファイリングする。</li> <li>・ 自己の気づき、学び、考察を日々の記録に表現する。</li> </ul>
組織の一員としての役割発揮	看護チームの一員となって看護を実践する。	<p>* 病棟看護チームのチームメンバー、チームリーダーとともに活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護チームメンバーまたはチームリーダーの役割を担う看護師へ積極的に関わる。</li> <li>・ 看護チームメンバーと共に活動する場合は、看護師とコミュニケーションをとり、主体的に可能な範囲でケアに参加する。</li> <li>・ 看護チーム内で、どのように情報共有がなされているのかを知り、その目的を考察する。</li> <li>・ 看護チーム内での連携・協働の実際から、その目的を考察する。</li> <li>・ チームメンバーとして求められる能力や行動とは何かを考察し、自分自身の課題と解決行動を明らかにする。</li> <li>・ 自己の気づき、学び、考察は、日々の記録に表現する。</li> </ul>
組織の一員としての役割発揮	看護管理者の活動に同行する。	<p>* 病棟の看護管理者（看護師長）に同行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護管理者の活動に同行し、その実際を知る。</li> <li>・ 看護管理者へ積極的に関わり、必要時インタビューする。</li> <li>・ 看護管理者からの話や、見学内容をもとに、看護管理の目的について考察する。</li> <li>・ 実習病院の構造や機能を理解し、看護管理者の活動と併せて、病院組織における看護部の役割を考察する。</li> <li>・ 実習体験に基づき、看護組織の一員としての自己の課題を明らかにする。</li> <li>・ 自己の気づき、学び、考察は、日々の記録に表現する。</li> </ul>

安全な環境の整備	病院組織の医療安全管理、感染管理部門の活動に同行する。	<p>* 医療安全管理室、感染管理室で働く方々に同行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全管理、感染管理部門の実際の活動、臨床における現状と課題を理解する。</li> <li>・ それぞれの部門における活動の目的や意義を考察する。</li> <li>・ 医療安全管理や感染管理において、今後すべき自己の行動を明確にする。</li> <li>・ 病院における医療安全管理、感染管理について事前学習し、予備知識を持ち実習する。</li> <li>・ 自己の気づき、学び、考察は、日々の記録を表現する。</li> </ul>
----------	-----------------------------	---

## 6. 実習のうごき

- 1) 実習期間 R6年 5月31日(金)～6月7日(金)
- 2) 実習計画
  - ① 実習1日目から4日目は、各病棟内で、看護管理者に同行、チームリーダーに同行、チームメンバーと看護実践する実習、医療専門職に同行する実習を1日ずつローテートする。
  - ② 実習5日目は、医療安全管理・感染管理部門に同行実習する。  
(実習施設の状況により、実習日が変更する可能性がある。)
  - ③ 毎日学生カンファレンスを行い、気づきや学びを共有する。
  - ④ 実習6日目は、本実習で知りえた情報や学びを学生同士で共有する。

### 3) 実習スケジュール

日程	実習時間	場所	実習内容				
	2	学内	実習オリエンテーション				
1	10	病院	看護管理者 同行	医療専門職 同行	チームメンバー 同行・実践	チームリーダー 同行	* 毎日、実習内容が同じ学生同士でカンファレンスを実施。
2	10	病院	チームリーダー 同行	看護管理者 同行	医療専門職 同行	チームメンバー 同行・実践	
3	10	病院	チームメンバー 同行・実践	チームリーダー 同行	看護管理者 同行	医療専門職 同行	
4	10	病院	医療専門職 同行	チームメンバー 同行・実践	チームリーダー 同行	看護管理者 同行	
5	10	病院	医療安全管理・感染管理部門 同行				* 毎日、実習グループメンバー間でショートカンファレンスを実施。
6	8 15:30 まで	病院	学びの共有(グループワーク)				

- \* 病棟内実習において、看護管理者・チームリーダー・チームメンバーへの同行は、学生1～2名とする。
- \* 医療専門職への同行に関しては、可能な限り学生1名ずつ異なる職種に同行する。



## Ⅷ. 臨地実習

# 統合実習Ⅱ



## 統合実習Ⅱ

### はじめに

統合実習Ⅱは、3年間の最後に行う実習で、複数患者を受け持ちながら臨床の実務に近い形で学ぶ。看護過程や臨床判断といった看護の思考を用いて、これまでに修得した「ニーズを捉える力」「ケアする力」「協働する力」「意思決定を支える力」「振り返る力」を十分に活用して看護を実践する。その実践を通して、それぞれの患者を尊重し、個別性のある看護を実践するために必要となる看護専門職者としての思考や判断について学ぶ。

また、統合実習Ⅰにおける学びに基づき、看護チームの一員としてメンバーシップを発揮し、医療チームの一員として連携・協働する体験を通して、組織における看護師の在り方について学ぶ。臨床で働く自分を思い描きながら本実習で学び、ディプロマポリシーへの到達を目指す。

### 1. 実習目的

看護チームの一員として複数患者を受け持ち、連携・協働しながら看護を実践する。その実践を通して、看護専門職者としての自己の課題を明確にする。

### 2. 実習目標

- 1) 既習の知識、技術、態度を統合し、看護の思考を用いて患者を理解し、変化に応じた個別性のある看護を実践する。
- 2) 複数患者を同時に受け持ち、それぞれの患者のよりよい看護に向け、状況に応じた判断について学ぶ。
- 3) 看護チームのメンバー役割を担い、看護チームや医療チームにおける連携・協働の実際を学ぶ。
- 4) 組織における看護専門職としての自己の課題を明らかにする。
- 5) 看護師として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

### 3. 時間数と単位数

- 1) 90時間 (1) オリエンテーション 2時間  
(2) 病院実習 88時間
  - ①日勤帯実習 10時間×8日間
  - ②夜勤帯実習 8時間×1日間

- 2) 3単位

### 4. 実習場所

藤枝市立総合病院 ・ 焼津市立総合病院 ・ 榛原総合病院

## 5. 実習内容・実習方法

看護 実践力	学習活動	学習内容・学習方法
ニーズを捉える力	①それぞれの患者の身体的側面における特徴、ニーズを捉え、必要な看護を明らかにする。	<p>その時々患者の身体的側面の状態を捉え、必要な看護を見出す。</p> <p>看護の思考を用いて、収集した情報、データをもとに多面的に患者の身体的特徴、状況をアセスメントし、必要な看護を明らかにする。</p> <p>* 思考の内容・プロセスは、情報整理用紙、日々の実習記録に表現し整理する。</p> <p>* 活用する知識は実習ポートフォリオにファイリングする。</p>
	②それぞれの患者の心理・社会的側面における特徴、ニーズを捉え、必要な看護を明らかにする。	<p>患者のこれまでの人生や患者を取り巻く環境を捉え、心理的側面、社会的側面の特徴をアセスメントする。また、その人らしさを捉え、必要な看護を見出す。</p> <p>看護の思考を用いて、多面的・多角的に心理面や社会的側面をアセスメントする。</p> <p>* 思考の内容・プロセスは、情報整理用紙、日々の実習記録に表現し整理する。</p> <p>* 活用する知識は実習ポートフォリオにファイリングする。</p>
	③それぞれの患者の状況や変化を捉える。	<p>患者の現状を捉えるために必要な情報を精選し、適切な方法を判断し、正しい手技により情報、データを収集する。</p> <p>継続的な観察により、患者の状況、状態をアセスメントし、患者に生じている変化を捉える。</p> <p>* 収集した情報とそれに基づくアセスメントは、情報整理用紙、日々の実習記録などを用いて整理する。</p>
	④夜間の療養環境を知り、患者に与える影響を理解する。	<p>実習4日目の夜間実習において、夜間の生活環境の変化、患者の様子を知り、夜間の療養環境が患者に与える影響を考察する。また、考察した内容を受け持ち患者と関連付け、必要な看護を考え実践につなげる。</p> <p>* 思考のプロセスは、「夜間実習記録」に示し思考を整理する。さらに、日々の実習記録や情報整理用紙も併用し活用する。</p>

<p>ケアする力</p>	<p>①病棟の看護計画をもとに、患者の状況を踏まえた個別性のある看護計画を立案する。</p>	<p>病棟における受け持ち患者それぞれの看護問題、看護計画を把握し、中でも重要と考える看護問題に対して、病棟の看護計画を参考にしながら、患者の状況を踏まえた個別性のある長期目標、看護計画を立案する。</p> <p>日々の患者アセスメントに基づき、長期目標、看護計画について再考する。思考した内容は、看護計画用紙に表現する。</p> <p>看護実践の結果を基に評価し、計画内容を修正していく。評価・修正を看護計画用紙に示していく。</p> <p>*看護計画用紙は、受け持ち患者それぞれに用意する。</p>
	<p>②複数の患者を受け持ちながら、それぞれの患者の状況に応じて随時調整しながら看護援助を実施する。</p>	<p>複数患者の状況を捉え、それぞれの患者の状況に応じた適切な時間、方法を判断し、予定していた援助を随時調整しながら実施する。</p> <p>なぜそのように判断するのか、判断の根拠を明確にする。必要時、実習指導者や看護スタッフに主体的に相談する。実践を日々振り返り、改善策を考え行動を修正していく。</p> <p>*実践内容、振り返りによる自己評価は日々の実習記録に表現し、思考を整理する。</p>
	<p>③複数患者受け持ち、患者一人ひとりの看護実践において重要なことは何か、考察する。</p>	<p>実習体験を振り返り、複数患者を受け持つ中で、それぞれの患者を尊重して看護を実践するために重要なことは何か、自己の考えを明らかにする。</p> <p>自己の体験に限らず、実習全体で体験したことを関連させて考えを深める。</p> <p>*日々の実習記録を活用し、考えを整理し表現する。</p> <p>*実習2日目・7日目のカンファレンスを活用し考察を深める</p>
	<p>④看護援助を安全に実施する。</p>	<p>患者の状況や患者の反応を捉え、看護援助の原理・原則を踏まえた確かな技術により、安全な援助を実施する。</p> <p>実施後の振り返りにより、援助をより良くしていく。</p> <p>*援助計画を別紙に表し、確認・検討・修正する。</p> <p>*参考資料は実習ポートフォリオにファイリングする。</p>
	<p>⑤看護援助を患者の意思や状況に配慮して安楽に実施する。</p>	<p>患者の個別性や状況、患者の意向を考慮し、安楽性を保証した看護援助を計画する。</p> <p>援助場面では、患者の反応を捉え、効果的なコミュニケーションを取りながら、苦痛を最小限にした援助を行う。</p> <p>実施後の振り返りにより、援助をより良くしていく。</p>

ケ ア す る 力		<p>* 援助計画を別紙に表し、安楽性の視点からの留意点を明確にして内容を確認・検討・修正する。</p> <p>* 参考資料は実習ポートフォリオにファイリングする。</p>
	⑥看護処置や診療の補助技術を安全に実施する。	<p>看護処置や診療の補助技術を既習の知識を活用し、原理・原則に基づいて安全にかつ正確に実施する。</p> <p>正確な看護技術を行うため、事前または事後学習を行い、援助計画を立案する。実施後の振り返りにより、援助をより良くしていく。</p> <p>* 援助計画は別紙に立案し、改善策を追加・修正する。</p> <p>* 学習の軌跡はポートフォリオに残す。</p>
	⑦看護処置や診療の補助技術を対象の身体侵襲に配慮して実施する。	<p>看護処置や診療の補助技術実施する際、患者の状況や反応に応じて、効果的なコミュニケーションをとり、患者の身体侵襲による苦痛を最小限にできるように援助を実施する。</p> <p>事前に、援助を実施する際に必要な留意点を明確にする。実施後の振り返りにより、援助をより良くしていく。</p> <p>* 援助計画は別紙に立案し、改善策を追加・修正する。</p> <p>* 学習の軌跡はポートフォリオに残す。</p>
	⑧看護実践を評価し、看護援助を改善する。	<p>看護実践を振り返り、その効果や患者の満足度を確認する。</p> <p>確認した内容に基づき、実践した看護援助を評価する。課題を明確にし、改善策を具体策に考え、次に実践する。</p> <p>* 日々の実習記録を活用し実践を振り返り、思考を整理する。</p> <p>* 看護計画も同様に、評価・修正し、実践していく。</p>
協 働 す る 力	①看護チームの一員として責任ある行動をする。	<p>看護チームの一員として、適切な相手に、適切な時に、必要な情報を報告・連絡・相談する。</p> <p>情報共有や依頼をしながら、チームスタッフと連携し協働する。</p> <p>* 日々の記録の中で、看護チームの一員として重要なことや自己の課題について考察し、行動変容を目指す。</p> <p>* 実習6日目のカンファレンスを活かす。</p>

協働する力	②医療チームの一員として、他職種と受け持ち患者に必要な情報を交換する。	受け持ち患者に関わるカンファレンスなどの場に参加し、関係する情報を収集する。 主体的に他職種へ関わり、患者の看護実践に繋がる情報を収集、または提供する。 得られた情報を患者の看護へ活かす。 * 情報交換した事実や内容を日々の記録や情報整理用紙に整理する。 * 情報によっては、看護計画、援助計画を修正・変更し、実施する。
意思決定を支える力	①患者や家族の今後への思いや考え、希望を確認し、看護援助に反映させる。	患者や家族の今後への思い、考え、希望を主体的かつ意図的に確認する。 確認したことを患者の状況を踏まえて看護援助に活かすよう検討し、実践する。 必要時、実習指導者や看護スタッフへ相談する。
	②複数の患者を受け持ちながら、個人を尊重する看護援助について考察する。	実習体験に基づき、複数患者を受け持つ中で患者一人ひとりを尊重するために必要なことは何か考察する。 自らの課題を踏まえ、今後どのように行動し、取り組む必要があるのか明らかにする。 * 日々の体験・振り返りから考察し、日々の実習記録や総括にて思考を整理・表現する。
振り返る力	①常に自己を振り返り、自己を成長させていく努力をする。	看護者として、一人の人間として成長できるように、常に目標を持ち実習に臨む。 看護実践、学習の仕方、生活の仕方、実習への取り組み姿勢などについて客観的に振り返り、自己の課題や強みを見出す。 不足や課題については具体的な改善策を考え、行動変容を目指す。また、自己の成長や強みも確認し、活かしていく。 * 毎日、ルーブリックを用いて自己評価し、自己の課題と改善策を明確にして実習する。
看護学生	①社会人として、ルールやマナーを守る。	社会人として求められる社会的なルールやマナーを守る。 自己の言動が他者に及ぼす影響を考え、場や状況に適した行動をする。 不足があれば、自己を振り返り、周囲から求められる姿とは何かを考え、行動を修正する。

としての基本的態度・姿勢	②他者を尊重した言動をとる。	患者や家族のみならず、自分を取り巻く全ての人の意思や状況を把握し、常に相手の立場に立ってものごとを考え行動する。 他者を尊重し、配慮ある、倫理的な言動に努める。
	③看護学生として自己の健康管理をする。	自己の体質や傾向を理解し、実習が継続できるように心身ともに健康管理に努める。 生活時間や生活習慣を整え、時間管理をし、計画的に自己学習を進める。 必要に応じて、教員や指導者に相談し助言を求める。 *「臨地実習 健康チェックシート」を活用する。
	④組織の一員である看護専門職としての自己の課題を明確にする。	実習全体での実践を振り返り、組織の一員である看護専門職としての自己の課題を明らかにする。 課題解決に向けた今後の取り組みを具体的に考える。 *実習8日目のカンファレンスを活用し、自己の考えを深める *実習最終日の個人面談や総括で、自己の考えを表現する。

## 6. 実習計画

### 1) 実習日程・内容

日程	実習場所	時間	内 容	カンファレンス テーマ
事前	学内	2	事前実習オリエンテーション	
1日目	病棟	10	オリエンテーション 個人面接 受け持ち患者の決定、情報収集・関わり	
2日目	病棟	10	<b>同行実習</b> 複数患者への看護実践の実際を知る。	実習グループ 複数患者を受け持ち、看護実践するために必要なことについて考える
3日目	病棟	10	複数患者を受け持ち、看護実践する。 看護チームの一員として動く	病棟グループ 自由テーマ（学生が設定）
4日目	病棟	8	<b>夜間実習</b> 11:00~20:00 夜間帯の看護師へ同行 夜間帯における看護の実際を知る。	
5日目	病棟	10	複数患者を受け持ち、看護実践する。 看護チームの一員として動く	実習グループ 夜間の療養環境変化から、夜間における看護の特性を考える
6日目	病棟	10	複数患者を受け持ち、看護実践する。 看護チームの一員として動く	実習グループ 看護チームの一員としての責任を果たすために重要となることを考える
7日目	病棟	10	複数患者を受け持ち、看護実践する。 看護チームの一員として動く	実習グループ 複数患者を受け持ち、それぞれの患者によりよい看護を実践するために重要となることについて考える
8日目	病棟	10	複数患者を受け持ち、看護実践する。 看護チームの一員として動く	実習グループ 組織の一員である看護専門職において必要かつ重要なことについて考える
9日目	病棟	10	個人面談 学びのまとめ・共有	実習グループ 本実習における学びと今後への展望を共有する。

\* 夜間実習 : 実習4日目 11:00~20:00 (休憩時間1時間を含む)

11:00~

前日の受け持ち患者に関する情報収集、受け  
持ち患者とコミュニケーション  
夜間実習オリエンテーション

16:00~20:00 夜間実習

※夜間であるため、帰宅時間は厳守する。

\* 毎日、以下のものを病棟の指定の場所へ提出し、実習指導者および教員の指導を受ける。

① **日々の実習記録** (記録用紙1枚に、受け持ち患者2名分を記載する。)

指定の用紙に日々の実習目標、計画、1日の振り返り、患者のアセスメントなどを記載する。  
自己の振り返りや患者の理解、必要な看護の抽出など、思考を整理していくための道具として  
活用する。

多職種と情報共有した場や内容について記載し、記録に残す。

② **援助計画用紙** (指定の用紙はない。各自で作成する。)

実施する看護援助、看護処置、診療の補助技術を安全・安楽に実施するために、必ず援助方法  
の計画を立案する。実施後は、評価・修正し追記していく。

③ **カンファレンスレポート**

テーマの有無にかかわらず、学生カンファレンスにおける学びをまとめる。

(実習初日・4日目は無し)

カンファレンスにおける意見の要約ではなく、自己の気づきや学びを整理する。

④ **情報整理用紙** (受け持ち患者1名につき1枚)

患者理解と患者への看護を見出す思考過程を、患者1名につきA3用紙1枚に表す。

受け持ち患者の状態、個別性、看護上の問題、必要な看護などを考えるために必要な情報の整  
理、情報と情報の関連付けなどに活用する。記載の形式に関する約束事はない。自由に使用す  
る。

日々の実習記録と関連させながら、看護実践に活用する。

⑤ **看護計画用紙** (受け持ち患者1名につき1枚)

受け持ち患者(2名)の病棟における看護問題を確認する。最も優先度が高く重要と考える看護  
問題・看護計画について、自己の患者アセスメントに基づき、看護計画を立案する。また、患  
者の看護目標(長期目標)も設定する。

看護計画は、病棟の計画を参照にし、個別性を加えていく。結果(S・O)をとらえ、期待され  
る結果について評価(A)し、計画を修正(P)していく。

⑥ **夜間実習記録**

実習4日目に実施する夜間実習時の実習計画、実習内容等記載し、体験したことを意味づけ学  
びをまとめる。(実習4日目 夜間実習では「日々の実習記録」は不要。)

### ⑦ 実習ポートフォリオ

GOAL シートに、自己の看護実践に関する VISION⇒GOAL を明確化し、GOAL に向けて役立つ資料を経時的にファイリングしていく。ファイルポケットには、付箋に動機を記入し、資料等をファイルしていく。

自己の目指す看護実践の GOAL につながるものであれば、何でもファイリングしてよい。

GOAL シートを 1 ページ目にファイリングする。

(実習終了時は、受け持ち患者に実施する看護援助計画もファイリングする。)

### ⑧ ルーブリック

毎日、実習後にルーブリックを確認し、自己の到達度や不足、課題を明確化する。さらに、改善していくための方法を明確にする。必要時、実習指導者や教員に助言を求める。

ルーブリックの各学習活動の評価基準の枠に、自己評価した日付を記載し到達度を確認していく。

## 7. 看護技術の到達度と実施

実習開始前に、必ず「看護技術経験録」を確認し、未経験または経験の少ない看護技術の確認をする。実習 1 日目の個人面接の際、自分が学習したい看護技術について実習指導者および教員に申告する。実習期間中に主体的かつ積極的に経験していく。実施する看護技術については、必ず事前に学習し、物品や方法などについて実習指導者に相談し助言を求める。

## 8. 提出物 (変更の可能性あり。実習オリエンテーションにて提示する。)

### 1) 実習ファイル

- ① GOAL シート
- ② 統合実習評価表
- ③ ルーブリック
- ④ 統合実習総括表
- ⑤ 情報整理用紙 (患者 2 名分 )
- ⑥ 看護計画用紙 (患者 2 名分 )
- ⑦ 夜間実習記録
- ⑧ 日々の実習記録
- ⑨ カンファレンスレポート

### 2) 実習ポートフォリオ (看護援助計画を含む)

### 3) 実習に使用したメモノート



## IX. 實習施設一覽



## Ⅸ. 実習施設一覧

No.	施設名	住所	TEL (FAX)	実習
1	焼津市立総合病院	〒425-8505 焼津市道原1000	623-3111 (624-9103)	基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 成人・老年Ⅰ・Ⅱ 母性 小児 統合Ⅰ・Ⅱ
2	藤枝市立総合病院	〒426-8677 藤枝市駿河台4-1-11	646-1111 (646-1122)	基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 成人・老年Ⅰ・Ⅱ 母性 地域・在宅Ⅰ・Ⅱ 統合Ⅰ・Ⅱ
3	榛原総合病院	〒421-0493 牧之原市細江2887-1	0548-22 - 1131 (0548 - 22 - 6363)	基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 成人・老年Ⅰ・Ⅱ 地域・在宅Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 統合Ⅰ・Ⅱ
4	医療法人 高草会 焼津病院	〒425-0007 焼津市策牛48番地	628-9125 (629-7629)	精神
5	医療法人社団 凜和会 藤枝駿府病院	〒426-0033 藤枝市小石川町2-9-18	641-3788 (641-3786)	精神
6	社会福祉法人 心愛志太 就労継続支援B型事業所 藤枝第二心愛	〒426-0061 藤枝市田沼2-22-12	634-2340 (637-0050)	地域・在宅Ⅰ
7	社会福祉法人 高風会 就労継続支援B型事業所 漣	〒425-0071 焼津市三ヶ名1592-1	626-8902 (626-3595)	地域・在宅Ⅰ 精神
8	社会福祉法人 高風会 就労継続支援B型事業所 暁	〒425-0088 焼津市大覚寺3-1-2	620-9202 (629-6022)	精神
9	静岡県立藤枝特別支援学校	〒426-0067 藤枝市前島2281-1	636-1891 (636-3241)	小児
10	社会福祉法人 富水会 児童発達支援事業所 わかば園	〒426-0063 藤枝市青南町1-12-11	625-8001 (625-8011)	小児
11	社会福祉法人 焼津福祉会 児童発達支援センター・保育所等訪問支援 ほぶら	〒425-0088 焼津市大覚寺3-2-1	627-0600 (627-0635)	小児
12	社会福祉法人 焼津福祉会 児童発達支援 色えんぴつ	〒425-0071 焼津市三ヶ名1058-1	639-9888 (626-2871)	小児
13	焼津市保健センター	〒425-0035 焼津市東小川1-8-1	627-4111 (627-9960)	地域・在宅Ⅱ
14	藤枝市保健センター	〒426-0078 藤枝市南駿河台1-14-1	645-1111 (645-2122)	地域・在宅Ⅱ
15	医療法人 沖縄徳洲会 訪問看護ステーション わかば	〒421-0493 牧之原市細江2887-1	0548-22-9692 (0548-22-9726)	地域・在宅Ⅰ・Ⅲ
16	医療法人 志太会 志太訪問看護ステーション（三輪医院）	〒421-1131 藤枝市岡部町内谷60-2	667-3730 (667-3740)	地域・在宅Ⅰ・Ⅲ
17	社会医療法人 駿甲会 焼津北訪問看護ステーション	〒421-0216 焼津市相川577-1	664-0011 (625-8564)	地域・在宅Ⅰ・Ⅲ
18	株式会社 訪問看護ステーション スポット	〒426-0011 藤枝市平島114-11	646-0367	地域・在宅Ⅰ・Ⅲ
19	訪問看護ステーション 池ちゃん家	〒425-0077 焼津市五ヶ堀之内530-3	620-5556	地域・在宅Ⅰ・Ⅲ
20	一般社団法人 焼津市医師会 訪問看護ステーション	〒425-0036 焼津市西小川5丁目6番地の3	620 - 8278	地域・在宅Ⅲ
21	訪問看護・リハビリステーション 寿丸	〒425-0036 焼津市西7-2-1	625-8241 (625-8234)	地域・在宅Ⅰ
22	社会福祉法人 藤枝市社会福祉協議会 訪問看護ステーションふじえだ	〒426-0075 藤枝市瀬戸新屋83-6	643-3524 (643-3544)	地域・在宅Ⅰ・Ⅲ
23	医療法人社団 凜和会 フォレストアーツ 訪問看護ステーション	〒426-0033 藤枝市小石川町2-9-18	647-3833 (647-3831)	地域・在宅Ⅰ

No.	施設名	住所	TEL (FAX)	実習
24	社会福祉法人 藤枝市社会福祉協議会 藤枝市地域包括支援センター (安心すこやかセンター)	〒426-0075 藤枝市瀬戸新屋83-6	643-3526	地域・在宅Ⅱ・Ⅲ
25	社会福祉法人 正生会 焼津市南部地域包括支援センター	425-0045 焼津市祢宜島555	656-3322	地域・在宅Ⅱ・Ⅲ
26	社会福祉法人 焼津市社会福祉協議会 焼津市北部地域包括支援センター	〒425-0088 焼津市大覚寺3-2-2	626-3219	地域・在宅Ⅱ・Ⅲ
27	社団法人 焼津市医師会 焼津市中部地域包括支援センター	〒425-0036 焼津市西小川5丁目6-2	626-8811	地域・在宅Ⅱ・Ⅲ
28	社会福祉法人 焼津市社会福祉協議会 焼津市大井川地域包括支援センター	〒421-0205 焼津市宗高572-1	664-2700	地域・在宅Ⅱ・Ⅲ
29	医療社団法人 聖稜会 介護老人保健施設 グリーンヒルズ藤枝	〒426-0133 藤枝市宮原420-1	639-1212	地域・在宅Ⅱ
30	社会福祉法人 葉月会 藤枝市地域包括支援センター 亀寿の郷	〒421-1131 藤枝市岡部町内谷1334-4	667-5001 (667-2229)	地域・在宅Ⅱ・Ⅲ
31	社会福祉法人 富水会 藤枝市地域包括支援センター 第2開寿園	〒426-0063 藤枝市青南町1丁目12-13	634-0232 (636-7202)	地域・在宅Ⅲ
32	西焼津看護小規模多機能ホーム 池ちゃん家	〒425-0077 焼津市五ヶ堀之内530-3	620-5556 (620-5524)	地域・在宅Ⅰ
33	小規模多機能ホーム 池ちゃん家 焼津	〒425-0073 焼津市小柳津638-4	625-9820 (625-9830)	地域・在宅Ⅰ
34	小規模多機能ホーム 池ちゃん家 藤枝	〒426-0230 藤枝市下之郷1-1	648-1923 (648-1924)	地域・在宅Ⅰ
35	社会医療法人 駿甲会 小規模多機能型居宅介護施設 コミュニティービレッジ 下小田	〒425-0041 焼津市石津202番地 コミュニティービレッジC棟	656-3777 (625-2279)	地域・在宅Ⅰ
36	医療法人社団 正心会 居宅介護支援事業所 ケアセンターゆうゆう	〒425-0025 焼津市田尻4番地	625-0333	地域・在宅Ⅱ
37	医療法人 志太会 三輪医院 居宅介護支援センター	〒421-1131 藤枝市岡部町内谷60-2	667-3122	地域・在宅Ⅱ
38	社会福祉法人 藤枝市社会福祉協議会 指定居宅介護支援事業所	〒426-0075 藤枝市瀬戸新屋83-6	643-3511	地域・在宅Ⅱ
39	社会福祉法人 三愛会 居宅介護支援事業所 愛華の郷	〒426-0044 藤枝市大東町58番地	634-1131	地域・在宅Ⅱ
40	社会福祉法人 葉月会 居宅介護支援事業所 亀寿の郷	〒421-1131 藤枝市岡部町内谷1334-4	667-5001 (667-2229)	地域・在宅Ⅱ
41	居宅介護支援事業所 ココケア	〒426-0037 藤枝市青木2丁目18番3号 青木ビル2F	639-7686 (639-7687)	地域・在宅Ⅱ
42	医療法人社団 平成会 ベストサポート	〒426-0075 藤枝市瀬戸新屋487番地の2	643-5065 (643-3602)	地域・在宅Ⅱ
43	株式会社 権兵衛 居宅介護支援事業所 ごんべえ	〒425-0036 静岡県焼津市西小川7丁目2-1	625-8231 (625-8234)	地域・在宅Ⅱ
44	医療法人社団 正心会 岡本石井病院 居宅介護支援事業所	〒425-0031 焼津市小川新町5丁目2番3号	626-6007 (627-6007)	地域・在宅Ⅱ
45	社会医療法人 駿甲会 コミュニティーホスピタル 甲賀病院	〒425-0088 焼津市大覚寺2丁目30-1	628-5500	地域・在宅Ⅱ
46	医療法人社団 聖稜会 聖稜リハビリテーション病院	〒426-0133 藤枝市宮原676-1	639-0112	地域・在宅Ⅱ
47	医療法人社団 正心会 岡本石井病院 地域連携室	〒425-0031 焼津市小川新町5丁目2番3号	628-0080 (628-0008)	地域・在宅Ⅱ
48	医療法人社団 鈴木レディースクリニック	〒426-0051 藤枝市大洲4丁目7-15	636-5511	母性

No.	施設名	住所	TEL (FAX)	実習
49	医療法人社団 安津会 前田産科婦人科医院	〒425-0076 焼津市小屋敷214-1	626-8603	母性
50	いしかわレディースクリニック	〒426-0011 藤枝市平島70-1	643-0311	母性
51	助産院 ほほえみハウス	〒436-0031 掛川市高御所1652	0537-29-5512	母性
52	くさの助産院	〒420-0913 市葵区瀬名川3-14-13	262-4979	母性





